

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	研究科等連係課程実施基本組織の設置（研究科の設置）							
フリガナ設置者	コクリツダイガクホウジンヒロシマダイガク 国立大学法人広島大学							
フリガナ大学の名称	ヒロシマダイガクダイガクイン 広島大学大学院（Graduate School of Hiroshima University）							
大学本部の位置	広島県東広島市鏡山一丁目3番2号							
大学の目的	<p>「自由で平和な一つの大学」という建学の精神を継承し、次に掲げる理念に基づき、未来を担う有能な人材を養成するとともに学術を継承・発展させ、もって地域社会及び国際社会の発展に貢献するものとする。</p> <p>(1) 平和を希求する精神 (2) 新たな知の創造 (3) 豊かな人間性を培う教育 (4) 地域社会・国際社会との共存 (5) 絶えざる自己変革</p>							
新設学部等の目的	既存の学問分野をSociety 5.0の概念に沿って系統的で戦略的に融合させたスマートソサイエティ実践科学を創出し、教育課程で学修した実践知と融合知を駆使して国際社会が直面する多様な社会的課題を解決する実践リーダーと、スマートソサイエティ実践科学を創出し、普及・牽引する革新的研究者を養成する。							
新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	取容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	14条特例の実施 学位の分野： 経済学関係 工学関係 農学関係 医学関係 保健衛生学関係 （看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）
〔研究科等連係課程実施基本組織〕 スマートソサイエティ実践科学研究院 （博士課程前期） [Graduate School of Innovation and Practice for Smart Society] 〔連係協力研究科等〕（I） 人間社会科学研究科 [Graduate School of Humanities and Social Sciences]	年	人	年次人	人	修士（学術） 【Master of Philosophy】	令和5年4月 第1年次	東広島市鏡山一丁目5番1号 東広島市鏡山一丁目4番1号 東広島市鏡山一丁目4番4号 広島市南区霞一丁目2番3号	

人文社会科学専攻 (博士課程前期) [Division of Humanities and Social Sciences]	2	257	—	514	修士 (文学) 【Master of Arts】 修士 (心理学) 【Master of Psychology】 修士 (法学) 【Master of Laws】 修士 (経済学) 【Master of Economics】 修士 (マネジメン ト) 【Master of Management Sciences】 修士 (経営学) 【Master of Business Administration】 修士 (国際協力学) 【Master of International Cooperation Studies】 修士 (学術) 【Master of Philosophy】	令和2年4月 第1年次	東広島市鏡山一丁目2 番3号	学位の分野： 文学関係 法学関係 経済学関係 社会学・社会福 祉学関係
人文社会科学専攻(博士 課程前期)からスマート ソサイエティ実践科学 研究院(博士課程前期) の内数とする入学定員 数		15	—	30				
【連係協力研究科等】(Ⅱ) 先進理工系科学研究科 [Graduate School of Advanced Science and Engineering]							東広島市鏡山一丁目4 番1号	
先進理工系科学専攻 (博士課程前期) [Division of Advanced Science and Engineering]	2	449	—	898	修士 (理学) 【Master of Science】 修士 (工学) 【Master of Engineering】 修士 (情報科学) 【Master of Informatics and Data Science】 修士 (国際協力学) 【Master of International Cooperation Studies】 修士 (学術) 【Master of Philosophy】	令和2年4月 第1年次		学位の分野： 理学関係 工学関係
先進理工系科学専攻(博士 課程前期)からスマート ソサイエティ実践科学 研究院(博士課程前期) の内数とする入学定 員数		13	—	26				
【連係協力研究科等】(Ⅲ) 統合生命科学研究科 [Graduate School of Integrated Sciences for Life]							東広島市鏡山一丁目4 番4号 東広島市鏡山一丁目3 番1号 東広島市鏡山一丁目7 番1号	
統合生命科学専攻 (博士課程前期) [Division of Integrated Sciences for Life]	2	170	—	340	修士 (理学) 【Master of Science】 修士 (工学) 【Master of Engineering】 修士 (農学) 【Master of Agriculture】 修士 (学術) 【Master of Philosophy】	平成31年4月 第1年次		学位の分野： 理学関係 工学関係 農学関係

新設学部等の概要	<p>統合生命科学専攻(博士課程前期)からスマートソサイエティ実践科学研究院(博士課程前期)の内数とする入学定員数</p> <p>【連携協力研究科等】(IV) 医系科学研究科 [Graduate School of Biomedical and Health Sciences]</p> <p>総合健康科学専攻(博士課程前期) [Division of Integrated Health Sciences]</p> <p>総合健康科学専攻(博士課程前期)からスマートソサイエティ実践科学研究院(博士課程前期)の内数とする入学定員数</p>	6	—	12			広島市南区霞一丁目2番3号	
	2	76	—	152	<p>修士(医科学) 【Master of Medical Science】 修士(歯科学) 【Master of Dental Science】 修士(公衆衛生学) 【Master of Public Health】 修士(薬科学) 【Master of Medicinal Science】 修士(看護学) 【Master of Science in Nursing】 修士(保健学) 【Master of Health Science】 修士(口腔健康科学) 【Master of Oral Health Science】 修士(学術) 【Master of Philosophy】</p>	平成31年4月 第1年次		<p>学位の分野： 医学関係 歯学関係 薬学関係 保健衛生学関係(看護学関係) 保健衛生学関係(リハビリテーション関係) 保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)</p>
	2		—	4				
	<p>【研究科等連携課程実施基本組織】 スマートソサイエティ実践科学研究院(博士課程後期) [Graduate School of Innovation and Practice for Smart Society]</p> <p>【連携協力研究科等】(I) 人間社会科学研究科 [Graduate School of Humanities and Social Sciences]</p>	3	17	—	51	令和5年4月 第1年次	<p>東広島市鏡山一丁目5番1号 東広島市鏡山一丁目4番1号 東広島市鏡山一丁目4番4号 広島市南区霞一丁目2番3号</p>	<p>14条特例の実施</p> <p>学位の分野： 経済学関係 工学関係 農学関係 医学関係 保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)</p>

人文社会科学専攻 (博士課程後期) [Division of Humanities and Social Sciences]	3	85	—	255	博士 (文学) 【Doctor of Philosophy in Humanities】 博士 (心理学) 【Doctor of Philosophy in Psychology】 博士 (法学) 【Doctor of Philosophy in Laws】 博士 (経済学) 【Doctor of Philosophy in Economics】 博士 (マネジメン ト) 【Doctor of Philosophy in Management Sciences】 博士 (経営学) 【Doctor of Philosophy in Business Administration】 博士 (国際協力学) 【Doctor of Philosophy in International Cooperation Studies】 博士 (学術) 【Doctor of Philosophy】	令和2年4月 第1年次	東広島市鏡山一丁目2 番3号	学位の分野： 文学関係 法学関係 経済学関係 社会学・社会福 祉学関係
人文社会科学専攻(博士 課程後期)からスマート ソサイエティ実践科学 研究院(博士課程後期) の内数とする入学定員 数 【連携協力研究科等】(Ⅱ) 先進理工系科学研究科 [Graduate School of Advanced Science and Engineering]		3	—	9			東広島市鏡山一丁目4 番1号	
先進理工系科学専攻 (博士課程後期) [Division of Advanced Science and Engineering]	3	128	—	384	博士 (理学) 【Doctor of Philosophy in Science】 博士 (工学) 【Doctor of Philosophy in Engineering】 博士 (情報科学) 【Doctor of Philosophy in Informatics and Data Science】 博士 (国際協力学) 【Doctor of Philosophy in International Cooperation Studies】 博士 (学術) 【Doctor of Philosophy】	令和2年4月 第1年次		学位の分野： 理学関係 工学関係
先進理工系科学専攻(博 士課程後期)からスマー トソサイエティ実践科 学研究院(博士課程後 期)の内数とする入学定 員数 【連携協力研究科等】(Ⅲ) 統合生命科学研究科 [Graduate School of Integrated Sciences for Life]		7	—	21			東広島市鏡山一丁目4 番4号 東広島市鏡山一丁目3 番1号 東広島市鏡山一丁目7 番1号	

	統合生命科学専攻 (博士課程後期) [Division of Integrated Sciences for Life]	3	70	—	210	博士 (理学) 【Doctor of Philosophy in Science】 博士 (工学) 【Doctor of Philosophy in Engineering】 博士 (農学) 【Doctor of Philosophy in Agriculture】 博士 (学術) 【Doctor of Philosophy】	平成31年4月 第1年次		学位の分野： 理学関係 工学関係 農学関係
	統合生命科学専攻(博士 課程後期)からスマート ソサイエティ実践科学 研究院(博士課程後期) の内数とする入学定員 数		6	—	18				
	【連携協力研究科等】(IV) 医系科学研究科 [Graduate School of Biomedical and Health Sciences]							広島市南区霞一丁目2 番3号	
	総合健康科学専攻 (博士課程後期) [Division of Integrated Health Sciences]	3	25	—	75	博士 (医科学) 【Doctor of Philosophy in Medical Science】 博士 (歯科学) 【Doctor of Philosophy in Dental Science】 博士 (薬科学) 【Doctor of Philosophy in Medicinal Science】 博士 (看護学) 【Doctor of Philosophy in Nursing】 博士 (保健学) 【Doctor of Philosophy in Health Science】 博士 (口腔健康 科学) 【Doctor of Philosophy in Oral Health Science】 博士 (学術) 【Doctor of Philosophy】	平成31年4月 第1年次		学位の分野： 医学関係 歯学関係 薬学関係 保健衛生学関係 (看護学関係) 保健衛生学関係 (リハビリテー ション関係) 保健衛生学関係 (看護学関係及 びリハビリテー ション関係を除 く。)
	総合健康科学専攻(博士 課程後期)からスマート ソサイエティ実践科学 研究院(博士課程後期) の内数とする入学定員 数		1	—	3				
	計		—	—	—				
同一設置者内における変 更 状 況 (定員の移行, 名称の変 更 等)		入学定員を令和5年4月に移行予定 教育学部第一類(学校教育系) 【定員減】 (△20) 情報科学部情報科学科 【定員増】 (20) 令和4年4月 魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増申請(同年6月選定) 情報科学部情報科学科 【定員増】 (50) 令和4年8月頃 地域の医師確保のための定員増 申請予定 医学部医学科 【定員増】 (13)							
教育 課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	スマートソサイエティ 実践科学研究院 (博士 課程前期)	56科目	11科目	2科目	69科目	30単位			
	スマートソサイエティ 実践科学研究院 (博士 課程後期)	6科目	6科目	2科目	14科目	17単位			

教 員 組 の 概	学 部 等 の 名 称	専任教員等						兼 任 教 員 等	(注) ＜＞の中の数 は、研究科等連 係課程実施基本 組織のみに従事 する専任教員。 【】の中の数 は、研究科等連 係課程実施基本 組織と関係協力 研究科等に従事 する専任教員。
		教授	准教授	講師	助教	計	助手		
新 設	【研究科等関係課程実施基本組織】 スマートソサイエティ実践科学研究院 (博士課程前期)	<1> 【22】 (23)	<0> 【19】 (19)	<0> 【0】 (0)	<0> 【2】 (2)	<1> 【43】 (44)	<0> 【0】 0	67 (67)	
	【関係協力研究科等】(Ⅰ) 人間社会科学研究科人文社会科学専攻 (博士課程前期)								
	【関係協力研究科等】(Ⅱ) 先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻 (博士課程前期)								
設	【研究科等関係課程実施基本組織】 スマートソサイエティ実践科学研究院 (博士課程後期)	<1> 【19】 (20)	<0> 【19】 (19)	<0> 【0】 (0)	<0> 【0】 (0)	<1> 【38】 (39)	<0> 【0】 0	26 (26)	
	【関係協力研究科等】(Ⅰ) 人間社会科学研究科人文社会科学専攻 (博士課程後期)								
	【関係協力研究科等】(Ⅱ) 先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻 (博士課程後期)								
分	計	23 (23)	19 (19)	0 (0)	2 (2)	44 (44)	0 (0)	— (—)	
既 設	人間社会科学研究科人文社会科学専攻 (博士課程前期)	71 【3】 (90)	102 【4】 (104)	4 【0】 (4)	28 【0】 (28)	205 【7】 (226)	0 【0】 (0)	229 (229)	
	人間社会科学研究科人文社会科学専攻 (博士課程後期)	73 【2】 (105)	86 【4】 (91)	3 【0】 (3)	6 【0】 (7)	168 【6】 (206)	0 【0】 (0)	52 (52)	
	人間社会科学研究科教育科学専攻 (博士 課程前期)	44 (59)	58 (59)	8 (8)	7 (7)	117 (133)	0 (0)	101 (101)	
	人間社会科学研究科教育科学専攻 (博士 課程後期)	42 (62)	57 (58)	3 (3)	0 (0)	102 (123)	0 (0)	63 (63)	
	人間社会科学研究科教職開発専攻 (専門 職学位課程)	6 (6)	11 (11)	2 (2)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	107 (107)	
	人間社会科学研究科実務法学専攻 (専門 職学位課程)	14 (14)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	95 (95)	
	人間社会科学研究科広島大学・グラーツ 大学国際連携サステイナビリティ学専攻 (修士課程)	6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	60 (60)	
	先進理工系科学研究科先進理工系科学専 攻 (博士課程前期)	128 【10】 (149)	131 【13】 (133)	3 【0】 (3)	99 【1】 (101)	361 【24】 (386)	0 【0】 (0)	134 (134)	
	先進理工系科学研究科先進理工系科学専 攻 (博士課程後期)	114 【10】 (141)	124 【13】 (128)	2 【0】 (3)	32 【0】 (36)	272 【23】 (308)	0 【0】 (0)	69 (69)	
	先進理工系科学研究科広島大学・ライブ ツィヒ大学国際連携サステイナビリティ 学専攻 (修士課程)	5 (5)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	60 (60)	
	統合生命科学研究科統合生命科学専攻 (博士課程前期)	40 【4】 (49)	48 【2】 (51)	5 【0】 (5)	37 【1】 (39)	130 【7】 (144)	0 【0】 (0)	191 (191)	
	統合生命科学研究科統合生命科学専攻 (博士課程後期)	29 【4】 (40)	32 【2】 (36)	4 【0】 (4)	12 【0】 (16)	77 【6】 (96)	0 【0】 (0)	63 (63)	
	医系科学研究科歯薬学専攻 (博士課 程)	52 (71)	31 (33)	17 (18)	50 (51)	150 (173)	0 (0)	135 (135)	

要	分	医系科学研究科総合健康科学専攻（博士課程前期）	88 【5】 (99)	37 【0】 (38)	19 【0】 (20)	53 【0】 (54)	197 【5】 (211)	0 【0】 (0)	142 (142)
		医系科学研究科総合健康科学専攻（博士課程後期）	35 【3】 (42)	10 【0】 (10)	4 【0】 (4)	12 【0】 (12)	61 【3】 (68)	0 【0】 (0)	124 (124)
		計	419 (494)	392 (401)	52 (53)	246 (251)	1109 (1199)	0 (0)	— (—)
合計		23 (23)	19 (19)	0 (0)	2 (2)	44 (44)	0 (0)	— (—)	
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		515 (515)		923 (923)		1,438 (1,438)		
	技 術 職 員		1,185 (1,185)		237 (237)		1,422 (1,422)		
	図 書 館 専 門 職 員		23 (23)		0 (0)		23 (23)		
	そ の 他 の 職 員		5 (5)		315 (315)		320 (320)		
計		1,728 (1,728)		1,475 (1,475)		3,203 (3,203)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地	951,632㎡	0㎡		0㎡		951,632㎡		
	運 動 場 用 地	244,009㎡	0㎡		0㎡		244,009㎡		
	小 計	1,195,641㎡	0㎡		0㎡		1,195,641㎡		
	そ の 他	1,134,377㎡	0㎡		0㎡		1,134,377㎡		
合 計		2,330,018㎡	0㎡		0㎡		2,330,018㎡		
校 舎		専 用	共 用		共用する他の学校等の専用		計		
		516,466㎡ (516,466㎡)	0㎡ (0㎡)		0㎡ (0㎡)		516,466㎡ (516,466㎡)		
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		大学全体		
	207室	368室	1,438室	10室 (補助職員 19人)	7室 (補助職員 18人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数				
		スマートソサイエティ実践科学研究院			44 室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位で特定 不能なため、申 請大学全体の数	
	大学全体	3,460,673 [1,290,310] (3,460,673 [1,290,310])	59,366 [24,323] (59,366 [24,323])	5,723 [5,717] (5,723 [5,717])	5,034 (5,034)	15,276 (15,276)	133 (133)		
	計	3,460,673 [1,290,310] (3,460,673 [1,290,310])	59,366 [24,323] (59,366 [24,323])	5,723 [5,717] (5,723 [5,717])	5,034 (5,034)	15,276 (15,276)	133 (133)		
図 書 館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数				
		26,967㎡	2,369席		3,022,083冊				
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
		11,384㎡	野球場、陸上競技場、サッカー・ラグビー場 外						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
		教員1人当り研究費等							
		共同研究費等							
		図書購入費							
	設備購入費								
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

大 学 の 名 称		広島大学						
学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
総合科学部						1.06		広島県東広島市鏡山一丁目7番1号
総合科学科	4	120	—	480	学士(総合科学)	1.06	昭49	
国際共創学科	4	40	—	160	学士(総合科学)	1.05	平30	
文学部						1.05		広島県東広島市鏡山一丁目2番3号
人文学科	4	130	3年次10	540	学士(文学)	1.05	平9	
教育学部						1.02		広島県東広島市鏡山一丁目1番1号
第一類(学校教育系)	4	157	—	628	学士(教育学)	1.01	平12	
第二類(科学文化教育系)	4	82	—	328	学士(教育学)	1.01	平12	
第三類(言語文化教育系)	4	73	—	292	学士(教育学)	1.01	平12	
第四類(生涯活動教育系)	4	81	—	324	学士(教育学)	1.03	平12	
第五類(人間形成基礎系)	4	52	—	208	学士(教育学) 学士(心理学)	1.06	平12	
法学部						1.05		広島県東広島市鏡山一丁目2番1号
法学科(昼間コース)	4	140	3年次10	580	学士(法学)	1.04	平7	
(夜間主コース)	4	30	3年次10	140	学士(法学)	1.06	平7	広島県広島市中区東千田町一丁目1番89号
経済学部						1.03		広島県東広島市鏡山一丁目2番1号
経済学科(昼間コース)	4	150	3年次5	610	学士(経済学)	1.04	平7	
(夜間主コース)	4	45	3年次5	190	学士(経済学)	1.01	平7	広島県広島市中区東千田町一丁目1番89号
理学部						1.02		広島県東広島市鏡山一丁目3番1号
数学科	4	47	3年次 10	188	学士(理学)	1.03	昭24	
物理学科	4	66		264	学士(理学)	1.00	平10	
化学科	4	59		236	学士(理学)	1.03	昭24	
生物科学科	4	34		136	学士(理学)	1.06	平5	

地球惑星システム学科	4	24	1)	96	学士(理学)	1.04	平4		
医学部						1.00		広島県広島市南区霞一丁目2番3号	6年制学科
						1.03			4年制学科
医学科	6	118	—	714	学士(医学)	1.00	昭28		
保健学科	4	120	—	480		1.03			
看護学専攻	4	60	—	240	学士(看護学)	1.04	平4		
理学療法学専攻	4	30	—	120	学士(保健学)	1.03	平4		
作業療法学専攻	4	30	—	120	学士(保健学)	1.03	平4		
歯学部						1.00		広島県広島市南区霞一丁目2番3号	6年制学科
						1.01			4年制学科
歯学科	6	53	—	318	学士(歯学)	1.00	昭40		
口腔健康科学科	4	40	—	160		1.01			
口腔保健学専攻	4	20	—	80	学士(口腔健康科学)	1.01	平21		
口腔工学専攻	4	20	—	80	学士(口腔健康科学)	1.02	平21		
薬学部						1.03		広島県広島市南区霞一丁目2番3号	6年制学科
						1.06			4年制学科
薬学科	6	38	—	228	学士(薬学)	1.03	平18		
薬科学科	4	22	—	88	学士(薬科学)	1.06	平18		
工学部						1.03		広島県東広島市鞆山一丁目4番1号	
第一類(機械システム工学系)	4	—	—	—	学士(工学)	—	平13		平成30年度より 学生募集停止
第二類(電気・電子・システム・情報系)	4	—	—	—	学士(工学)	—	平13		平成30年度より 学生募集停止
第四類(建設・環境系)	4	—	—	—	学士(工学)	—	平13		平成30年度より 学生募集停止
第一類(機械・輸送・材料・エネルギー系)	4	150	3年次5	610	学士(工学)	1.02	平30		
第二類(電気電子・システム情報系)	4	90	3年次3	366	学士(工学)	1.04	平30		
第三類(応用化学・生物工学・化学工学系)	4	115	3年次4	468	学士(工学)	1.00	平13		
第四類(建設・環境系)	4	90	3年次3	366	学士(工学)	1.05	平30		

生物生産学部						1.06		広島県東広島市鏡山一丁目4番4号
生物生産学科	4	90	3年次10	380	学士(農学)	1.06	昭54	
情報科学部						1.07		広島県東広島市鏡山一丁目4番1号
情報科学科	4	80	3年次5	330	学士(情報科学)	1.07	平30	
人間社会科学部								
人文社会科学専攻 (博士課程)	前期2	257	—	514	修士(文学) 修士(心理学) 修士(法学) 修士(経済学) 修士(経営学) 修士(マネジメント) 修士(国際協力学)	0.73	令和2	広島県東広島市鏡山一丁目2番3号
	後期3	85	—	255	博士(文学) 博士(心理学) 博士(法学) 博士(経済学) 博士(経営学) 博士(マネジメント) 博士(国際協力学)	0.67	令和2	
教育科学専攻 (博士課程)	前期2	163	—	326	修士(教育学) 修士(教育心理学) 修士(国際協力学)	0.94	令和2	広島県東広島市鏡山一丁目1番1号
	後期3	50	—	150	博士(教育学) 博士(教育心理学) 博士(国際協力学)	1.16	令和2	
教職開発専攻 (専門職学位課程)	専2	30	—	60	教職修士(専門職)	1.01	令和2	広島県東広島市鏡山一丁目1番1号
実務法学専攻 (専門職学位課程)	専3	20	—	60	法務博士(専門職)	0.88	令和2	広島県広島市中区東千田町一丁目1番89号
広島大学・グラーツ 大学国際連携サステイ ナビリティ学専攻	修2	2	—	4	修士(学術)	1.00	令和2	広島県東広島市鏡山一丁目5番1号

入学時期：10月

(修士課程)									
先進理工系科学研究科									
先進理工系科学専攻 (博士課程)	前期2	449	—	898	修士(理学) 修士(工学) 修士(情報科学) 修士(国際協力学)	1.17	令和2	広島県東広島市鏡山一丁目4番1号	入学時期：10月
	後期3	128	—	384	修士(学術) 博士(理学) 博士(工学) 博士(情報科学) 博士(国際協力学)	0.74	令和2		
広島大学・ライブ ツイヒ大学国際連携サ ステイナビリティ学専攻 (修士課程)	修2	2	—	4	博士(学術) 修士(学術)	1.00	令和2		
統合生命科学研究所									
統合生命科学専攻 (博士課程)	前期2	170	—	340	修士(理学) 修士(工学) 修士(農学) 修士(学術)	1.01	平31	広島県東広島市鏡山1丁目4番4号 広島県東広島市鏡山1丁目3番1号 広島県東広島市鏡山1丁目7番1号	
	後期3	70	—	210	博士(理学) 博士(工学) 博士(農学) 博士(学術)	0.51	平31		
医系科学研究科									
医歯薬学専攻 (博士課程)	4	97	—	388	博士(医学) 博士(歯学) 博士(薬学) 博士(学術)	1.13	平31	広島県広島市南区腰一丁目2番3号	
総合健康科学専攻 (博士課程)	前期2	76	—	152	修士(医科学) 修士(歯科学) 修士(公衆衛生学) 修士(薬科学) 修士(看護学) 修士(保健学)	1.16	平31		

既設大学等の状況					修士(口腔健康科学)				
		後期3	25	—	75	修士(学術)	1.18	平31	
						博士(医科学)			
						博士(歯科学)			
						博士(薬科学)			
						博士(看護学)			
						博士(保健学)			
						博士(口腔健康科学)			
						博士(学術)			
	総合科学研究科								広島県東広島市鏡山一丁目7番1号
総合科学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(学術)	—	平18		
	後期3	—	—	—	博士(学術)	—	平18		
文学研究科								広島県東広島市鏡山一丁目2番3号	令和2年度より学生募集停止
人文学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(文学)	—	平13		
	後期3	—	—	—	博士(文学)	—	平13		
教育学研究科								広島県東広島市鏡山一丁目1番1号	
学習開発専攻 (博士課程)	後期3	—	—	—	博士(教育学)	—	平12		平成28年度より学生募集停止
					博士(心理学)				
					博士(学術)				
文化教育開発専攻 (博士課程)	後期3	—	—	—	博士(教育学)	—	平12		平成28年度より学生募集停止
					博士(心理学)				
					博士(学術)				
教育人間科学専攻 (博士課程)	後期3	—	—	—	博士(教育学)	—	平12		平成28年度より学生募集停止
					博士(心理学)				
教科教育学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(教育学)	—	平28		令和2年度より学生募集停止
					修士(心理学)				
					修士(学術)				
教育学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(教育学)	—	平12		令和2年度より学生募集停止
					修士(心理学)				
					修士(学術)				
心理学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(教育学)	—	平12		令和2年度より学生募集停止
					修士(心理学)				
					修士(学術)				
高等教育学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(教育学)	—	平28		令和2年度より学生募集停止
					修士(心理学)				

教育学習科学専攻 (博士課程)	後期3	—	—	—	修士(学術) 博士(教育学) 博士(心理学) 博士(学術)	—	平28		令和2年度より 学生募集停止
社会科学部									
法政システム専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(法学) 修士(学術)	—	平16	広島県東広島市鏡山一丁目1番1号	令和2年度より 学生募集停止
	後期3	—	—	—	博士(法学) 博士(学術)	—	平16		
社会経済システム専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(経済学) 修士(学術)	—	平16	広島県東広島市鏡山一丁目2番1号	
	後期3	—	—	—	博士(経済学) 博士(学術)	—	平16		
マネジメント専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(マネジメント) 博士(マネジメント)	—	平12	広島県広島市中央区千田町一丁目1番89号	
	後期3	—	—	—		—	平12		
理学部									
数学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(理学)	—	昭28	広島県東広島市鏡山一丁目3番1号	令和2年度より 学生募集停止
	後期3	—	—	—	博士(理学)	—	昭28		
物理科学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(理学)	—	昭28		令和2年度より 学生募集停止
	後期3	—	—	—	博士(理学)	—	昭28		
化学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(理学)	—	昭28		令和2年度より 学生募集停止
	後期3	—	—	—	博士(理学)	—	昭28		
生物科学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(理学)	—	昭28		平成31年度より 学生募集停止
	後期3	—	—	—	博士(理学)	—	昭28		
地球惑星システム学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(理学)	—	昭28		令和2年度より 学生募集停止
	後期3	—	—	—	博士(理学)	—	昭28		
数理分子生命理学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(理学)	—	平11		平成31年度より 学生募集停止
	後期3	—	—	—	博士(理学)	—	平11		
先端物質科学研究科									
量子物質科学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(理学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平10	広島県東広島市鏡山一丁目3番1号	令和2年度より 学生募集停止
	後期3	—	—	—	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	—	平10		

分子生命機能科学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(理学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平10		平成31年度より 学生募集停止		
	後期3	—	—	—	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	—	平10				
	前期2	—	—	—	修士(理学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平16			令和2年度より 学生募集停止	
	後期3	—	—	—	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	—	平16				
半導体集積科学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(理学) 修士(工学) 修士(学術)	—	平16		令和2年度より 学生募集停止		
後期3	—	—	—	博士(理学) 博士(工学) 博士(学術)	—	平16					
医歯薬保健学研究科											
医歯薬学専攻 (博士課程)	4	—	—	—	博士(医学) 博士(歯学) 博士(薬学) 博士(学術)	—	平24	広島県広島市南区霞一丁目2番3号	平成31年度より 学生募集停止		
	口腔健康科学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(口腔健康科学)	—			平24	
口腔健康科学専攻 (博士課程)	後期3	—	—	—	博士(口腔健康科学)	—	平24				
	薬科学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(薬科学)	—			平24	
薬科学専攻 (博士課程)	後期3	—	—	—	博士(薬科学)	—	平24				
	保健学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(看護学) 修士(保健学)	—			平24	
保健学専攻 (博士課程)	後期3	—	—	—	博士(看護学) 博士(保健学)	—	平24				
	工学研究科										
機械システム工学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(工学)	—	平22			広島県東広島市鏡山一丁目4番1号	令和2年度より 学生募集停止
	後期3	—	—	—	博士(工学)	—	平22				
機械物理工学専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(工学)	—	平22				
	後期3	—	—	—	博士(工学)	—	平22				
システムサイバネティクス専攻 (博士課程)	前期2	—	—	—	修士(工学) 修士(学術)	—	平22				
	後期3	—	—	—	博士(工学) 博士(学術)	—	平22				
情報工学専攻	前期2	—	—	—	修士(工学)	—	平22				

(博士課程)	後期3	—	—	—	修士(学術) 博士(工学)	—	平22		
化学工学専攻	前期2	—	—	—	修士(工学)	—	平22		
(博士課程)	後期3	—	—	—	博士(工学)	—	平22		
応用化学専攻	前期2	—	—	—	修士(工学)	—	平22		
(博士課程)	後期3	—	—	—	博士(工学)	—	平22		
社会基盤環境工学専攻	前期2	—	—	—	修士(工学)	—	平22		
(博士課程)	後期3	—	—	—	博士(工学)	—	平22		
輸送・環境システム専攻	前期2	—	—	—	修士(工学)	—	平22		
(博士課程)	後期3	—	—	—	博士(工学)	—	平22		
建築学専攻	前期2	—	—	—	修士(工学)	—	平22		
(博士課程)	後期3	—	—	—	博士(工学)	—	平22		
生物圏科学研究科								広島県東広島市鞆山一丁目4番4号	平成31年度より 学生募集停止
生物資源科学専攻	前期2	—	—	—	修士(農学)	—	平18		
(博士課程)	後期3	—	—	—	修士(学術) 博士(農学)	—	平18		
環境循環系制御学専攻	前期2	—	—	—	修士(農学)	—	平11		
(博士課程)	後期3	—	—	—	修士(学術) 博士(農学)	—	平11		
博士(学術)									
医歯薬学総合研究科								広島県広島市南区鞆一丁目2番3号	平成24年度より 学生募集停止
創生医科学専攻	4	—	—	—	博士(医学)	—	平14		
(博士課程)					博士(歯学) 博士(医薬学) 博士(学術)				
国際協力研究科								広島県東広島市鞆山一丁目5番1号	令和2年度より 学生募集停止
開発科学専攻	前期2	—	—	—	修士(学術)	—	平6		
(博士課程)	後期3	—	—	—	修士(工学) 修士(農学) 博士(学術)	—	平6		
教育文化専攻	前期2	—	—	—	博士(工学) 博士(農学) 修士(学術)	—	平7		

(博士課程)	後期3	—	—	—	修士(教育学) 博士(学術) 博士(教育学)	—	平7		
法務研究科 法務専攻 (専門職学位課程)	3	—	—	—	法務博士(専門職)	—	平16	広島県広島市中区東千田町一丁目1番89号	令和2年度より 学生募集停止
<p>原爆放射線医科学研究所 目的：原子爆弾その他の放射線による障害の治療及び予防に関する学理並びにその応用の研究 所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号 設置年月：昭和36年4月 規模等：土地(霞地区144,700㎡)，建物7,971㎡</p> <p>病院 目的：医学及び歯学に係る診療の場として機能するとともに、診療を通じて地域医療の向上に寄与すること 所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号 設置年月：昭和31年4月 規模等：土地(霞地区144,700㎡)，建物122,552㎡</p> <p>図書館 目的：図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を備え、これらの収集、整理及び提供を行うとともに、学術情報を提供すること 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目2番2号ほか 設置年月：昭和24年5月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡ほか)，建物26,967㎡</p> <p>経済学部附属地域経済システム研究センター 目的：中国・四国地方を中心とした地域の産業経済、企業経営、行財政システム等に関する理論的・実証的な調査・研究 所在地：広島県広島市中区東千田町1丁目1番89号 設置年月：平成元年5月 規模等：土地(東千田地区18,470㎡)，建物3,163㎡</p> <p>理学部附属未来創生科学人材育成センター 目的：融合領域の研究と教育 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目3番1号 設置年月：平成19年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)，建物34,461㎡</p> <p>薬学部附属薬用植物園 目的：薬用植物に関する研究 所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号 設置年月：昭和55年4月 規模等：土地(霞地区144,700㎡)，建物298㎡</p> <p>生物生産学部附属練習船豊潮丸 目的：乗船実習、海洋調査等 所在地：広島県呉市宝町7番4号 設置年月：昭和53年10月 規模等(基地)：土地2,675㎡，建物840㎡</p> <p>人間社会科学研究科附属幼年教育研究施設 目的：学際的・臨床的な観点からの幼年教育に関する理論的並びに実証的研究 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号 設置年月：昭和41年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)，建物44,097㎡</p> <p>人間社会科学研究科附属教育実践総合センター 目的：学校教育の内容・方法に関する基礎的・理論的研究及び実践的研究の推進 所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号 設置年月：昭和63年4月 規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)，建物44,097㎡</p>									

人間社会科学研究科附属特別支援教育実践センター	<p>目的：特別支援教育についての基礎的・実践的な研究の推進</p> <p>所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号</p> <p>設置年月：平成7年4月</p> <p>規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物44,097㎡</p>
人間社会科学研究科附属心理臨床教育研究センター	<p>目的：心理臨床に関する理論的・実践的研究の推進</p> <p>所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号</p> <p>設置年月：平成14年4月</p> <p>規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物44,097㎡</p>
人間社会科学研究科附属リーガル・サービス・センター	<p>目的：無料法律相談の実施等</p> <p>所在地：広島県広島市中区東千田町1丁目1番89号</p> <p>設置年月：平成17年4月</p> <p>規模等：土地(東千田地区18,470㎡)、建物53㎡</p>
統合生命科学研究科附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター	<p>目的：中国山地から瀬戸内海までのフィールドを一体化した対象として、環境と調和した持続的生物生産に関する研究等</p> <p>所在地：広島県東広島市鏡山二丁目2965番地、広島県竹原市港町5丁目8番1号</p> <p>設置年月：平成15年4月</p> <p>規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡、竹原地区4,268㎡)、建物1,353㎡</p>
統合生命科学研究科附属臨海実験所	<p>目的：広い視野に立った海洋生物学の研究者の育成のための大学院教育等</p> <p>所在地：広島県尾道市向島町2445番地</p> <p>設置年月：昭和24年5月</p> <p>規模等：土地21,197㎡、建物1,590㎡</p>
統合生命科学研究科附属宮島自然植物実験所	<p>目的：国立公園宮島のすぐれた自然を利用した植物学の教育・研究</p> <p>所在地：広島県廿日市市宮島町三ツ丸子山1156-2外</p> <p>設置年月：昭和49年4月</p> <p>規模等：土地102,076㎡、建物578㎡</p>
統合生命科学研究科附属植物遺伝子保管実験施設	<p>目的：生物科学研究材料の系統保存等</p> <p>所在地：広島県東広島市鏡山1丁目4番3号</p> <p>設置年月：昭和52年4月</p> <p>規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物794㎡</p>
医系科学研究科附属先駆的看護実践支援センター	<p>目的：看護環境の向上および地域の人々への良質の看護の提供への貢献</p> <p>所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号</p> <p>設置年月：平成18年6月</p> <p>規模等：土地(霞地区144,700㎡)、建物84,633㎡</p>
医系科学研究科附属先駆的リハビリテーション実践支援センター	<p>目的：リハビリテーション環境の向上及び良質なりハビリテーションを地域に提供するための先駆的リハビリテーション実践能力を有するリハビリテーション従事者の養成並びに先駆的リハビリテーション実践を行うためのプロジェクト研究</p> <p>所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号</p> <p>設置年月：平成21年4月</p> <p>規模等：土地(霞地区144,700㎡)、建物120㎡</p>
原爆放射線医科学研究所附属被ばく資料調査解析部	<p>目的：原子爆弾及び放射線による被災に関する情報の調査並びにそれらの資料の収集、整理、保存及び解析</p> <p>所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号</p> <p>設置年月：昭和42年6月</p> <p>規模等：土地(霞地区144,700㎡)、建物7,971㎡</p>
放射光科学研究センター	<p>目的：全国共同利用施設として、放射光科学に関する学術研究を行い、かつ、大学の教員その他の者でこの分野の研究に従事するものの利用に供すること及び共同利用・共同研究を活かした人材育成を行うこと</p> <p>所在地：広島県東広島市鏡山2丁目313番地</p>

設置年月：平成8年5月
規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物3,881㎡

西条共同研修センター

目的：中国・四国地区国立大学法人の学生及び職員の合宿研修のための共同利用施設として、共同生活を通じて学生相互又は学生、職員間の人間関係を緊密にし、かつ、学生の課外活動を振興し、教養を高め、社会性を助長するとともに、地域社会における学術文化の発達に寄与すること
所在地：広島県東広島市西条町御菌宇570

設置年月：昭和47年4月
規模等：土地111,469㎡、建物1,022㎡

ナノデバイス研究所

目的：学内共同教育研究施設として、ナノデバイス・集積回路技術の基盤研究を推進し、生体医歯工学の共同利用・共同研究拠点を中核としてバイオ・医療技術との融合研究を進展させ、さらにナノデバイスによる新しい学術融合領域を開拓し、これらに関する教育を行うこと
所在地：広島県東広島市鏡山1丁目4番2号

設置年月：平成8年5月
規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物4,153㎡

高等教育研究開発センター

目的：学内共同教育研究施設として、国内外の大学・高等教育に関する基礎的・開発的研究の一体的推進を図るとともに、これらに関する業務を行うこと
所在地：広島県東広島市鏡山1丁目2番2号

設置年月：平成12年4月
規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物1,207㎡

情報メディア教育研究センター

目的：学内共同教育研究施設として、本学の情報通信基盤を支え、情報メディアを活用した教育の企画・立案・実施の支援及び業務への支援を行い、情報メディア活用のための研究開発の推進を図ること
所在地：広島県東広島市鏡山1丁目4番2号

設置年月：平成13年4月
規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物2,507㎡

自然科学研究支援開発センター

目的：学内共同教育研究施設として、本学の生命科学、健康科学、物質科学、環境科学など自然科学全般の学際的な教育研究の支援体制を充実させるとともに、生命科学及び物質科学関連のプロジェクト研究を推進し、幅広い基礎研究基盤の充実及び先端的な応用研究への進展に資すること
所在地：広島県東広島市鏡山1丁目4番2号ほか

設置年月：平成15年4月
規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡ほか)、建物13,074㎡

保健管理センター

目的：学内共同教育研究施設として、学生及び職員の身体的・精神的健康の管理を行うこと
所在地：広島県東広島市鏡山1丁目7番1号ほか

設置年月：昭和44年4月
規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡ほか)、建物1,146㎡

平和センター

目的：学内共同教育研究施設として、平和科学に関する研究・調査及び資料の収集を行うこと
所在地：広島県広島市中区東千田町1丁目1番89号

設置年月：昭和50年7月
規模等：土地(東千田地区18,470㎡)、建物386㎡

環境安全センター

目的：学内共同教育研究施設として、実験廃液の処理を含めた環境管理並びに学生及び職員の安全管理に関する専門的業務を行うとともに、環境及び安全に関する教育研究を行うこと
所在地：広島県東広島市鏡山1丁目5番3号

設置年月：平成17年3月
規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物2,374㎡

附属施設の概要

総合博物館

目的：学内共同教育研究施設として、次に掲げる事項を行うことにより、研究、教育及び社会貢献の推進に資すること

- (1) 本学に所蔵する学術標本資料の収集、調査、保存及び管理並びにその研究、展示及び情報発信に関すること
- (2) 学芸員等の人材育成に関すること
- (3) 本学構内の埋蔵文化財の発掘調査並びに調査資料の保存、管理及び公開に関すること

所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号

設置年月：平成18年4月

規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物443㎡

北京研究センター

目的：海外教育研究拠点として、本学と中華人民共和国の研究者による共同研究及び学術・教育交流の推進

所在地：中華人民共和国 北京市海淀区西三環北路83号

首都師範大学国際文化大厦南楼310室

設置年月：平成14年10月

規模等：建物(使用部屋面積243㎡)

宇宙科学センター

目的：宇宙・天文の研究・教育を推進するとともに、大学共同利用機関法人自然科学研究機構等と連携し、全国の大学等との共同研究及び共同利用に供し、もって我が国の宇宙・天文の研究・教育、次世代を担う児童・生徒の科学教育及び生涯学習の推進に寄与すること

所在地：広島県東広島市鏡山1丁目3番1号ほか

設置年月：平成16年4月

規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡ほか)、建物478㎡

外国語教育研究センター

目的：学内共同教育研究施設として、外国語教育に責任を持ち、学生の実践的コミュニケーション能力や外国語運用能力などの実力向上を図るとともに、外国語教育方法の研究開発と豊かな外国語教育の開発実施を通して、本学の学生及び職員に質の高い外国語学習の機会を提供し、もって国際的に活躍できる人材を育成すること

所在地：広島県東広島市鏡山1丁目7番1号

設置年月：平成16年4月

規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物1,195㎡

文書館

目的：学内共同教育研究施設として、本学にとって重要な文書の整理・保存並びに大学の歴史に関する資料の収集・整理・保存及び公開を行うとともに、関連する分野の教育研究を行うこと

所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号

設置年月：平成16年4月

規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物783㎡

スポーツセンター

目的：学内共同教育研究施設として、スポーツに関する教育及び研究を行い、スポーツの振興を通じて、健全な心身と教養、豊かな人間性を備えた人材の育成に資すること

所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号

設置年月：平成17年4月

規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物26㎡

HiSIM研究センター

目的：学内共同教育研究施設として、回路設計用トランジスタモデルであるHiSIM(Hiroshima University STARC IGFET Model)の産業界との連携による開発及びHiSIMが国際標準トランジスタモデルに選定されるための活動を行うとともに、HiSIMを用いた回路設計及びデバイス開発における半導体に関する高度な専門性を有した人材を育成すること

所在地：広島県東広島市鏡山1丁目3番1号

設置年月：平成17年7月

規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物87㎡

ダイバーシティ研究センター

目的：学内共同教育研究施設として、ダイバーシティ・インクルージョン推進拠点として活動するとともに、組織及び構成員の多様化から生じる問題に

対処し、その多様性を生産性や革新的成果に結び付けられるような制度や風土を創出する知識とスキルを備えた人材を育成すること

所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号

設置年月：平成28年4月

規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)

両生類研究センター

目的：学内共同教育研究施設として、先端的な両生類研究を行うとともに、国際的なバイオリソースセンターとして両生類バイオリソースを維持するための技術の蓄積・継承及び高品質の両生類バイオリソースの提供を行うことにより、両生類研究者の育成・輩出、国内外の研究者に対する研究支援、国内外の共同研究及び両生類バイオリソースに関する国際的なネットワークの構築を促進すること

所在地：広島県東広島市鏡山1丁目3番1号

設置年月：平成28年10月

規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物3,886㎡

トランスレーショナルリサーチセンター

目的：学内共同教育研究施設として、本学におけるシーズの開発及び管理と一元的なパイプラインの確立により関連機関と連携して橋渡し研究を推進するとともに、次世代の橋渡し研究を担う人材を育成すること

所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号

設置年月：平成30年4月

規模等：土地(霞地区144,700㎡)

防災・減災研究センター

目的：学内共同教育研究施設として、自然災害に関する学理の研究及び防災・減災に関する実践的研究を行うとともに、新たな防災対策・危機対応策を先導する学際研究の拠点を構築し、その成果を活かした総合的な防災まちづくりの推進及び人材育成を行うこと

所在地：広島県東広島市鏡山1丁目4番1号

設置年月：平成30年9月

規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)

森戸国際高等教育学院

目的：学内共同教育研究施設として、学内外における日本語・日本文化教育を充実させるとともに、海外との学生交流を推進し、グローバルキャンパス化の推進を図ること

所在地：広島県東広島市鏡山1丁目1番1号

設置年月：平成30年10月

規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)、建物1,001㎡

脳・こころ・感性科学研究センター

目的：学内共同教育研究施設として、人間の本質である“脳・こころ・感性”を、脳科学を中心に、医学、工学、情報科学、人文社会科学など分野融合的に探求し、感性科学の学問体系を確立するとともに、その成果を教育、医療、ものづくり、ビジネスなどに社会実装し、一層の地域社会及び国際社会への貢献を行うこと

所在地：広島県広島市南区霞1丁目2番3号

設置年月：平成30年10月

規模等：土地(霞地区144,700㎡)

ゲノム編集イノベーションセンター

目的：学内共同教育研究施設として、人類の様々な問題を解決することが期待されているゲノム編集の基礎分野及び応用分野の研究を進展させるとともに、産業界との連携によるゲノム編集技術開発を基盤とした新産業及びイノベーションの創出と新産業等創出に必要な人材を育成し、地域社会及び国際社会への貢献を行うこと

所在地：広島県東広島市鏡山3丁目10番23号

設置年月：平成31年2月

規模等：土地(東広島地区2,492,191㎡)

デジタルものづくり教育研究センター

目的：学内共同教育研究施設として、地域において喫緊の課題となっているものづくりのデジタル化に対応するため、モデルベースによる材料研究や制御・生産プロセスのスマート化などに係る研究開発と人材育成を幅広く推進するとともに、地域レベルで、イノベーションを実現していく

	<p>本格的な産学連携システムを構築すること</p> <p>所在地：広島県東広島市鏡山3丁目10番32号</p> <p>設置年月：平成31年2月</p> <p>規模等：土地(東広島地区2, 492, 191㎡)</p> <p>AI・データイノベーション教育研究センター</p> <p>目的：学内外に向けたデータサイエンス教育の開発と普及、企業との連携による研究力の強化を推進すること</p> <p>所在地：広島県広島市中区東千田町1丁目1番89号</p> <p>設置年月：令和2年10月</p> <p>規模等：土地(東千田地区18, 470㎡)</p> <p>IDEC国際連携機構</p> <p>目的：学内共同教育研究施設として、全学のグローバル化を先導しながら、Society5.0の国際展開により、国際貢献に資する実践研究と人材育成のための世界的な拠点を形成すること</p> <p>所在地：広島県東広島市鏡山1丁目5番1号</p> <p>設置年月：令和4年4月</p> <p>規模等：土地(東広島地区2, 492, 191㎡)</p> <p>A-ESG科学技術研究センター</p> <p>目的：学内共同教育研究施設として、温室効果ガス排出による地球温暖化への対応や持続可能なエネルギーの創出に向けた研究開発と人材育成を幅広く推進し、環境・エネルギーに関する地球規模の課題解決に貢献すること</p> <p>所在地：広島県東広島市鏡山1丁目4番1号</p> <p>設置年月：令和4年4月</p> <p>規模等：土地(東広島地区2, 492, 191㎡)</p> <p>Town & Gown未来イノベーション研究所</p> <p>目的：学内共同教育研究施設として、持続可能な社会の実現に向けた社会変革を先導する新たな地方創生モデルを構築するため、SDGsに貢献する技術的課題の研究とイノベーション創出、社会実装を加速させるEBPM・DX研究及び地域をフィールドに社会実装を実践する地方創生研究を進展させるとともに、イノベーション創出から社会実装までを実践するアントレプレナー人材を育成すること</p> <p>所在地：広島県東広島市鏡山1丁目4番4号</p> <p>設置年月：令和4年4月</p> <p>規模等：土地(東広島地区2, 492, 191㎡)</p> <p>ハラスメント相談室</p> <p>目的：学内共同利用施設として、職員、学生、生徒、児童及び園児が当事者となるハラスメントに関する相談を受け付け、及びハラスメントの防止を推進すること</p> <p>所在地：広島県東広島市鏡山1丁目2番2号</p> <p>設置年月：平成16年9月</p> <p>規模等：土地(東広島地区2, 492, 191㎡)、建物136㎡</p> <p>附属学校(幼稚園2, 小学校3, 中学校4, 高等学校2)</p> <p>目的：生徒、児童及び園児の心身の発達に応じて、教育とそれに伴う研究を行うとともに、本学における生徒等の教育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習の実施に当たること</p> <p>所在地：広島県広島市南区翠1丁目1番1号ほか</p> <p>設置年月：昭和26年4月ほか</p> <p>規模等：土地(210, 983㎡+附属幼稚園分6, 919㎡)、建物54, 375㎡</p>	
--	--	--

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校(収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「-」又は「該当なし」と記入すること。

国立大学法人広島大学 設置等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学定員 編入学定員 収容定員			令和5年度	入学定員 編入学定員 収容定員			変更の事由
広島大学				広島大学				
総合科学部				総合科学部				
総合科学科	120		480	総合科学科	120		480	
国際共創学科	40		160	国際共創学科	40		160	
文学部				文学部				
	3年次				3年次			
人文学科	130	10	540	人文学科	130	10	540	
教育学部				教育学部				
第一類(学校教育系)	157		628	第一類(学校教育系)	<u>137</u>		<u>548</u>	情報科学部情報科学科へ20人定員移行予定
第二類(科学文化教育系)	82		328	第二類(科学文化教育系)	82		328	
第三類(言語文化教育系)	73		292	第三類(言語文化教育系)	73		292	
第四類(生涯活動教育系)	81		324	第四類(生涯活動教育系)	81		324	
第五類(人間形成基礎系)	52		208	第五類(人間形成基礎系)	52		208	
法学部				法学部				
	3年次				3年次			
法学科 昼間コース	140	10	580	法学科 昼間コース	140	10	580	
法学科 夜間主コース	30	10	140	法学科 夜間主コース	30	10	140	
経済学部				経済学部				
	3年次				3年次			
経済学科 昼間コース	150	5	610	経済学科 昼間コース	150	5	610	
経済学科 夜間主コース	45	5	190	経済学科 夜間主コース	45	5	190	
理学部				理学部				
数学科	47		188	数学科	47		188	
物理学科	66		264	物理学科	66		264	
化学科	59		236	化学科	59		236	
生物科学科	34		136	生物科学科	34		136	
地球惑星システム学科	24		96	地球惑星システム学科	24		96	
	3年次				3年次			
		10	20			10	20	
医学部				医学部				
医学科	118		714	医学科	118		<u>643</u>	地域の医師確保のための定員増(13人)申請予定
保健学科	120		480	保健学科	120		480	
歯学部				歯学部				
歯学科	53		318	歯学科	53		318	
口腔健康科学科	40		160	口腔健康科学科	40		160	
薬学部				薬学部				
薬学科	38		228	薬学科	38		228	
薬科学科	22		88	薬科学科	22		88	
工学部				工学部				
	3年次				3年次			
第一類(機械・輸送・材料・エネルギー系)	150	5	610	第一類(機械・輸送・材料・エネルギー系)	150	5	610	
第二類(電気電子・システム情報系)	90	3	366	第二類(電気電子・システム情報系)	90	3	366	
第三類(応用化学・生物工学・化学工学系)	115	4	468	第三類(応用化学・生物工学・化学工学系)	115	4	468	
第四類(建設・環境系)	90	3	366	第四類(建設・環境系)	90	3	366	
生物生産学部				生物生産学部				
	3年次				3年次			
生物生産学科	90	10	380	生物生産学科	90	10	380	
情報科学部				情報科学部				
	3年次				3年次			
情報科学科	80	5	330	情報科学科	<u>150</u>	5	<u>610</u>	魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増(50人)教育学部第一類(学校教育系)から20人定員移行予定
	3年次				3年次			
	2,336	80	9,928		<u>2,386</u>	80	<u>10,057</u>	

令和4年度	令和5年度	変更の事由
広島大学大学院 人間社会科学研究科 人文社会科学専攻(M) 257 514 人文社会科学専攻(D) 85 255 教育科学専攻(M) 163 326 教育科学専攻(D) 50 150 教職開発専攻(P) 30 60 実務法学専攻(P) 20 60 広島大学・グラーツ大学国際連携 サステナビリティ学専攻(M) 2 4 先進理工系科学研究科 先進理工系科学専攻(M) 449 898 先進理工系科学専攻(D) 128 384 広島大学・ライプツィヒ大学国際 連携サステナビリティ学専攻(M) 2 4 統合生命科学研究科 統合生命科学専攻(M) 170 340 統合生命科学専攻(D) 70 210 医系科学研究科 医歯薬学専攻(D) 97 388 総合健康科学専攻(M) 76 152 総合健康科学専攻(D) 25 75	広島大学大学院 人間社会科学研究科 人文社会科学専攻(M) 257 514 (うち、人文社会科学専攻(M)からスマート ソサイエティ実践科学研究院(M)の内数と する入学定員数及び収容定員数) (15) (30) (※1) 人文社会科学専攻(D) 85 255 (うち、人文社会科学専攻(D)からスマート ソサイエティ実践科学研究院(D)の内数と する入学定員数及び収容定員数) (3) (9) (※2) 教育科学専攻(M) 163 326 教育科学専攻(D) 50 150 教職開発専攻(P) 30 60 実務法学専攻(P) 20 60 広島大学・グラーツ大学国際連携 サステナビリティ学専攻(M) 2 4 先進理工系科学研究科 先進理工系科学専攻(M) 449 898 (うち、先進理工系科学専攻(M)からスマート ソサイエティ実践科学研究院(M)の内数と する入学定員数及び収容定員数) (13) (26) (※1) 先進理工系科学専攻(D) 128 384 (うち、先進理工系科学専攻(D)からスマート ソサイエティ実践科学研究院(D)の内数と する入学定員数及び収容定員数) (7) (21) (※2) 広島大学・ライプツィヒ大学国際 連携サステナビリティ学専攻(M) 2 4 統合生命科学研究科 統合生命科学専攻(M) 170 340 (うち、統合生命科学専攻(M)からスマート ソサイエティ実践科学研究院(M)の内数と する入学定員数及び収容定員数) (6) (12) (※1) 統合生命科学専攻(D) 70 210 (うち、統合生命科学専攻(D)からスマート ソサイエティ実践科学研究院(D)の内数と する入学定員数及び収容定員数) (6) (18) (※2) 医系科学研究科 医歯薬学専攻(D) 97 388 総合健康科学専攻(M) 76 152 (うち、総合健康科学専攻(M)からスマート ソサイエティ実践科学研究院(M)の内数と する入学定員数及び収容定員数) (2) (4) (※1) 総合健康科学専攻(D) 25 75 (うち、総合健康科学専攻(D)からスマート ソサイエティ実践科学研究院(D)の内数と する入学定員数及び収容定員数) (1) (3) (※2) <u>スマートソサイエティ実践科学研究院</u> <u>(M)</u> (36) (72) <u>スマートソサイエティ実践科学研究院</u> <u>(D)</u> (17) (51)	研究科等連係課 程実施基本組織 の設置(認可又は 届出) (※1) 研究科等連係課 程実施基本組織 の設置(認可又は 届出) (※2)
1,624 3,820	1,624 3,820	
	(※1)スマートソサイエティ実践科学研究院(M)の入学定員及び収容定員は、人間社会科学研究科人文社会科学専攻(M)、先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻(M)、統合生命科学研究科統合生命科学専攻(M)、医系科学研究科総合健康科学専攻(M)の内数とする。 (※2)スマートソサイエティ実践科学研究院(D)の入学定員及び収容定員は、人間社会科学研究科人文社会科学専攻(D)、先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻(D)、統合生命科学研究科統合生命科学専攻(D)、医系科学研究科総合健康科学専攻(D)の内数とする。	

教 育 課 程 等 の 概 要															
（スマートソサイエティ実践科学研究院 博士課程前期）															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	持続可能な発展科目 Hiroshimaから世界平和を考える Japanese Experience of Social Development-Economy, Infrastructure, and Peace Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	1・2④		1		○								兼7 集中・オムニバス・メディア	
		1・2②		1		○			3					兼3 オムニバス・メディア	
		1・2④		1		○			1					兼5 オムニバス・メディア	
	データリテラシー キャリア開発・ 情報セキュリティ MOT入門	データリテラシー	1・2④		1		○								兼1
		医療情報リテラシー	1・2③		1		○			1					兼6 オムニバス・メディア
		情報セキュリティ	1・2前		1		○								兼4 集中・オムニバス
		MOT入門	1・2前後		1		○								兼1 集中・メディア
小計（7科目）		—	0	7	0	—	—	—	5	0	0	0	0	兼26 —	
基礎モジュール科目	Arts & Science for Evidence-Based Decision Making	1・2①		2		○			1					メディア	
	Data Analytics for Sustainable Development	1・2後		2		○				4				オムニバス・メディア	
	Geographic Information System Technology	1・2後		2		○								兼1 メディア	
	Practical Machine Learning	1・2④		2		○				1				隔年・メディア	
	Artificial and Natural Intelligence	1・2④		2		○				1				隔年・メディア	
	Academic Writing I	1・2前後		1			○		23	19		2		兼3	
小計（6科目）		—	0	11	0	—	—	—	23	19	0	2	0	兼4 —	
専門モジュール科目	Advanced Natural Language Processing	1・2③		2		○			1					隔年	
	Advanced Learning Systems	1・2後		2		○				1				隔年・集中	
	Advanced Biosystems Engineering	1・2③		2		○			1					隔年	
	Advanced Data-driven Systems Design	1・2①		2		○								兼1 隔年	
	Advanced Smart Sensing	1・2④		2		○			1					隔年	
	Advanced Robotics	1・2②		2		○			1					隔年	
	Transportation Engineering	1・2①		2		○			1			1		共同	
	Regional and Urban Engineering	1・2④		2		○			2					共同	
	Fundamentals of Survey Methodology	1・2④		2		○					1				
	Infrastructure and Regional Planning	1・2①		2		○					1				
	Smart Urban Development	1・2②		2		○			1						
	Environmental Health Science	1・2①		2		○					1				
	Environmental Epidemiology	1・2③		2		○					1				
	Advanced Energy Plant	1・2④		2		○			1					兼1 オムニバス	
	Advanced Thermal Engineering	1・2①		2		○			1						
	Energy Science and Technology	1・2①		2		○					1				
	Biomass Energy Technology	1・2③		2		○					1				
	Advanced Environmental Systems Engineering	1・2④		2		○					1				
	Advanced Energy Conversion Systems	1・2②		2		○					1			兼1 共同	
	Sustainable Architecture A	1・2②		2		○								兼1	
	Assisted Reproductive Technology for Animal Production	1・2③		1		○		※	※	1				兼1 オムニバス ※実験実習	
	Molecular Genetics for Animal Production	1・2③		1		○		※	※	1				※演習, 実験実習	
	Smart Livestock Farming	1・2③		1		○		※	※	1				兼2 共同 ※実験実習	
	Smart Crop Production	1・2③		1		○		※	※			1		※演習	
	Sustainable Marine Environment	1・2④		1		○		※	※	1				兼1 隔年・オムニバス	
	Sustainable Production of Fisheries Resources	1・2④		1		○		※	※		1			※演習	
	Microbiology for Food Safety	1・2①		1		○								兼1	
	Food Science and Brain Health	1・2③		1		○					1				
	Exercises in Smart Agriculture I	1・2③		1			○			4	2		1		
	Exercises in Smart Agriculture II	1・2④		1			○			4	2		1		
	Botany Resources for the Future	1・2②		2		○					1				
	Management and Conservation of Ecosystems	1・2①		2		○					1				
Epidemiology and Disease Prevention	1・2前		2		○				1				兼3 オムニバス		
Lecture on Oral Health Sciences	1・2前		2		○				2				兼13 オムニバス		
Global Health Challenges and Solutions 1	1・2後		2		○				1				兼3 オムニバス		
Global Rehabilitation	1・2後		2		※	○			1				※講義		
Seminar on Health Policy & Global Health	1・2前		1		○				1	1			兼5 オムニバス・共同（一部）		
Basic Biostatistics and Basic Clinical Statistics	1・2前		1		※	○							兼4 オムニバス ※講義		
Exercise and Seminar on Epidemiological Research and It's Analysis	1・2前		2			○							兼4 共同		
Basic Epidemiology and Practice	1・2前		2		○								兼9 オムニバス・共同（一部）		

教 育 課 程 等 の 概 要															
（スマートソサイエティ実践科学研究院 博士課程後期）															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	持続可能な発展科目 スペシャリスト型SDGsアイデアマイニング学生セミナー SDGsの観点から見た地域開発セミナー 普遍的平和を目指して	1・2・3前	1				○		1	1				兼3 共同・集中・メディア	
		1・2・3後	1				○							兼3 共同・集中	
		1・2・3①④	1				○							兼8 オムニバス・集中・メディア	
	キャリア開発・データリテラシー科目	医療情報リテラシー活用 リーダーシップ手法 イノベーション演習 事業創造概論	1・2・3③	1				○		1					兼6 オムニバス・メディア
			1・2・3前	1				○						兼1 集中	
			1・2・3③	2					○						兼1 メディア
			1・2・3②	1					○						兼1 集中・メディア
小計(7科目)		—	0	8	0		—		2	1	0	0	0	兼22 —	
実践知の開発科目	Management and Entrepreneurship Technology Strategy and R&D Management Academic Writing II	1・2・3①	1				○							兼1 メディア	
		1・2・3③	1				○							兼1 メディア	
		1・2・3前・後	1					○		20	19				兼3
		小計(3科目)		—	0	3	0		—		20	19	0	0	0
実践知の応用科目	Idea Mining Workshop Advanced Internship Advanced Fieldwork	1・2・3前	2				○		1					メディア	
		1・2・3前・後	2					○	1						
		1・2・3前・後	2					○	1						
		小計(3科目)		—	0	6	0		—		1	0	0	0	0
博士論文	Seminar on Doctoral Dissertation	1～3	12				○		20	19				兼3	
		小計(1科目)		—	12	0	0		—	20	19	0	0	0	兼3 —
合計(14科目)			—	12	17	0		—	20	19	0	0	0	兼26 —	
学位又は称号	博士（学術） 博士（工学） 博士（情報科学） 博士（農学） 博士（保健学） 博士（医科学） 博士（経済学）			学位又は学科の分野				経済学関係 工学関係 農学関係 医学関係 保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。）							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
修了に必要な単位数を17単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。 【修了要件】 科目区分 大学院共通科目／持続可能な発展科目 ／キャリア開発・データリテラシー科目 実践知の開発モジュール科目 実践知の応用モジュール科目 博士論文モジュール科目 合計								1学年の学期区分		2学期(4ターム)					
								1学期の授業期間		15週					

<p>【授与する学位の決定方法について】</p> <p>学生は、入学直後に、主任指導教員と相談し研究内容及び研究題目等の研究計画を作成し、主任指導教員は、学生の入学前の勉強内容と入学後の研究計画を考慮し、2名以上の副指導教員（主任指導教員とは研究領域が異なる本研究院の専任教員1名以上を含む。）を決定し、この3名以上の指導教員体制により、博士論文の執筆及び学位取得に至るまで学生の研究指導を行う。</p> <p>本研究院は、「Cyber Physical System」「Smart Mobility」「Smart Energy」「Smart Agriculture」「Global Health and Medical Science」「Social Innovation Science」の6つの研究領域からなるトランスディシプリナリーな教育研究を特長とし、ディシプリンの異なる複数の指導教員が異なる視点で協働して指導することで、学生は周辺分野の研究動向を踏まえながら研究を進める。博士論文候補者試験（2年次前期～3年次前期）、博士論文予備審査会（3年次後期）を経て、当該学生の学位論文の内容、研究業績及び履修内容に応じて、博士（学術）、博士（工学）、博士（情報科学）、博士（農学）、博士（保健学）、博士（医科学）、博士（経済学）の学位の中からふさわしいものを教授会で決定し授与する。</p>	<p>1 時限の授業時間</p>	<p>90分</p>
--	------------------	------------

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教 育 課 程 等 の 概 要

(人間社会科学研究科人文社会科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
研究科 共通科目	環境原論A	1・2後		1		○									兼1
	環境原論B	1・2後		1		○									兼1
	人文社会科学のための研究法と倫理	1・2①		2		○			5	10	1				兼1 オムニバス
	人文社会科学と社会	1・2②		2		○			16	12		1			兼3 オムニバス
	リサーチメソッド	1①④		2		○						2			
	教育科学のための研究法と倫理	1・2①		2		○									兼34 オムニバス
	教育科学と社会	1・2②		2		○									兼35 オムニバス
	Sheltered Instruction: Making Content Comprehensible	1・2③		2		○									兼1
	Religious culture in public education	1・2④		2		○									兼1
	Academic Writing for Graduate Students in Education	1・2③		2		○									兼1
日本の教育開発経験	1・2③		2		○									兼7 オムニバス	
小計 (20科目)	—	—	0	33	0	—	—	—	41	36	2	9	0	兼91	
	比較日本文学研究A	1・2前		2			○						1		
	比較日本文学研究B	1・2後		2			○						1		
	比較日本文学研究C	1・2前		2			○								兼1
	比較日本文学研究D	1・2後		2			○								兼1
	日本文化論講義A	1・2前		2		○									
	日本文化論講義B	1・2前		2		○							1		
	日本文化論演習A	1・2後		2			○								
	日本文化論演習B	1・2後		2			○						1		
	歴史文化論講義A	1・2前		2		○			1						
	歴史文化論講義B	1・2後		2		○			1						
	歴史文化論演習A	1・2前		2			○		1						
	歴史文化論演習B	1・2後		2			○		1						
	表象文化論講義A	1・2前		2		※	○								兼1 ※講義
	表象文化論講義B	1・2後		2		※	○					1			※講義
	表象文化論演習A	1・2前		2			○								
	表象文化論演習B	1・2後		2			○								
	言語文化論講義A	1・2前		2		○			1						
	言語文化論講義B	1・2後		2		○									兼1
	言語文化論演習A	1・2前		2			○		1						
	言語文化論演習B	1・2後		2			○		1						
	超域文化論講義A	1・2前		2		○				1					
	超域文化論講義B	1・2後		2		○				1					
	超域文化論演習A	1・2前		2			○			1					
	超域文化論演習B	1・2後		2			○			1					
	西洋哲学演習A	1・2②		2			○				1				
	西洋哲学演習B	1・2③		2			○				1				
	西洋哲学特別演習A	1・2①		2			○		1						
	西洋哲学特別演習B	1・2②		2			○		1						
	哲学文献資料研究A	1・2①		2			○			1					
	哲学文献資料研究B	1・2②		2			○			1					
	西洋哲学史演習A	1・2③		2			○				1				
	西洋哲学史演習B	1・2④		2			○				1				

教 育 課 程 等 の 概 要

(人間社会科学研究科人文社会科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	西洋哲学史特別演習 A	1・2③		2			○		1						
	西洋哲学史特別演習 B	1・2④		2			○		1						
	西洋哲学史文献資料研究 A	1・2③		2			○			1					
	西洋哲学史文献資料研究 B	1・2④		2			○			1					
	西洋哲学特講	1・2②		2			○								兼1
	インド哲学研究	1・2後		2			○								
	インド哲学史講義	1・2前		2			○								
	インド哲学演習 A	1・2前		2				○		1					
	インド哲学演習 B	1・2後		2				○		1					
	インド哲学史演習 A	1・2前		2				○		1					
	インド哲学史演習 B	1・2後		2				○		1					
	仏教学研究	1・2後		2				○		1					
	仏教思想史研究	1・2前		2				○		1					
	仏教学演習 A	1・2前		2				○		1					兼1
	仏教学演習 B	1・2後		2				○		1					兼1
	仏教思想史講義 A	1・2前		2				○							
	仏教思想史講義 B	1・2後		2				○							
	インド哲学仏教学総合演習 A	1・2前		2				○		1	1				共同
	インド哲学仏教学総合演習 B	1・2後		2				○		1	1				共同
	倫理学基礎演習 A	1・2前		2				○			1				
	倫理学基礎演習 B	1・2前		2				○			1				
	応用倫理学方法論研究 A	1・2後		2				○			1				
	応用倫理学方法論研究 B	1・2後		2				○			1				
	応用倫理学基礎演習 A	1・2前		2				○					1		
	応用倫理学基礎演習 B	1・2前		2				○					1		
	応用倫理学文献研究 A	1・2後		2				○					1		
	応用倫理学文献研究 B	1・2後		2				○					1		
	倫理想史基礎演習 A	1・2③		2				○							兼1
	倫理想史基礎演習 B	1・2③		2				○							兼1
	倫理想史文献研究 A	1・2③		2				○		1					
	倫理想史文献研究 B	1・2③		2				○		1					
	応用倫理想基礎演習 A	1・2②		2				○		1					
	応用倫理想基礎演習 B	1・2②		2				○		1					
	中国哲学文献研究 A	1・2前		2				○		1					
	中国哲学文献研究 B	1・2後		2				○		1					
	中国哲学文献研究 C	1・2前		2				○		1					
	中国哲学文献研究 D	1・2後		2				○		1					
	中国思想文献研究 A	1・2前		2				○							
	中国思想文献研究 B	1・2後		2				○							
	中国思想文献研究 C	1・2前		2				○							
	中国思想文献研究 D	1・2後		2				○							
	中国文化文献研究 A	1・2前		2				○		1					
	中国文化文献研究 B	1・2後		2				○		1					
	中国文化文献研究 C	1・2前		2				○		1					
	中国文化文献研究 D	1・2後		2				○		1					
	中国思想学專題講義	1・2前		2				○		1					隔年
	中国化学專題研究	1・2③		2				○		1					隔年
	中国思想文化学研究法 A	1・2前		2				○		2			1		共同

教 育 課 程 等 の 概 要

(人間社会科学研究科人文社会科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	中国政治史史料講義A	1・2③		2		※	○								※講義・隔年
	中国政治史史料講義B	1・2③		2		※	○		1						※講義・隔年
	中国文化史史料研究A	1・2②		2			○			1					隔年
	中国文化史史料研究B	1・2④		2			○			1					隔年
	中国社会史史料研究A	1・2②		2			○		1						隔年
	中国社会史史料研究B	1・2④		2			○		1						隔年
	アジア歴史社会論A	1・2④		2		○									隔年
	アジア歴史社会論B	1・2④		2		○			1						隔年
	近代国家論研究	1・2前		2		○									隔年
	欧米社会構造論研究	1・2前		2		○								兼1	隔年
	欧米政治文化史史料研究A	1・2①		2			○								隔年
	欧米政治文化史史料研究B	1・2①		2			○		1						隔年
	欧米社会経済史史料研究A	1・2③		2			○								隔年
	欧米社会経済史史料研究B	1・2③		2			○		1						隔年
	欧米社会経済史史料研究C	1・2④		2			○		1						隔年
	欧米社会経済史史料研究D	1・2④		2			○								隔年
	西洋社会史文書研究A	1・2①		2			○			1					隔年
	西洋社会史文書研究B	1・2②		2			○			1					隔年
	西洋文化史文書研究A	1・2③		2			○			1					隔年
	西洋文化史文書研究B	1・2④		2			○			1					隔年
	地中海世界史研究A	1・2①		2			○		1						隔年
	地中海世界史研究B	1・2前		2			○								隔年
	地中海文書解析学A	1・2後		2			○								隔年
	地中海文書解析学B	1・2③		2			○		1						隔年
	日本古典文学注釈研究A	1・2前		2		※	○		1						※講義・隔年
	日本古典文学注釈研究B	1・2後		2		※	○		1						※講義・隔年
	日本古典文学注釈研究C	1・2前		2		※	○					1			※講義・隔年
	日本古典文学注釈研究D	1・2後		2		※	○					1			※講義・隔年
	日本古典文学注釈研究E	1・2前		2		※	○		1						※講義・隔年
	日本古典文学注釈研究F	1・2後		2		※	○		1						※講義・隔年
	日本古典文学解読研究A	1・2前		2			○								隔年
	日本古典文学解読研究B	1・2後		2			○								隔年
	日本古典文学解読研究C	1・2前		2			○								隔年
	日本古典文学解読研究D	1・2後		2			○								隔年
	日本古典文学解読研究E	1・2前		2			○								隔年
	日本古典文学解読研究F	1・2後		2			○								隔年
	日本近現代文学注釈研究A	1・2前		2			○		1						隔年
	日本近現代文学注釈研究B	1・2後		2			○		1						隔年
	日本近現代文学注釈研究C	1・2前		2			○			1					隔年

教 育 課 程 等 の 概 要

(人間社会科学研究科人文社会科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
人 文 学 プ ロ ゲ ラ ム	日本近現代文学注釈研究D	1・2後		2				○								隔年
	日本近現代文学解読研究A	1・2前		2				○								隔年
	日本近現代文学解読研究B	1・2後		2				○								隔年
	日本近現代文学解読研究C	1・2前		2				○								隔年
	日本近現代文学解読研究D	1・2後		2				○								隔年
	日本語学研究A	1・2前		2				○			1					隔年
	日本語学研究B	1・2後		2				○			1					隔年
	日本語史研究A	1・2前		2				○								隔年
	日本語史研究B	1・2後		2				○								隔年
	中国古典散文演習A	1・2前		2				○								
	中国古典散文演習B	1・2後		2				○			1					
	中国古典散文演習C	1・2前		2				○								
	中国古典散文演習D	1・2後		2				○			1					
	中国古典韻文演習A	1・2前		2				○				1				
	中国古典韻文演習B	1・2後		2				○				1				
	中国古典韻文演習C	1・2前		2				○				1				
	中国古典韻文演習D	1・2後		2				○				1				
	中国古典詩演習A	1・2前		2				○			1					
	中国古典詩演習B	1・2後		2				○			1					
	中国古典詩演習C	1・2前		2				○			1					
	中国古典詩演習D	1・2後		2				○			1					
	中国古典小説演習A	1・2前		2				○			1					
	中国古典小説演習B	1・2後		2				○			1					
	中国古典小説演習C	1・2前		2				○			1					
	中国古典小説演習D	1・2後		2				○			1					
	中国文学特殊講義A	1・2前		2				○								兼1 隔年
	中国文学特殊講義B	1・2前		2				○								兼1 隔年
	近代アメリカ文学演習A	1・2②		2					○		1					
	近代アメリカ文学演習B	1・2②		2					○		1					
	現代アメリカ文学演習A	1・2①		2					○			1				
	現代アメリカ文学演習B	1・2①		2					○			1				
	アメリカ文学理論演習A	1・2④		2					○			1				
	アメリカ文学理論演習B	1・2④		2					○			1				
	アメリカ小説作品演習A	1・2③		2					○		1					
	アメリカ小説作品演習B	1・2③		2					○		1					
	アメリカ文学特殊講義A	1・2①		2				○	※		1	1				※演習
	アメリカ文学特殊講義B	1・2①		2				○	※		1	1				※演習
	アメリカ文学研究演習A	1・2③		2					○		1	1				
	アメリカ文学研究演習B	1・2③		2					○		1	1				
	批評理論演習A	1・2前		2					○							隔年
批評理論演習B	1・2後		2					○							隔年	
イギリス詩文学作品演習A	1・2④		2					○				1				
イギリス詩文学作品演習B	1・2④		2					○				1				
イギリス詩文学作品研究演習A	1・2④		2					○				1				
イギリス詩文学作品研究演習B	1・2④		2					○				1				
イギリス小説作品研究演習A	1・2後		2					○							兼1	
イギリス小説作品研究演習B	1・2後		2					○							兼1	
イギリス小説作品演習A	1・2前		2					○							兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(人間社会科学研究科人文社会科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	イギリス小説作品演習B	1・2前		2				○							兼1
	イギリス戯曲文学演習A	1・2②		2				○			1				
	イギリス戯曲文学演習B	1・2③		2				○			1				
	イギリス戯曲文学演習C	1・2②		2				○			1				
	イギリス戯曲文学演習D	1・2③		2				○			1				
	英語圏文学概論A	1・2④		2				○					1		
	英語圏文学概論B	1・2④		2				○					1		
	英語圏文学特殊講義A	1・2①		2			○			1			1		共同
	英語圏文学特殊講義B	1・2②		2			○			1			1		共同
	世界英語圏文学批評演習A	1・2後		2				○							
	世界英語圏文学批評演習B	1・2後		2				○							
	英語圏文学作品演習A	1・2前		2				○							
	英語圏文学作品演習B	1・2前		2				○							
	英語圏文学作品研究演習A	1・2後		2				○							
	英語圏文学作品研究演習B	1・2後		2				○			1				
	英語圏詩文学作品演習A	1・2前		2				○							
	英語圏詩文学作品演習B	1・2前		2				○							
	英語学概論A	1・2①		2			○			2					共同
	英語学概論B	1・2③		2			○			2					共同
	英語学理論演習A	1・2①		2				○		1					隔年
	英語学理論演習B	1・2①		2				○							隔年
	近代英語作品研究演習A	1・2③		2				○		1					隔年
	近代英語作品研究演習B	1・2③		2				○							隔年
	中期英語概論A	1・2①		2			○			1					隔年
	中期英語概論B	1・2②		2			○								隔年
	中期英語作品研究演習A	1・2③		2				○		1					隔年
	中期英語作品研究演習B	1・2④		2				○							隔年
	英語学特殊講義A	1・2①		2			○			2					共同
	英語学特殊講義B	1・2③		2			○			2					共同
	ドイツ文学理論演習A	1・2後		2				○		1					隔年
	ドイツ文学理論演習B	1・2前		2				○							隔年
	近現代ドイツ語学演習A	1・2前		2				○			1				隔年
	近現代ドイツ語学演習B	1・2後		2				○			1				隔年
	ドイツ文学語学特殊講義A	1・2前		2			○								隔年
	ドイツ文学語学特殊講義B	1・2前		2			○								隔年
	ドイツ文学語学特殊講義C	1・2前		2			○								隔年
	ドイツ語圏文化論演習A	1・2後		2				○							隔年
	ドイツ語圏文化論演習B	1・2後		2				○							隔年
	ドイツ語圏言語文化演習A	1・2前		2				○		1					隔年
	ドイツ語圏言語文化演習B	1・2後		2				○		1					隔年
	ドイツ語圏言語文化演習C	1・2前		2				○							隔年
	ドイツ語圏言語文化演習D	1・2後		2				○							隔年
	ドイツ文学発展演習A	1・2前		2				○		1					隔年
	ドイツ文学発展演習B	1・2前		2				○							隔年
	ドイツ近現代文学演習A	1・2前		2				○					1		隔年
	ドイツ近現代文学演習B	1・2後		2				○					1		隔年
	ドイツ小説演習A	1・2前		2				○							隔年
	ドイツ小説演習B	1・2後		2				○							隔年

教 育 課 程 等 の 概 要

(人間社会科学研究科人文社会科学専攻 (博士課程前期)) 【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	ドイツ語コーパス言語学A	1・2前		2		○									隔年
	ドイツ語コーパス言語学B	1・2後		2		○									隔年
	フランス語文学研究A	1・2後		2			○			1					隔年
	フランス語文学研究B	1・2後		2			○								隔年
	フランス語文学批評研究A	1・2前		2			○		1						隔年
	フランス語文学批評研究B	1・2前		2			○								隔年
	フランス語文学・フランス語学演習A	1・2後		2			○			1					隔年
	フランス語文学・フランス語学演習B	1・2前		2			○								隔年
	近現代フランス語文学作品研究演習A	1・2前		2			○		1						隔年
	近現代フランス語文学作品研究演習B	1・2前		2			○								隔年
	近現代フランス語文学批評演習A	1・2後		2			○		1						隔年
	近現代フランス語文学批評演習B	1・2後		2			○								隔年
	近現代フランス語表現小説研究A	1・2前		2			○		1						隔年
	近現代フランス語表現小説研究B	1・2前		2			○								隔年
	フランス語コミュニケーションと修辞学演習A	1・2前		2			○			1					隔年
	フランス語コミュニケーションと修辞学演習B	1・2前		2			○								隔年
	フランス語コミュニケーションと修辞学演習C	1・2後		2			○			1					隔年
	フランス語コミュニケーションと修辞学演習D	1・2後		2			○								隔年
	フランス語圏文化論演習A	1・2前		2			○			1					隔年
	フランス語圏文化論演習B	1・2前		2			○								隔年
	フランス語圏文化論演習C	1・2後		2			○			1					隔年
	フランス語圏文化論演習D	1・2後		2			○								隔年
	フランス語文学・フランス語学特殊講義A	1・2前		2		○			1						隔年
	フランス語文学・フランス語学特殊講義B	1・2前		2		○									隔年
	言語研究法講義 I A	1・2前		2		※	○			2					※講義・隔年・共同
	言語研究法講義 I B	1・2前		2		※	○								※講義・隔年・共同
	言語研究法講義 II A	1・2後		2		※	○			2					※講義・隔年・共同
	言語研究法講義 II B	1・2後		2		※	○								※講義・隔年・共同
	一般言語学演習A	1・2前		2		※	○			1					※講義・隔年
	一般言語学演習B	1・2前		2		※	○								※講義・隔年
	一般言語学特別演習A	1・2後		2		※	○			1					※講義・隔年

教 育 課 程 等 の 概 要

(人間社会科学研究科人文社会科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
	一般言語学特別演習 B	1・2後		2		※	○								※講 義・隔 年
	理論・応用言語学演習 A	1・2前		2		※	○								兼1 ※講 義・隔 年
	理論・応用言語学演習 B	1・2前		2		※	○								※講 義・隔 年
	理論・応用言語学特別演習 A	1・2後		2		※	○								※講 義・隔 年
	理論・応用言語学特別演習 B	1・2後		2		※	○								※講 義・隔 年
	歴史・対照言語学演習 A	1・2前		2			○			1					隔年
	歴史・対照言語学演習 B	1・2前		2			○								隔年
	歴史・対照言語学特別演習 A	1・2後		2			○			1					隔年
	歴史・対照言語学特別演習 B	1・2後		2			○								隔年
	ヨーロッパ語比較構文論講義 A	1・2前		2			○								隔年
	ヨーロッパ語比較構文論講義 B	1・2前		2			○								隔年
	ヨーロッパ語比較構文論演習 A	1・2後		2			○								隔年
	ヨーロッパ語比較構文論演習 B	1・2後		2			○								隔年
	人文地理学特別講義	1・2前		2			○								隔年
	人文地理学基礎論演習 A	1・2前		2			○								隔年
	人文地理学基礎論演習 B	1・2前		2			○			1					隔年
	人文地理学特論演習 A	1・2前		2			○								隔年
	人文地理学特論演習 B	1・2前		2			○		1						隔年
	世界地域システム論演習 A	1・2後		2			○								隔年
	世界地域システム論演習 B	1・2後		2			○			1					隔年
	グローバル経済地域論演習 A	1・2後		2			○								隔年
	グローバル経済地域論演習 B	1・2後		2			○		1						隔年
	現代インド地誌学	1・2後		2			○	※							※演 習・隔 年
	条件不利地域の地理学	1・2後		2			※	○		1					※講 義・隔 年
	経済地理学研究	1・2前		2			○	※		1					※演 習・隔 年
	農村地理学研究	1・2後		2			○	※							※演 習・隔 年
	自然地理学特別講義	1・2後		2			○								兼1 隔年
	自然地理学基礎論演習 A	1・2前		2			○								隔年
	自然地理学基礎論演習 B	1・2前		2			○			1					隔年
	自然地理学特論演習 A	1・2前		2			○								隔年
	自然地理学特論演習 B	1・2前		2			○								隔年
	地表変動論演習 A	1・2後		2			○								隔年
	地表変動論演習 B	1・2後		2			○			1					隔年
	自然地域形成論演習 A	1・2後		2			○								隔年
	自然地域形成論演習 B	1・2後		2			○								隔年
	自然地域システム論研究	1・2前		2			○								隔年
	地表変動論研究	1・2後		2			○			1					隔年

教 育 課 程 等 の 概 要

(人間社会科学研究科人文社会科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		
	地理情報システム学講義	1・2①		2		○				1					
	地理情報システム学演習	1・2④		2			○			1					
	地理学研究法A	1・2前		2			○			1					共同
	地理学研究法B	1・2後		2			○			1					共同
	地理学野外実験	1・2前		1				○		1	2				共同
	地理学野外演習	1・2後		2			○			1	2				共同
	日本考古学解析A	1・2①		2			○								兼1 隔年
	日本考古学解析B	1・2②		2			○								隔年
	アジア考古学解析	1・2後		2		○									隔年
	日本考古学特論	1・2④		2		○									隔年
	世界考古学解析A	1・2④		2			○			1					隔年
	世界考古学解析B	1・2④		2			○								隔年
	考古学広領域講義	1・2②		2		○									隔年
	考古文献評論A	1・2②		2			○								隔年
	考古文献評論B	1・2②		2			○								隔年
	考古資料評論	1・2③		2			○			1					
	アジア比較考古学演習A	1・2③		2			○			1					隔年・ 共同
	アジア比較考古学演習B	1・2③		2			○								隔年
	考古学資料実習A	1・2②		1				○		1	1				隔年・ 共同
	考古学資料実習B	1・2④		1				○		1	1				共同
	考古学資料実習C	1・2②		1				○							隔年・ 共同
	総合文化財研究法Ⅰ	1・2④		2		○									隔年
	総合文化財研究法Ⅱ	1・2後		2		○									隔年
	総合文化財調査実習Ⅰ	1・2前		1				○							隔年
	総合文化財調査実習Ⅱ	1・2後		1				○							隔年
	総合文化財解析演習Ⅰ	1・2②		2			○								隔年
	総合文化財解析演習Ⅱ	1・2④		2			○			1					隔年
	有形文化財研究法Ⅰ	1・2①		2		○									隔年
	有形文化財研究法Ⅱ	1・2前		2		○				1					隔年
	有形文化財解析演習Ⅰ	1・2前		2		○		○		1					隔年
	有形文化財解析演習Ⅱ	1・2後		2		○		○		1					隔年
	有形文化財調査実習Ⅰ	1・2前		1				○							隔年
	有形文化財調査実習Ⅱ	1・2後		1				○							隔年
	地域文化財研究法Ⅰ	1・2前		2		○							1		隔年
	地域文化財研究法Ⅱ	1・2前		2		○									隔年
	地域文化財解析演習Ⅰ	1・2前		2			○						1		隔年
	地域文化財解析演習Ⅱ	1・2後		2			○						1		隔年
	地域文化財調査実習Ⅰ	1・2前		1				○							隔年
	地域文化財調査実習Ⅱ	1・2後		1				○							隔年
	文化財学特殊講義Ⅰ	1・2③		2		○									隔年
	文化財学特殊講義Ⅱ	1・2後		2		○									隔年
	小計(362科目)	—	0	712	0			—		27	21	0	7	0	兼15
	心理学研究法基礎演習A	1②		1				○		7	4	1	2		共同
	心理学研究法基礎演習B	1④		1				○		7	4	1	2		共同
	心理学研究法応用演習A	2②		1				○		7	4	1	2		共同
	心理学研究法応用演習B	2④		1				○		7	4	1	2		共同
	Academic writing in psychology A	1①		1				○		7	4	1	2		兼1 共同

教 育 課 程 等 の 概 要

(人間社会科学研究科人文社会科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
プログラム専門科目 心理学プログラム	Academic writing in psychology B	1③		1				○		7	4	1	2		兼1 共同	
	Advanced academic writing in psychology A	2①		1				○		7	4	1	2		兼1 共同	
	Advanced academic writing in psychology B	2③		1				○		7	4	1	2		兼1 共同	
	臨床心理学特講 I	1①		2			○			1	3		1			
	心理学特講A	1～2前		2			○			7	4	1	1		兼1 集中・隔年	
	心理学特講B	1～2後		2			○			7	4	1	1		兼1 集中・隔年	
	心理学特講C	1～2前		2			○			7	4	1	1		集中・隔年	
	心理学特講D	1～2後		2			○			7	4	1	1		集中・隔年	
	心理学基礎演習 I	1①		2				○		7	4	1	2		共同	
	心理学基礎演習 II	1②		2				○		7	4	1	2		共同	
	心理学基礎演習 III	1③		2				○		7	4	1	2		共同	
	心理学基礎演習 IV	1④		2				○		7	4	1	2		共同	
	心理学応用演習 I	2①		2				○		7	4	1	2		共同	
	心理学応用演習 II	2②		2				○		7	4	1	2		共同	
	心理学応用演習 III	2③		2				○		7	4	1	2		共同	
	心理学応用演習 IV	2④		2				○		7	4	1	2		共同	
	幼児心理学観察演習	1前		1					○		1	1				集中・共同
	臨床心理学特講 II	1④		2			○				1					
	心理療法特講	2①		2			○			1	2					
	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	1③		2			○			1						
	心の健康教育に関する理論と実践	1後		2			○				3					
	臨床心理面接特講 I (心理支援に関する理論と実践)	1後		2					○	1	3		1		集中	
	臨床心理面接特講 II	2後		2					○	1	3		1		集中	
	教育分野に関する理論と支援の展開	1①		2					○	1	1				共同	
	保健医療分野に関する理論と支援の展開	1後		2					○						兼1 集中	
	福祉分野に関する理論と支援の展開	1・2前		2					○						兼1 隔年・集中	
	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	1・2前		2					○	1					兼1 隔年・集中	
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	1・2前		2			○								兼1 隔年・集中	
	臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践)	1②		2			○				1		1			
	臨床心理査定演習 II	1③		2			○			1	1				共同	
	臨床心理基礎実習 I	1前		2			○			1			1			
	臨床心理基礎実習 II	1後		2			○			1					集中・共同	
	臨床心理実習 I (心理実践実習IV)	2前		2			○			1	3		2		共同	
	臨床心理実習 II	2後		2			○			1	3		2		共同	
	心理実践実習 I	1通		1					○	1	3		2		共同	
	心理実践実習 II	1通		1					○	1	3		2		共同	
心理実践実習 III	2通		1					○	1	3		2		共同		
心理実践実習 V	2通		1					○	1	3		2		共同		

教 育 課 程 等 の 概 要

(人間社会科学研究科人文社会科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	心理実践実習A	1通		1				○	1	1					集中・共同 集中・共同 集中・共同
	心理実践実習B	1通		1				○	1	1					
	心理実践実習C	2通		1				○		3					
	心理実践実習D	2通		1				○	1	3		1			
	小計(47科目)	—	0	77	0			—	8	7	1	3	0	兼9	
	法学・政治学プログラム特別演習Ⅰ	1・2前		2				○	1	1					兼1
	法学・政治学プログラム特別演習Ⅱ	1・2後		2				○	1	1					兼1
	憲法理論	1・2①		2			○			1					
	行政法理論	1・2①		2			○		1						
	刑事システム論	1・2②		2			○					1			
	現代憲法論	1・2①		2			○								兼1 隔年
	社会変動分析論	1・2②		2			○		1						
	家族支援社会論	1・2前		2			○		1						隔年
	政治倫理論	1・2前		2			○					1			隔年
	政策過程論	1・2②		2			○		1						隔年
	日本政治論	1・2③		2			○		1						
	比較自治体論	1・2前		2			○			1					隔年
	租税法	1・2前		2			○		1						隔年
	国際租税法	1・2前		2			○		1						隔年
	憲法理論演習	1・2④		2				○		1					
	行政法理論演習	1・2③		2				○	1						
	刑事システム論演習	1・2③		2				○				1			
	社会変動分析論演習	1・2③		2				○	1						
	家族支援社会論演習	1・2後		2				○	1						隔年
	政治倫理論演習	1・2後		2				○				1			隔年
	日本政治論演習	1・2②		2				○	1						隔年
	比較自治体論演習	1・2③		2				○		1					隔年
	租税法演習	1・2後		2				○	1						隔年
	国際租税法演習	1・2後		2				○	1						隔年
	不動産法	1・2③		2			○		1						
	物件管理法	1・2②		2			○			1					
	契約法	1・2①		2			○			1					
	経営法務	1・2後		2			○		1						隔年
	経営法務戦略論	1・2後		2			○		1						隔年
	企業組織法	1・2②		2			○			1					隔年
	企業ファイナンス法	1・2②		2			○			1					隔年
	民事訴訟の理論と実務	1・2②		2			○		1						隔年
	裁判外紛争処理論	1・2②		2			○		1						隔年
	雇用関係法	1・2前		2			○		1						隔年
	不動産法演習	1・2前		2				○	1						
	物件管理法演習	1・2④		2				○		1					
	契約法演習	1・2③		2				○		1					
	経営法務演習	1・2前		2				○	1						隔年
	経営法務戦略論演習	1・2前		2				○	1						隔年
	企業組織法演習	1・2④		2				○		1					隔年
	企業ファイナンス法演習	1・2④		2				○		1					隔年
	民事訴訟の理論と実務演習	1・2④		2				○	1						隔年

教 育 課 程 等 の 概 要

(人間社会科学研究科人文社会科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
法学・ 政治学 プログラム	裁判外紛争処理論演習	1・2④		2			○		1						隔年
	雇用関係法演習	1・2後		2			○		1						
	国際法	1・2前		2		○									兼1 隔年
	国際機構法	1・2前		2		○									兼1 隔年
	国際政治経済論	1・2②		2		○				1					
	国際刑事政策	1・2④		2		○			1						
	安全保障論	1・2前		2		○									兼1 隔年
	国際政治学	1・2前		2		○									兼1 隔年
	外交論	1・2①		2		○				1					
	国際秩序構築論	1・2後		2		○			1						
	国際関係私法	1・2①		2		○				1					
	比較政治思想論	1・2前		2		○									兼1 隔年
	日本法概説1	1・2①		2		○					1				
	日本法概説2	1・2③		2		○					1				
	国際刑事法	1・2④		2		○			1						
	国際法演習	1・2後		2			○								兼1 隔年
	国際機構法演習	1・2後		2			○								兼1 隔年
	国際政治経済論演習	1・2④		2			○			1					
	国際刑事政策演習	1・2①		2			○		1						
	安全保障論演習	1・2後		2			○								兼1 隔年
	国際政治学演習	1・2後		2			○								兼1 隔年
	外交論演習	1・2④		2			○			1					
	国際秩序構築論演習	1・2前		2			○		1						
	国際関係私法演習	1・2②		2			○			1					
	比較政治思想論演習	1・2後		2			○								兼1 隔年
	医事法制度論	1・2①		2		○			1						隔年
	医事刑法論	1・2前		2		○			1						隔年
	医療刑事手続論	1・2後		2		○			1						隔年
	医療労務管理と法	1・2前		2		○			1						隔年
	社会調査論	1・2後		2		○			1						隔年
	医療社会学特論	1・2前		2		○			1						隔年
	精神科医療法制論	1・2後		2		○			1						隔年
	グローバル法政特講(アジアにおける人権発展)	1・2前		2			○								兼2 集中
	グローバル法政特講(サンパウロ大学サマースクール)	1・2前		2			○								兼1 集中
	グローバル法政特講(海外フィールドスタディ・スペイン)	1・2後		2			○								兼1 集中
	グローバル法政特講(海外人権発展論演習)	1・2前		2			○								兼2 集中
	アメリカ政治論	1・2①		2		○							1		
	アメリカ政治論演習	1・2③		2			○						1		
	現代政治学	1・2①		2		○				1					
	現代政治学演習	1・2④		2			○			1					
進化政治学	1・2前		2		○							1			
進化政治学演習	1・2④		2			○						1			
家族法	1・2前		2		○				1						
家族法演習	1・2後		2			○			1						
Medical History In China	1・2後		2		○							1			
Medical Ethics and Law	1・2④		2			○		1							

教 育 課 程 等 の 概 要

(人間社会科学研究科人文社会科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
	小計 (88科目)	—	0	176	0	—			12	10	1	4	0	兼5
経済学 プログラム	経済学プログラム特別演習Ⅰ	1・2前		2				○		12	9			
	経済学プログラム特別演習Ⅱ	1・2後		2				○		12	9			
	応用ファイナンス	1・2前		2			○			1				
	理論ファイナンス	1・2前		2			○		1					
	金融資本市場分析	1・2後		2			○			1				
	経済数学	1・2後		2			○							兼1
	日本銀行連携講義 1	1・2		2			○		1					兼2 隔年・ オムニバス
	日本銀行連携講義 2	1・2		2			○		1					兼2 隔年・ オムニバス
	金融庁連携講義 1	1・2		2			○		1					兼2 隔年・ 共同・ オムニバス
	金融庁連携講義 2	1・2		2			○		1					兼2 隔年・ 共同・ オムニバス
	日本政策投資銀行連携講義 1	1・2後		2			○							兼1 隔年
	日本政策投資銀行連携講義 2	1・2後		2			○							兼1 隔年
	マクロ経済学	1・2②		2			○					1		
	ミクロ経済学	1・2②		2			○			1				
	マクロ金融分析	1・2③		2			○			1				
	計量経済学 1	1・2①		2			○			1				
	計量経済学 2	1・2③		2			○			1				
	経済統計分析	1・2③		2			○			1				
	経済時系列分析	1・2③		2			○					1		
	労働市場分析	1・2②		2			○							
	財政学	1・2④		2			○				1			
	経済戦略論	1・2③		2			○				1			
	地方財政論	1・2②		2			○							兼1
	経済情報分析	1・2③		2			○							
	公共経済学	1・2④		2			○							
	医療経済学	1・2①		2			○			1				
	公共政策論	1・2③		2			○			1				
	国際公共政策	1・2①		2			○			1				
	応用国際公共政策	1・2①		2			○				1			
	開放マクロ経済学	1・2③		2			○					1		
	産業組織と政策分析	1・2③		2			○				1			
	欧米経済史 1	1・2④		2			○			1				隔年
	欧米経済史 2	1・2④		2			○			1				隔年
政治経済学 1	1・2①		2			○							兼1 隔年	
政治経済学 2	1・2①		2			○							兼1 隔年	
経済学史 1	1・2④		2			○				1			隔年	
経済学史 2	1・2④		2			○				1			隔年	
経済学特講	1・2④		2			○							兼2	
マクロ経済分析	1・2④		2			○			1					
小計 (39科目)	—	—	0	78	0	—			10	8	0	2	0	兼8
	リサーチ・リテラシー	1・2前		2				○		5	7	1	1	兼1 オムニ バス
	イノベーション・マネジメント論	1・2後		2				○			1			

教 育 課 程 等 の 概 要

(人間社会科学研究科人文社会科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
国際経済開発プログラム	開発計量経済学I	1②		2		○										兼1
	開発計量経済学II	1前		2		○										兼1 集中
	経済統計分析論	1①		2		○			1							
	グローバルガバナンス論	1③		2		○				1						
	都市経済学	1②		2		○			1							
	農村開発論	1④		2		○			1							
	技術経営論	1④		2		○				1						
	人的資源開発論	1②		2		○				1						
	公共管理論	1③		2		○				1						
	経営組織論	1後		2		○			1							集中
	経営戦略論	1前		2		○										兼1 集中
	環境政策論	1③		2		○										兼1
	都市政策論	1④		2		○				1						
	国際協力論	1前		2		○			1	1						集中
	労働政策論	1後		2		○										兼1 集中
	国際金融論	1②		2		○										兼1
	公共経済論	1③		2		○							1			
農業生産経済分析	1③		2		○				1							
ゲーム理論	1①		2		○							1				
小計 (26科目)	—	—	0	52	0	—	—	—	4	4	0	1	0		兼9	
	総合科学系演習	1②		2			○		3							
	人間総合科学特論A	1・2前		2		○										兼1 隔年・集中・共同
	人間総合科学特論B	1・2前		2		○										兼1 隔年・集中・共同
	コンピュータと言語研究・教育	1・2④		2		○			2							オムニバス・共同(一部)
	言語構造論	1・2①		2		○			1	2						オムニバス
	言語類型研究	1・2④		2		○			1	2						オムニバス
	心理言語的アプローチからの第二言語習得	1・2①		2		○			1	1						オムニバス・共同(一部)
	実験言語学	1・2②		2		○				2						オムニバス・共同(一部)
	運動生理・生化学	1・2③		2		○			1	1						オムニバス・共同(一部)
	運動適応学	1・2②		2		○			1	1						オムニバス・共同(一部)
運動制御学	1・2③		2		○			1	1		1				オムニバス・共同(一部)	

教 育 課 程 等 の 概 要

(人間社会科学研究科人文社会科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
人間総合科学プログラム	運動精神科学	1・2④		2		○			1	1					オムニバス・共同(一部)
	認知科学論	1・2①		2		○			1	1					オムニバス・共同(一部)
	比較認知論	1・2④		2		○			1	1					オムニバス・共同(一部)
	環境行動論	1・2①		2		○			2						オムニバス・共同(一部)
	適応行動論	1・2②		2		○			1	1					オムニバス・共同(一部)
	社会行動論	1・2③		2		○			1	1					オムニバス・共同(一部)
	最新行動科学特論	1・2前		2		○									兼1 集中
	現代哲学	1・2②		2		○			1	1					オムニバス・共同(一部)
	美的感性論	1・2前		2		○			1	1					オムニバス・共同(一部)
	文化哲学	1・2①		2		○			1	1					オムニバス・共同(一部)
	比較芸術論	1・2②		2		○			1	1					共同
	実践倫理学	1・2④		2		○			1	2					オムニバス・共同(一部)
	比較宗教思想史	1・2③		2		○				2					オムニバス・共同(一部)
	マイノリティ文化思想	1・2③		2		○				2					オムニバス・共同(一部)
	日本地域研究	1・2②		2		○				2					共同
	日本文藝社会研究	1・2①		2		○				2					共同
	日本現代史	1・2③		2		○			1	1					オムニバス・共同(一部)
アジア文化論(現代文化)	1・2③		2		○				2					共同	
アジア文化論(表象文化)	1・2④		2		○			1	1					共同	
アジア文化論(伝統文化)	1・2②		2		○			1	1					集中・共同	
ヨーロッパ社会論	1・2①		2		○			1	1					オムニバス・共同(一部)	

教 育 課 程 等 の 概 要

(人間社会科学研究科人文社会科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	地球表層物質輸送論	1・2②		2		○									兼2 オムニバス
	自然環境リスク論	1・2③		2		○									兼6 オムニバス
	地球流体防災論	1・2①		2		○									兼1 オムニバス
	生物多様性科学(環境科学入門)	1・2②		2		○									兼2 オムニバス
	小計(67科目)	—	0	134	0	—	—	—	29	42	1	6	0		兼14
特別研究	特別研究	1~2	4				○		98	104	4	11			兼8
	小計(711科目)	—	4	1389	0	—	—	—	98	104	4	26	0		兼94
合計(746科目)		—	4	1442	0	—	—	—	98	104	4	28	0		兼229
学位又は称号		修士(文学) 修士(心理学) 修士(法学) 修士(経済学) 修士(マネジメント) 修士(経営学) 修士(国際協力学) 修士(学術)			学位又は学科の分野			文学関係 法学関係 経済学関係 社会学・社会福祉学関係							
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文もしくは所定の基準による研究成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格すること。 修了要件						1 学年の学期区分 2学期(4ターム)									
科目区分		要修得単位数	指定科目等			1 学期の授業期間						15週			
大学院共通科目	持続可能な発展科目	1単位以上				1 学期の授業期間						15週			
	キャリア開発・データリテラシー科目	1単位以上													
研究科共通科目		3単位以上				1 学期の授業期間						15週			
プログラム専門科目	所属プログラム専門科目	12単位以上													
	特別研究	4単位	「必修」特別研究：4単位			1 時限の授業時間						90分			
他プログラム専門科目		2単位以上													
研究科共通、所属プログラム専門科目または他プログラム専門科目		7単位以上				1 時限の授業時間						90分			
合計		30単位以上													

(注)

1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専

教 育 課 程 等 の 概 要

(人間社会科学研究科人文社会科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	

門学校の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。

- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教育課程等の概要															
(先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻(博士課程前期))【既設】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	持続可能な発展科目	Hiroshimaから世界平和を考える	1・2②③④	1			○								兼11 オムニバス
		Japanese Experience of Social Development- Economy, Infrastructure, and Peace	1・2②	1			○		1						兼5 オムニバス・メディア
		Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	1・2④	1			○								兼6 オムニバス
		SDGsへの学問的アプローチA	1・2①②	1			○								兼8 オムニバス・共同(一部)メディア
		SDGsへの学問的アプローチB	1・2前③④	1			○		1	2					兼10 オムニバス・メディア
		SDGsへの実践的アプローチ	1・2後	2				○							兼4 共同・集中オムニバス
		ダイバーシティの理解	1・2前	1			○								兼4 共同(一部)・集中
キャリア開発・データリテラシー科目	データリテラシー	データリテラシー	1・2①③④	1			○		1	1			2	兼1 オムニバス	
		医療情報リテラシー	1・2③	1			○							兼7 オムニバス・共同(一部)メディア	
		人文社会系キャリアマネジメント	1・2②④	2			○							兼1 ア, ②のみ集中	
		理工系キャリアマネジメント	1・2前	2			○							兼1 集中	
		ストレスマネジメント	1・2④前	2			○							兼2 ②のみ集中	
		情報セキュリティ	1・2前	2			○		1					兼1 オムニバス	
		MOT入門	1・2①前後	1			○								兼1
アントレプレナーシップ概論	1・2②	1			○								兼1		
小計(15科目)		—	0	20	0	—			4	3		2	0	兼53	
国際性	アカデミック・ライティング I	1①②③④		1			○		15						
	海外学術活動演習 A	1・2①②③④		1			○		15						
	海外学術活動演習 B	1・2①②③④		2			○		15						
研究	MOTとベンチャービジネス論	1・2①②		1			○							兼1	
	技術戦略論	1・2④		1			○							兼1	
	知的財産及び財務・会計論	1・2③		1			○							兼1	
	技術移転論	1・2②④		1			○							兼1	
	技術移転演習	1・2④		1			○							兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
科 共 通 科 目	社 会 性	未来創造思考(基礎)		1		○										兼1 集中
		ルール形成のための国際標準化	1・2②	1		○										兼1 集中
		理工系のための経営組織論	2②	1		○										兼2 集中
		起業案作成演習	1・2前	1				○		1						集中
		事業創造演習	1・2②	1				○								兼1 集中
		フィールドワークの技法	1・2④	1				○								兼1 集中
		インターンシップ	1・2①②③④	1				○		15						
		データビジュアライゼーションA	1・2後	1			○									兼1 集中
		データビジュアライゼーションB	1・2後	1			○									兼1 集中
		環境原論A	1・2後	1			○									兼1 集中
		環境原論B	1・2後	1			○									兼1 集中
		小計(19科目)	—	—	0	20	0	—	—	—	15	0	0	0	0	兼10
		プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	数 学 プ ロ グ ラ ム	数学概論	1②	2		○			8	5	1	1		
代数セミナーⅠ	1~2			4			○		1	1					共同	
代数セミナーⅡ	1~2			4				○		2			1		共同	
位相幾何学セミナー	1~2			4				○		1			1			
微分幾何学セミナー	1~2			4				○		1	1		1		共同	
実解析・関数方程式セミナー	1~2			4				○		2	1		1		共同	
複素解析・関数方程式セミナー	1~2			4				○			1	1			共同	
数理統計学セミナー	1~2			4				○		1	2		1		兼1 共同	
確率論セミナー	1~2			4				○		1	1		1		共同	
総合数理セミナー	1~2			4				○		2	3				共同	
代数数理基礎講義A	1・2①			2			○			1						
代数数理基礎講義B	1・2③			2			○			1						
代数数理特論A	1・2②			2			○			1						隔年
代数数理特論B	1・2④			2			○			1						隔年
代数数理特論C	1・2②			2			○			3						隔年
代数数理特論D	1・2④			2			○			1						隔年
多様幾何基礎講義A	1・2①			2			○			2	1					
多様幾何基礎講義B	1・2④			2			○			2	1					
多様幾何特論A	1・2②			2			○			2	1					隔年
多様幾何特論B	1・2③			2			○			2	1					隔年
多様幾何特論C	1・2②			2			○			2	1					隔年
多様幾何特論D	1・2③			2			○			2	1					隔年
数理解析基礎講義A	1・2①			2			○			1	2	1				
数理解析基礎講義B	1・2③			2			○			1	2	1				
数理解析特論A	1・2③			2			○			2	2	1				隔年
数理解析特論B	1・2④			2			○			1	2	1				隔年
数理解析特論C	1・2②			2			○			2	2	1				隔年
数理解析特論D	1・2④			2			○			1	2	1				隔年
確率統計基礎講義A	1・2①			2			○			1	1					隔年
確率統計基礎講義B	1・2①			2			○			1			1			兼1 隔年
確率統計基礎講義C	1・2①			2			○			1	1					隔年
確率統計基礎講義D	1・2①			2			○			1						兼1 隔年
確率統計特論A	1・2③	2			○			1	1					隔年		
確率統計特論B	1・2④	2			○			1						兼1 隔年		
確率統計特論C	1・2③	2			○			1	1					隔年		
確率統計特論D	1・2④	2			○			1						兼1 隔年		

教 育 課 程 等 の 概 要

(先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
プログラム専門科目	総合数理基礎講義 A	1・2①		2		○			2	2					集中 兼4 兼4 兼4 兼4
	総合数理基礎講義 B	1・2②		2		○			2	2					
	総合数理基礎講義 C	1・2③		2		○			2	3					
	数学特別講義	1・2①		1		○			4						
	数学演習	1～2		4			○		12	10	1				
	数学特別演習 A	1前		2			○		12	10	1				
	数学特別演習 B	1後		2			○		12	10	1				
	数学特別研究	1～2		4			○		12	10	1				
	小計 (44科目)	—	0	109	0	—	—	—	12	10	1	4	0	兼4	
	Introductory course to advanced physics	1③		2		○			2	3		2			オムニバス
	量子場の理論	1②		2		○				1					
	素粒子物理学	1①		2		○			1						
	格子量子色力学	1③		2		○				1					
	熱場の量子論	1③		2		○			1						
	宇宙物理学	1①		2		○			1						
	相対論的宇宙論	1②		2		○				1					
	クォーク物理学	1①		2		○			1	1					
	高エネルギー物理学	1②		2		○				1					
	X線ガンマ線宇宙観測	1①		2		○			1	2					
	光赤外線宇宙観測	1②		2		○			1	1					
	放射光科学特論 A	1①		1		○			3	2		1			兼2 オムニバス
	放射光科学特論 B	1②		1		○			4	2					兼2 オムニバス
	構造物性物理学	1③		2		○			1						
	電子物性物理学	1①		2		○				1					
	光物性論	1④		2		○			1	1					
	表面物理学	1④		2		○			1						
	放射光科学院生実験	1③		1				○	3	6					兼1 共同・集中
	物理学特別講義 A	1・2①		1		○									兼1 集中
物理学特別講義 B	1・2②		1		○									兼1 集中	
物理学特別講義 C	1・2③		1		○									兼1 集中	
物理学特別講義 D	1・2④		1		○									兼1 集中	
物理学エクスターンシップ	1・2①②③④		2				○	2							
物理学演習 I	1①・②		2			○		13	17		9				
物理学演習 II	1③・④		2			○		13	17		9				
物理学特別演習 A	1①・②		2			○		13	17		9				
物理学特別演習 B	1③・④		2			○		13	17		9				
物理学特別研究	1～2		4			○		13	17		9				
小計 (28科目)	—	0	51	0	—	—	—	13	17	0	9	0	兼6		
地球惑星システム学概説	1③		2		○			6	4		5			オムニバス	
太陽系進化論	1①		2		○			1	1		1			オムニバス	
地球史	1③		2		○				2					兼2 オムニバス	
地球ダイナミクス	1②		2		○			2			2			オムニバス	
断層と地震	1④		2		○			2						兼1 オムニバス	

教 育 課 程 等 の 概 要

(先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
地球惑星システム学プログラム専門科目	岩石レオロジー	1・2①		2		○			1						兼1	オムニバス
	地球内部物質学	1・2②		2		○			1	1			1			オムニバス
	地球惑星物質分析法	1・2①		2		○			3	1			1			オムニバス
	地球惑星システム学特別講義A	1・2②		2		○									兼1	集中
	地球惑星システム学特別講義B	1・2②		2		○									兼1	集中
	国際化演習Ⅰ	1・2①② ③④		1			○		6	4			5		兼2	共同・集中
	国際化演習Ⅱ	1・2①② ③④		1			○		6	4			5		兼2	共同・集中
	地球惑星エクスターンシップ	1・2①② ③④		1			○		6	4			5		兼2	共同・集中
	地球惑星融合演習	1後		2			○		6	4			5		兼3	共同
	地球惑星ミッドターム演習	2前		1			○		6	3			5			共同
	地球惑星システム学特別演習A	1①・②		2			○		6	3			3		兼6	
	地球惑星システム学特別演習B	1③・④		2			○		6	3			3		兼6	
	地球惑星システム学特別研究	1～2		4			○		6	3			3		兼6	
	小計(18科目)	—	—	0	34	0	—	—	—	6	3	—	—	3	0	兼6
基礎化学プログラム専門科目	物理化学概論	1①		2		○			2							オムニバス
	無機化学概論	1①		2		○			1	2						オムニバス
	有機化学概論	1①		2		○				2	1					オムニバス
	構造物理化学	1・2③		2		○			1							隔年
	固体物性化学	1・2②		2		○			2							隔年・オムニバス
	錯体化学	1・2②		2		○			1							隔年
	分析化学	1・2③		2		○			1	1						隔年
	構造有機化学	1・2②		2		○			1							隔年
	光機能化学	1・2③		2		○			1							隔年
	放射線反応化学	1・2③		2		○			1							隔年
	量子化学	1・2③		2		○				2						隔年・オムニバス
	反応物理化学	1・2②		2		○				1						隔年
	反応有機化学	1・2②		2		○			1							隔年
	有機典型元素化学	1・2②		2		○			1	1						隔年
	基礎化学特別講義A	1・2①		1		○									兼1	
	基礎化学特別講義B	1・2②		1		○									兼1	
	基礎化学特別講義C	1・2③		1		○									兼1	
基礎化学特別演習A	1①・②		2			○		11	9	1		11				
基礎化学特別演習B	1③・④		2			○		11	9	1		11				
基礎化学特別研究	1～2		4			○		11	9	1		11				
小計(20科目)	—	—	0	39	0	—	—	—	11	9	1	—	11	0	兼3	
プログラム専門科目	多孔材料化学論	1①		2		○			1							
	有機材料化学論	1②④		2		○			1							
	無機材料化学論	1②④		2		○			1							
	高分子合成化学論	1②④		2		○			1							
	機能性色素化学論	1①③		2		○			1							
	材料分析化学論	1①④		2		○			1							

教 育 課 程 等 の 概 要

(先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
プログラム専門科目	超分子化学論	1②④		2		○			1						隔年 隔年 隔年 隔年 隔年 兼3 共同 共同
	高分子材料化学論	1②③		2		○			1						
	ハイブリッド材料化学論	1②④		2		○			1						
	有機物性化学特論	1・2②		2		○				1					
	有機反応化学特論	1・2②		2		○			1						
	環境高分子化学特論	1・2④		2		○				1					
	磁気共鳴化学特論	1・2①		2		○				1					
	錯体化学論	1・2②		2		○				1					
	ディベート実践演習	1・2③		1			○								
	応用化学特別講義A	1・2①		1		○			3						
	応用化学特別講義B	1・2③		1		○			2						
	応用化学特別講義C	1・2②		1		○			2						
	応用化学特別講義D	1・2④		1		○			2						
	応用化学特別演習A	1①・②		2			○		11	4		9			
	応用化学特別演習B	1③・④		2			○		11	4		9		共同	
応用化学特別研究	1~2		4			○		11	4		9				
小計(22科目)		—	0	41	0	—	—	11	4	0	9	0	兼3		
プログラム専門科目	平衡・輸送物性特論	1①(日) 1②(英)		2		○			1					(日)毎年(英)隔年	
	微粒子工学論	1③(日) 1④(英)		2		○			1					(日)毎年(英)隔年	
	物質移動特論	1③(日) 1①(英)		2		○			1					(日)毎年(英)隔年	
	伝熱工学特論	1③(日) 1④(英)		2		○			1					(日)毎年(英)隔年	
	流動解析論	1②(日) 1③(英)		2		○			1					(日)毎年(英)隔年	
	環境化学工学特論	1①(日) 1①(英)		2		○			1					(日)毎年(英)隔年	
	ソフトマテリアルプロセッシング特論	1・2④		2		○				1				日・英隔年	
	熱流体プロセス工学特論	1・2②		2		○			1					日・英隔年	
	複雑流体力学	1・2③		2		○				1				日・英隔年	
	界面制御工学特論	1・2④		2		○				1				日・英隔年	
	化学工学特別講義A	1・2①		1		○			6					集中	
	化学工学特別講義B	1・2②		1		○			6					集中	
	化学工学特別演習A	1前		2			○		8	3		9		共同	
	化学工学特別演習B	1③・④		2			○		8	3		9			
	化学工学特別研究	1~2		4			○		8	3		9			
小計(15科目)		—	0	30	0	—	—	8	3	0	9	0	0		
プログラム専門科目	数理学A	1・2②		2		○			1	1				隔年・共同	
	数理学B	1・2④		2		○			1	1				隔年・共同	
	数理学C	1・2③		2		○			1	1				隔年・共同	

教 育 課 程 等 の 概 要

(先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
電気システム制御プログラム	数理学D	1・2②		2		○			1	1					隔年・共同	
	数理学E	1・2④		2		○				2					隔年・共同	
	システム計画特論	1・2①		2		○			1						隔年	
	システム制御特論	1・2①		2		○			1						隔年	
	社会システム工学特論	1・2③		2		○			1						隔年	
	サイバネティクス工学特論	1・2③		2		○			1						隔年	
	スマートセンシング特論	1・2④		2		○			1						隔年	
	Advanced Power System Engineering (電力系統工学特論)	1・2②		2		○				1		1			隔年	
	サイバネティクス応用特論	1・2①		2		○			1						隔年・オムニバス	
	スケジューリング特論	1・2①		2		○				1					隔年	
	応用数理特論	1・2②		2		○				2					隔年・共同	
	信号処理特論	1・2③		2		○									隔年	
	電力システム運用特論	1・2①		2		○				1					隔年	
	ロボティクス特論	1・2②		2		○			1						隔年	
	生体システム特論	1・2③		2		○			1						隔年	
	学習システム特論	1・2④		2		○				1					隔年	
	パワーエレクトロニクス特論	1・2③		2		○				1					隔年	
	電気システム制御特別講義A	1・2②		2		○				1					隔年・集中	
	電気システム制御特別講義B	1・2④		2		○			1						隔年・集中	
	電気システム制御特別講義C	1・2②		2		○			1						隔年・集中	
	電気システム制御特別講義D	1・2④		2		○			1						隔年・集中	
	電気システム制御特別講義E	1・2②		2		○				1					隔年・集中	
	電気システム制御特別演習A	1①・②		2			○		9	8		9			兼3	
	電気システム制御特別演習B	1③・④		2			○		9	8		9			兼3	
	電気システム制御特別研究	1～2		4			○		9	8		9			兼3	
	小計 (28科目)		—	0	58	0		—	9	8	0	9	0		兼4	
	プログラム専門科目	流体力学特論	1・2①		2		○			1	1					日・英隔年
		機械力学特論	1・2②		2		○			1			2			日・英隔年
反応気体力学特論		1・2③		2		○			2			1			オムニバス, 日・英隔年	
材料強度学特論		1・2②		2		○			2						オムニバス	
Mechanical Behavior and Strength of Engineering Materials		1・2④		2		○			2						オムニバス	
固体力学特論		1・2①		2		○				1					日・英隔年	
制御工学特論		1・2①		2		○			1	1					オムニバス	
Control System Design		1・2④		2		○			1	1					隔年・オムニバス	

教 育 課 程 等 の 概 要

(先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
プログラム 専門科目	設計学特論	1・2④ (日) 1・2④ (英)		2		○			1						日・英 隔年
	自律システム工学特論 Advanced Autonomous Systems Engineering	1・2② 1・2③		2		○			1						隔年
	熱工学特論	1・2③ (日) 1・2① (英)		2		○			1						兼1
	プラズマ工学特論	1・2④		2		○			1			1			日・英 隔年
	弾塑性学特論 Optimization of Structural and Process Design	1・2① 1・2③		2		○				1					兼1 オムニ バス
	Applied Materials Physics	1・2③		2		○			1	1					
	燃焼工学特論 Combustion	1・2② 1・2②		2		○			1	1					隔年・ オムニ バス 隔年・ オムニ バス
	Advanced Microstructure of Materials	1・2①		2		○			1	1					オムニ バス
	材料複合工学特論	1・2③		2		○			2						
	Advanced Energy Plant	1・2④		2		○			1						兼1 オムニ バス
	生産マネジメントシステム特論	1・2④		2		○				1					
	精密工作学特論	1・2①		2		○			1	1					オムニ バス
	核エネルギー特論	1・2④		2		○			1			1			オムニ バス
	Advanced Biomass Resources	1・2③		2		○			1						兼1
	Advanced Biofuel Engineering	1・2③		2		○			1						兼2
	量子材料工学特論	1・2③		2		○			1						隔年
	放射線計測演習	1・2②		2			○		2						集中・ オムニ バス
	Japanese-style Business Management and Manufacturing	1・2④		2		○									兼1 集中
	Japanese-style Manufacturing	1・2②		2		○									兼1 集中
	機械工学特別講義 A	1・2①		2		○			1						隔年・ 集中
	機械工学特別講義 B	1・2①		2		○			1						隔年・ 集中
	機械工学特別講義 C	1・2①		2		○			1						隔年・ 集中
	機械工学特別講義 D	1・2②		2		○			1						隔年・ 集中
	機械工学特別講義 E	1・2②		2		○			1						隔年・ 集中
	機械工学特別講義 F	1・2②		2		○			1						隔年・ 集中
	機械工学特別演習 A	1①・②		2			○		18	9		6			
	機械工学特別演習 B	1③・④		2			○		18	9		6			
	機械工学特別研究	1~2		4			○		18	8		6			
	小計 (39科目)		—	0	80	0	—		19	9	0	7	0		兼7

教 育 課 程 等 の 概 要

(先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
プログラム専門科目	建築学特別演習A	1①・②		2				○			5	7		2		兼1
	建築学特別演習B	1③・④		2				○			5	7		2		兼1
	建築学特別研究	1～2		4				○			5	7		2		兼1
	小計(27科目)	—	0	49	0			—			5	7	0	3	0	兼3
	地盤工学特論	1①		2				○			1					オムニバス・共同(一部)
	構造力学特論	1②		2				○				1				
	コンクリート構造特論	1②		2				○			1					
	Management of Natural Disasters	1④		2				○			1	4				
	Environmental Fluid Mechanics	1③		2				○				1				
	沿岸環境工学特論	1②		2				○				1				
	環境保全工学特論	1②		2				○			1					
	Infrastructure and Regional Planning	1①		2				○				1				
	Advanced Technical English Writing for Civil and Environmental Engineering	1後		2				○			1					
	社会基盤環境工学プログラム	1・2①(日)		2				○			1					
	Advanced River Engineering	1・2①		2				○				1				
	気象学特論	1・2①		2				○				1				
	環境リスク制御工学特論	1・2③		2				○				1				
	Advanced Environmental Systems Engineering	1・2④		2				○	※			1				
	社会基盤環境工学特別講義A	1・2前		1				○			1					
	社会基盤環境工学特別講義B	1・2前		1				○			1					
社会基盤環境工学特別講義C	1・2前		1				○			1						
社会基盤環境工学特別講義D	1・2前		1				○			1						
社会基盤環境工学特別演習A	1①・②		2					○		6	11		7			
社会基盤環境工学特別演習B	1③・④		2					○		6	11		7			
社会基盤環境工学特別研究	1～2		4					○		6	11		5			
小計(21科目)	—	0	40	0			—			6	11	0	7	0	0	
Advanced Parallel Architectures and Algorithms	1・2③		2					○		1					隔年	
Embedded System	1・2①		2					○		1	1		1		オムニバス	
Database Engineering	1・2③		2					○			1				隔年	
Cryptography	1・2④		2					○		1					隔年	
Computational Complexity Theory	1・2③		2					○		1					隔年	
Mobile Computing	1・2①		2					○			1				隔年	
Applied Mechano-informatics	1・2③		2					○		1					隔年	
Dependable Computing	1・2②		2					○		1					隔年	
Artificial and Natural Intelligence	1・2④		2					○			1				隔年	
情報検索概論	1・2②		2					○			1				隔年	
ビジュアル情報学特論	1・2①		2					○		1					隔年	

教 育 課 程 等 の 概 要

(先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
プログラム専門科目	画像工学特論	1・2①		2		○				1					隔年
	ヒューマンコンピュータインタラクション特論	1・2②		2		○			1						隔年
	ソフトウェア工学特論	1・2②		2		○			1						隔年
	情報システム論	1・2③		2		○				1		2			隔年・オムニバス
	計算統計情報環境論	1・2①		2		○			1						隔年
	メディア情報処理特論	1・2④		2		○				1					隔年
	自然言語処理特論	1・2③		2		○			1						隔年
	Analysis in Information Science	1・2②		2		○				1					隔年
	Data Management	1・2③		2		○			1						隔年
	機械学習特論	1・2④		2		○			1						隔年
	情報セキュリティ論	1・2③		2		○			1		1	2			隔年・オムニバス
	Formal Engineering Methods for Software Development	1・2④		2		○			1						隔年
	多変量解析応用	1・2④		2		○				1					隔年
	Practical Machine Learning	1・2④		2		○				1					隔年
	情報科学特別講義A	1・2①		1		○			1						隔年・集中
	情報科学特別講義B	1・2①		1		○			1			1			隔年・集中
	情報科学特別講義C	1・2②		1		○			1			1			隔年・集中
	情報科学特別講義D	1・2②		1		○			1						隔年・集中
	情報科学特別演習A	1①・②		2				○	15	13	1	3			
	情報科学特別演習B	1③・④		2				○	15	13	1	3			
情報科学特別研究	1~2		4				○	15	13	1	3				
小計(32科目)		—	0	62	0		—	15	13	1	3	0	0		
スマートインフォンプログラム専門科目	デジタルものづくり論	1・2②		2		○			1						集中・兼14 オムニバス
	イノベーション論	1・2④		2		○				1					兼1 集中
	モデルベース開発特論	1・2①		2		○				1					隔年
	材料シミュレーション特論	1・2②		2		○			1						
	データ駆動型システム特論	1・2①		2		○						1			
	スマートセンシング特論	1・2④		2		○			1						隔年
	モデルベース演習Ⅰ	1・2②		1				○				1			集中
	モデルベース演習Ⅱ	1・2②		1				○		1					集中
	モデルベース演習Ⅲ	1・2①		1				○	1						集中
	材料モデルベースリサーチ特別講義	1・2④		2		○						1			隔年・集中
	材料シミュレーション特別講義	1・2④		2		○			1						隔年・集中
	データ駆動型スマートシステム特別講義	1・2②		2		○			1						隔年・集中
	スマート検査・モニタリング特別講義	1・2③		2		○			1						隔年・集中
	有機材料化学論	1・2②④		2		○			1						
無機材料化学論	1・2②④		2		○			1							
多孔材料化学論	1・2①		2		○			1							
材料分析化学論	1・2①④		2		○			1							

教 育 課 程 等 の 概 要

(先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	電子工学特別講義A	1・2前		1		○			1						兼1 集中
	電子工学特別講義B	1・2後		1		○			1						兼1 集中
	物質科学概論	1・2①		2		○			2	1					オムニバス
	エレクトロニクス概論	1・2①		2		○			3	1					オムニバス
	職業教育特別講義	1・2①②③④		1		○			1						兼1
	物質基礎科学プレゼンテーション演習	1~2		2			○		7	9		6			
	電子工学プレゼンテーション演習	1~2		2			○		10	10		2			
	物質基礎科学特別演習A	1①・②		2			○		10	10		8			
	電子工学特別演習A	1①・②		2			○		10	10		2			
	物質基礎科学特別演習B	1③・④		2			○		10	10		8			
	電子工学特別演習B	1③・④		2			○		10	10		2			
	量子物質科学特別研究	1~2		4			○		20	20		8			
	小計(48科目)	—	0	93	0	—	—	—	20	20	0	10	0	兼6	
	地球構成物質論	1・2②		2		○				1					オムニバス
	地球表層物質輸送論	1・2②		2		○			1			1			オムニバス・共同(一部)
	自然環境リスク論	1・2③		2		○			1	3		2			オムニバス・共同(一部)
	地球流体防災論	1・2①		2		○				1					
	複雑系基礎論	1・2②		2		○			2	1					オムニバス
	複雑系物質論	1・2①		2		○			1	1					オムニバス・共同(一部)
	複雑系構造論	1・2①		2		○				2					オムニバス・共同(一部)
	相関系量子論	1・2④		2		○			2			1			オムニバス・共同(一部)
	相関系物質論	1・2③		2		○			2	1					オムニバス
	相関系計測論	1・2③		2		○			2						オムニバス・共同(一部)
	計算科学情報環境論	1・2③		2		○			1					兼1	共同
	メディア通信特論	1・2③		2		○				2					共同
	サステナブル物質科学	1・2①		2		○			6	3				兼4	オムニバス・共同(一部)
	総合科学系演習	1・2②		2			○		1						
	Environmental Management	1・2②		2		○			2	4				兼1	オムニバス・共同(一部)

教 育 課 程 等 の 概 要

(先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
理 工 学 融 合 プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	Developing Designing Ability	1・2前		2		※	○		1	1					オムニ バス・ 兼1 共同(一 部) ※講義
	International Environmental Cooperation Studies	1・2①		2		○			3	4					兼4 オムニ バス
	Practical Seminar on International Cooperation Project	1・2前後		2			○			2					兼1 共同
	Development Technology	1・2前		4		○	※		1	5		3			兼1 オムニ バス・ 共同(一 部) ※演習
	Transportation Engineering	1・2①		2		○			1			1			
	Transportation Planning	1・2②		2		○			1						
	Regional and Urban Engineering	1・2④		2		○			2						
	Tourism Policy	1・2③		2		○			1						
	Fundamentals of Survey Methodology	1・2④		2		○				1		1			
	Risk Management Technology	1・2③		2		○				1					
	Sustainable Architecture A	1・2②		2		○									兼1
	Sustainable Architecture B	1・2①		2		○									兼1
	Energy Science and Technology	1・2①		2		○				1					
	Numerical Environmental Impact Assessment I	1・2後		2		○				1					集中
	Numerical Environmental Impact Assessment II	1・2前		2		○				1					集中
	Geographic Information System Technology	1・2後		2		○						1			集中
	Botany Resources for the Future	1・2②		2		○				1					
	Environmental Monitoring	1・2後		2		○				1					集中
	Biomass Energy Technology	1・2③		2		○				1					
	Ecosystem Conservation and Management Science	1・2③		2		○				1					
	Management and Conservation of Ecosystems	1・2①		2		○				1					
	Special Seminar for Linkage Program I	1・2後		2			○			2	4				兼1
	Special Seminar for Linkage Program II	1・2前		2			○			2	4				兼1
	Environmental Health Science	1・2①		2		○					1				
	Urban Environmental Science	1・2③		2		○									兼1
	Environmental Epidemiology	1・2③		2		○					1				
	Data Analytics for Sustainable Development	1・2後		2		○					4				集中
	Smart Urban Development	1・2②		2		○				1					
	理工学融合共同演習	1～2		2			○			13	13	1			兼9
	理工学融合特別演習A	1①・②		2			○			15	11	1	11		兼10
	理工学融合特別演習B	1③・④		2			○			15	11	1	11		兼10
	理工学融合特別研究	1～2		4			○			15	10	1			兼10
	小計 (47科目)		—	0	98	0	—	—	—	20	18	1	16	0	兼18
	小計 (437科目)		—	0	876	0	—	—	—	155	133	3	100	0	兼73
	合計 (471科目)		—	0	916	0	—	—	—	155	133	3	102	0	兼134

教 育 課 程 等 の 概 要

(先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号	修士(理学) 修士(工学) 修士(情報科学) 修士(国際協力学) 修士(学術)		学位又は学科の分野			理学関係 工学関係								
卒業要件及び履修方法						授業期間等								
修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格すること。 修了要件単位数：30単位 ・大学院共通科目：2単位以上 持続可能な発展科目：1単位以上、キャリア開発・データリテラシー科目：1単位以上 ・研究科共通科目：3単位以上 国際性科目：1単位以上、社会性科目：2単位以上 ・プログラム専門科目：25単位以上 ①所属プログラム専門科目：18単位以上 *理工学融合プログラムは16単位以上 (必修科目：8単位) ②他プログラム専門科目：2単位以上						1 学年の学期区分			2学期(4ターム)					
						1 学期の授業期間			15週					
						1 時限の授業時間			90分					

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教育課程等の概要														
(統合生命科学研究科統合生命科学専攻(博士課程前期))【既設】														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
大学院共通科目	Hiroshimaから世界平和を考える	1・2②③④		1		○			2					兼9 オムニバス
	Japanese Experience of Social Development- Economy, Infrastructure, and Peace	1・2②		1		○								兼6 オムニバス
	Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	1・2④		1		○								兼6 オムニバス
	SDGsへの学問的アプローチA	1・2①②		1		○			1					兼7 オムニバス・共同(一部)
	SDGsへの学問的アプローチB	1・2③④前		1		○			3	2				兼8 オムニバス・集中
	ダイバーシティの理解	1・2前		1		○								兼4 オムニバス・共同(一部)・集中
	SDGsへの実践的アプローチ	1・2後		2			○							兼4 共同・集中
キャリア開発・データリテラシー科目	データリテラシー	1・2②③④		1		○								兼5 オムニバス
	医療情報リテラシー	1・2③		1		○								兼7 オムニバス・共同(一部)
	人文社会系キャリアマネジメント	1・2②④		2		○								兼1
	理工系キャリアマネジメント	1・2前		2		○								兼1 集中
	ストレスマネジメント	1・2④前		2		○								兼2 集中
	情報セキュリティ	1・2前		2		○								兼1 集中
	MOT入門	1・2①前後		1		○								兼1 集中
	アントレプレナーシップ概論	1・2②		1		○								兼1
小計(15科目)		—	0	20	0	—			6	2	0	0	0	兼57
研究科共通科目	統合生命科学特別講義	1①	2			○			6	5		2		兼1 オムニバス
	生命科学研究法	1③	2			○			3	5		2		兼2 オムニバス・共同(一部)
	生命科学社会実装論	1②		2		○			5	1				兼2 オムニバス
	科学技術英語表現法	2①		2			○			5				兼2 オムニバス・共同(一部)
	コミュニケーション能力開発	1④		2			○		1	1				兼3 オムニバス・共同(一部)
	海外学術活動演習	1・2①・②・③・④		2			○		1					

教 育 課 程 等 の 概 要

(統合生命科学研究科統合生命科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	プログラム共同セミナーA	1・2①・ ②・③・ ④		2				○		1						
	小計(7科目)	—	4	10	0	—			14	15	0	4	0	兼8		
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	統合ゲノム科学A	1・2①		2				○			3					隔年・ オムニ バス・ 共同(一 部)
	統合ゲノム科学B	1・2③		2				○		1	2					隔年・ オムニ バス
	細胞機能科学A	1・2②		2				○		1					兼1	隔年・ オムニ バス
	細胞機能科学B	1・2④		2				○		1	1					隔年・ オムニ バス・ 共同(一 部)
	生命機能工学A	1・2③		2				○							兼3	隔年・ オムニ バス・ 共同(一 部)
	生命機能工学B	1・2③		2				○			2				兼1	隔年・ オムニ バス
	環境バイオテクノロジーA	1・2②		2				○		1	2					隔年・ オムニ バス
	環境バイオテクノロジーB	1・2④		2				○		1	2					隔年・ オムニ バス
	ナノバイオ融合マテリアル工学	1・2①		2				○		1	1					隔年・ オムニ バス
	複合センシング工学	1・2④		2				○		1	1					隔年・ オムニ バス・ 共同(一 部)
	生命科学概論	1・2①		2				○		2					兼1	オムニ バス
	物質科学概論	1・2①		2				○							兼3	オムニ バス
	エレクトロニクス概論	1・2①		2				○							兼5	オムニ バス
	生物学特別講義A	1・2前			1			○							兼1	隔年・ 集中
	生物学特別講義B	1・2後			1			○							兼1	隔年・ 集中
	生物学特別講義C	1・2前			1			○							兼1	隔年・ 集中
	生物学特別講義D	1・2後			1			○							兼1	隔年・ 集中
生物学演習	1~2		2					○	7	11	1	4		兼7		
生物学特別演習A	1①・②		2					○	7	11	1	4		兼6		
生物学特別演習B	1③・④		2					○	7	11	1	4		兼6		
生物学特別研究	1~2		4					○	7	11	1	4		兼6		

教 育 課 程 等 の 概 要

(統合生命科学研究科統合生命科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	食品物理工学 I	1・2①		2		○			1	1					オムニバス
	食品物理工学 II	1・2③		2		○			2						オムニバス
	生理活性天然物化学 I	1・2②		2		○			1	1	1				オムニバス
	生理活性天然物化学 II	1・2④		2		○			1	1	1				オムニバス
	食品衛生微生物学 I	1・2①		2		○			1	1					オムニバス
	食品衛生微生物学 II	1・2③		2		○			1	2					オムニバス
	応用動物生命科学 I	1・2②		2		○			1						兼2
	応用動物生命科学 II	1・2④		2		○			1			1			兼2
	食品栄養機能学 I	1・2①		2		○			1						
	食品栄養機能学 II	1・2④		2		○				1					兼1
	応用分子細胞生物学 I	1・2②		2		○			2	2					オムニバス
	応用分子細胞生物学 II	1・2④		2		○			2	2					オムニバス
	食料資源経済学 I	1・2①		2		○			1	1					オムニバス
	食料資源経済学 II	1・2③		2		○			1	1					オムニバス
	応用環境生命科学	1・2④		2		○			1						
	生物圏多文化セミナー A	1・2前		2			○		1						
	醸造資源開発学	1・2前		2		○									兼2
	応用植物科学	1・2③		2		○					1	2			
	食品生命科学特別演習 A	1①・②		2			○		10	10	2	3			兼2
	食品生命科学特別演習 B	1③・④		2			○		10	7	2	3			兼5
	食品生命科学特別研究	1~2		4			○		9	6	2				兼5
	水産資源管理学 I	1・2①		2		○			1	1					オムニバス
	水産資源管理学 II	1・2③		2		○			1	1					オムニバス
	水産増殖学 I	1・2②		2		○			1	2					オムニバス
	水産増殖学 II	1・2④		2		○			1	2					オムニバス
	水族生態学 I	1・2①		2		○			2	2					オムニバス
	水族生態学 II	1・2③		2		○			2	2					オムニバス
	水産生物海洋学 I	1・2②		2		○			1	3					オムニバス
	水産生物海洋学 II	1・2④		2		○			1	3					オムニバス
	植物生産機能学 I	1・2①		2		○			1	2		1			オムニバス・共同(一部)
	植物生産機能学 II	1・2③		2		○			1	2					オムニバス・共同(一部)
	家畜生産機能学 I	1・2②		2		○			2			3			オムニバス

教 育 課 程 等 の 概 要

(統合生命科学研究科統合生命科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	家畜生産機能学Ⅱ	1・2④		2		○			2				3		オムニバス
	家畜飼養管理学Ⅰ	1・2①		2		○			2	1					オムニバス
	家畜飼養管理学Ⅱ	1・2③		2		○			2	1					オムニバス
	陸域生物圏フィールド科学Ⅰ	1・2②		2		○			1	1					オムニバス・共同(一部)
	陸域生物圏フィールド科学Ⅱ	1・2④		2		○			1	1					オムニバス・共同(一部)
	大気水圏化学	1・2④		2		○			1	1					オムニバス
	環境植物共生学	1・2④		2		○			2				2		オムニバス・共同(一部)
	生態系循環論	1・2③		2		○			1	1	1				オムニバス
	生物資源科学特別演習A	1①・②		2			○		11	12			3		兼1
	生物資源科学特別演習B	1③・④		2			○		11	12			3		兼1
	生物資源科学特別研究	1~2		4			○		11	10			3		兼1
	総合科学系演習	1・2②		2			○		1	1					
	総合科学系概論	1・2①		2		○			5	5	1				兼1
	環境機能化学	1・2③		2		※	○		1	1					オムニバス・共同※
	生命機能化学	1・2③④		2		※	○		1	1					兼1 ※講義
	先端の神経細胞科学	1・2④		2		○	※		2				1		オムニバス・共同(一部)※演習
	進化生命環境学	1・2③		2		○	※		1	1					オムニバス・共同(一部)※演習
	生物多様性科学(環境科学入門)	1・2②		2		○			1						
	生命環境総合科学特別演習A	1①・②		2			○		10	5	1				兼1
	生命環境総合科学特別演習B	1③・④		2			○		10	5	1				兼1
	生命環境総合科学特別研究	1~2		4			○		10	5	1				兼1
	細胞生命学特論	1・2①		2		○				2	1				兼1
	セルダイナミクス・ゲノミクス学特論	1・2④		2		○			2	1			1		兼1
	統合生殖科学特論	1・2④		2		○			2	1					兼1
	自然史学特論	1・2③		2		○			1	1			2		兼1

教 育 課 程 等 の 概 要

(統合生命科学研究科統合生命科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	分子生理学特論	1・2②		2		○				2			1		オムニバス・共同(一部)・隔年
	基礎生物学特別講義	1・2前		1		○						1	1	兼6	集中
	先端基礎生物学研究演習A	1②		1		※	○			1	1		4		オムニバス・共同※講義
	先端基礎生物学研究演習B	1③		1		※	○			1	1		4		オムニバス・共同※講義
	先端基礎生物学研究演習C	2②		1		※	○			1	1		4		オムニバス・共同※講義
	先端基礎生物学研究演習D	2③		1		※	○			1	1		4		オムニバス・共同※講義
	基礎生物学特別演習A	1①・②		2			○			6	9	1	10	兼3	
	基礎生物学特別演習B	1③・④		2			○			6	9	1	10	兼3	
	基礎生物学特別研究	1~2		4			○			6	9	1	2	兼3	
	数理計算理学概論	1①		2			○							兼1	
	生命理学概論	1①		2			○			3	2		4	兼6	オムニバス
	数理モデリングA	1・2③		2			○			1				兼1	隔年
	数理モデリングB	1・2④		2			○				1				隔年
	数理モデリングC	1・2③		2			○						1	兼1	隔年
	数理モデリングD	1・2④		2			○				1			兼1	隔年
	計算数理学A	1・2①		2			○			1					
	計算数理学B	1・2④		2			○			1					
	数理生物学	1・2③		2			○							兼1	
	応用数理学A	1・2②		2			○			1					
	応用数理学B	1・2③		2			○			2					
	大規模計算・データ科学	1・2②		2			○							兼1	
	分子遺伝学	1・2②		2			○						1	兼4	隔年
	分子形質発現学A	1・2④		2			○						1	兼2	隔年
	分子形質発現学B	1・2④		2			○						1	兼2	隔年
	遺伝子化学	1・2④		2			○						1	兼1	集中・隔年・オムニバス・共同(一部)
	分子生物物理学	1・2①		2			○			1			2		隔年・オムニバス
	プロテオミクス	1・2②		2			○				1		1		オムニバス
	プロテオミクス実験法・同実習	1・2②		2				○		1	1				
	生物化学A	1・2①		2			○			1					隔年
	生物化学B	1・2③		2			○			1					隔年
	自己組織化学A	1・2④		2			○			1	1				隔年・オムニバス

教 育 課 程 等 の 概 要

(統合生命科学研究科統合生命科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	自己組織化学B	1・2①		2		○			1	1					隔年・オムニバス
	数理生命科学特別講義A	1・2①		1		○			1						集中
	数理生命科学特別講義B	1・2②		1		○						1			集中
	数理生命科学特別講義C	1・2③		1		○			1						集中・オムニバス
	数理生命科学特別講義D	1・2④		1		○			1						集中
	数理計算理学特論A	1・2②			2		○		2	1		1		兼1	隔年・共同
	数理計算理学特論B	1・2④			2		○		2	1		1		兼1	隔年・共同
	数理計算理学特論C	1・2②			2		○		2	1		1		兼1	隔年・共同
	数理計算理学特論D	1・2④			2		○		2	1		1		兼1	隔年・共同
	生命理学特論A	1・2②			2		○		3	2		7		兼5	隔年・共同
	生命理学特論B	1・2④			2		○		3	2		7		兼5	隔年・共同
	生命理学特論C	1・2②			2		○		3	2		8		兼5	隔年・共同
	生命理学特論D	1・2④			2		○		3	2		8		兼5	隔年・共同
	数理計算理学特別演習A	1①・②		2			○		3	1		1		兼1	
	数理計算理学特別演習B	1③・④		2			○		2	1		1		兼1	
	生命理学特別演習A	1①・②		2			○		3	2		2		兼5	
	生命理学特別演習B	1③・④		2			○		3	2		2		兼5	
	数理生命科学特別研究	1~2		4			○		5	3		2		兼6	
	生命医学セミナー A	1③		1			○							兼6	集中
	生命医学セミナー B	2③		1			○							兼6	集中
	先端生命技術概論	1①		2		○			3	3		4		兼3	オムニバス
	疾患モデル生物概論	1③		2		○			6	3		1		兼4	オムニバス
	生命医科学特別講義	1・2前		1		○			1					兼1	集中
	人体の構造	1前		2		○								兼11	オムニバス
	人体の機能	1前		2		○								兼15	オムニバス
	病因病態学	1後		2		○								兼6	オムニバス
	生体防御学	1③		1		○								兼7	オムニバス
	総合薬理学	1④		1		○								兼2	オムニバス
	医療政策・国際保健概論	1①		1		○								兼11	オムニバス
	予防医学・健康指導特論A	1①		1		○								兼10	オムニバス
	予防医学・健康指導特論B	1③		1		○								兼9	オムニバス
	生命・医療倫理学A	1①		1		○								兼9	オムニバス
	生物統計学・臨床統計学基礎論	1②		1		○								兼4	オムニバス
	生命医科学特別演習A	1①・②		2		※	○		5	6		5		兼5	※講義

教 育 課 程 等 の 概 要

(統合生命科学研究科統合生命科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	生命医学特別演習B	1③・④		2		※	○		5	6			5		兼5 ※講義
	生命医学特別研究	1~2		4			○		5	5			3		兼5
	ゲノム編集研究倫理	1・2②		1			○								兼1
	ゲノム編集の基礎と実践	1・2②		2			○			2			3		兼2 オムニバス
	ゲノム機能学概論	1・2④		2			○		4	1					兼9 オムニバス
	ゲノム編集医療概論	1・2④		1			○								兼1
	バイオインフォマティクス	1・2③		2			○		1						
	ゲノム編集基礎演習	1・2②		2			○			1			1		兼4 オムニバス
	社会の中の科学技術	2		1			○								兼1 オムニバス
	小計(152科目)	—	0	272	20		—		52	51	5		39	0	兼130
合計(174科目)		—	4	302	20		—		52	51	5		39	0	兼191
学位又は称号		修士(理学) 修士(工学) 修士(農学) 修士(学術)			学位又は学科の分野			理学関係 工学関係 農学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
<p>修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文もしくは所定の基準による研究成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格すること。</p> <p>○生物工学プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修） ・研究科共通科目：6単位以上（統合生命科学特別講義2単位、生命科学研究法2単位は必修） ・プログラム専門科目：16単位以上（生物工学演習 2単位、生物工学特別演習A2単位、生物工学特別演習B2単位、生物工学特別研究4単位は必修） ・他プログラム専門科目及び他研究科専門科目：6単位以上。なお、履修に当たっては、指導教員グループ（主指導教員及び2人以上の副指導教員）に相談の上、履修科目を決定するものとする。 ・自由科目は、修了要件上のプログラム専門科目や他プログラム専門科目に加えることができない。なお、教育職員免許状を取得する場合、生物工学特別講義A~Dは工業の「教科及び教科の指導法に関する科目」として、専修免許状に必要な修得単位数に加えることができる。 															

教 育 課 程 等 の 概 要

(統合生命科学研究科統合生命科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
<p>○食品生命科学プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単以上を履修） ・研究科共通科目：6単位以上（統合生命科学特別講義2単位，生命科学研究法2単位は必修） ・プログラム専門科目：16単位以上（食品生命科学特別演習A 2単位，食品生命科学特別演習B 2単位，食品生命科学特別研究4単位は必修） ・他プログラム専門科目及び他研究科専門科目：6単位以上。なお，自由科目は除く。履修に当たっては，指導教員グループ（主指導教員及び2人以上の副指導教員）に相談の上，履修科目を決定するものとする。 <p>○生物資源科学プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から，それぞれ1単以上を履修） ・研究科共通科目：6単位以上（統合生命科学特別講義2単位，生命科学研究法2単位は必修） ・プログラム専門科目：16単位以上（生物資源科学特別演習A 2単位，生物資源科学特別演習B 2単位，生物資源科学特別研究4単位は必修） ・他プログラム専門科目及び他研究科専門科目：6単位以上。なお，自由科目は除く。履修に当たっては，指導教員グループ（主指導教員及び2人以上の副指導教員）に相談の上，履修科目を決定するものとする。 <p>○生命環境総合科学プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から，それぞれ1単以上を履修） ・研究科共通科目：6単位以上（統合生命科学特別講義2単位，生命科学研究法2単位は必修） ・プログラム専門科目：16単位以上（総合科学系演習 2単位，生命環境総合科学特別演習A 2単位，生命環境総合科学特別演習B 2単位，生命環境総合科学特別研究4単位は必修） ・他プログラム専門科目及び他研究科専門科目：6単位以上。なお，自由科目は除く。履修に当たっては，指導教員グループ（主指導教員及び2人以上の副指導教員）に相談の上，履修科目を決定するものとする。 <p>○基礎生物学プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から，それぞれ1単以上を履修） ・研究科共通科目：6単位以上（統合生命科学特別講義2単位，生命科学研究法2単位は必修） ・プログラム専門科目：16単位以上（先端基礎生物学研究演習A 1単位，先端基礎生物学研究演習B 1単位は必修。分子生理学特論，細胞生命学特論，セルダイナミクス・ゲノミクス学特論，統合生殖科学特論，自然史学特論のうち4単位は選択必修（4単位以上も履修可能）。基礎生物学特別演習A 2単位，基礎生物学特別演習B 2単位，基礎生物学特別研究4単位は必修） ・他プログラム専門科目及び他研究科専門科目：6単位以上。なお，自由科目は除く。履修に当たっては，指導教員グループ（主指導教員及び2人以上の副指導教員）に相談の上，履修科目を決定するものとする。 			1 学年の学期区分	2学期（4ターム）										
			1 学期の授業期間	15週										

教 育 課 程 等 の 概 要

(統合生命科学研究科統合生命科学専攻(博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
<p>○数理生命科学プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修） ・研究科共通科目：6単位以上（統合生命科学特別講義2単位、生命科学研究法2単位は必修） ・プログラム専門科目：16単位以上（数理計算理学概論2単位、生命理学概論2単位は必修。数理計算理学特別演習A 2単位及び数理計算理学特別演習B 2単位、又は生命理学特別演習A 2単位及び生命理学特別演習B 2単位は必修。数理生命科学特別研究4単位は必修。） ・他プログラム専門科目及び他研究科専門科目：6単位以上。なお、履修に当たっては、指導教員グループ（主指導教員及び2人以上の副指導教員）に相談の上、履修科目を決定するものとする。 ・自由科目は、修了要件上のプログラム専門科目や他プログラム専門科目に加えることができない。なお、教育職員免許状を取得する場合、数理計算理学特論A～Dは数学、生命理学特論A～Dは理科の「教科及び教科の指導法に関する科目」として、それぞれの教科の専修免許状に必要な修得単位数に加えることができる。 <p>○生命医科学プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修） ・研究科共通科目：6単位以上（統合生命科学特別講義2単位、生命科学研究法2単位は必修） ・プログラム専門科目：13単位以上（研究基盤科目（生命医科学セミナーA 1単位）、研究実践科目（生命医科学特別演習A 2単位、生命医科学特別演習B2単位、生命医科学特別研究4単位）は必修。生命科学科目2単位以上、医科学科目2単位以上。） ・自・他プログラム専門科目及び他研究科専門科目：9単位以上。なお、履修に当たっては、指導教員グループ（主指導教員及び2人以上の副指導教員）に相談の上、履修科目を決定するものとする。 			1 時限の授業時間	90分										

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教育課程等の概要

(医系科学研究科総合健康科学専攻(博士課程前期))【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	持続可能な発展科目	Hiroshimaから世界平和を考える	1・2② ③④	1			○								兼11 オムニバス
		Japanese Experience of Social Development- Economy, Infrastructure, and Peace	1・2②	1			○								兼6 オムニバス
		Japanese Experience of Human Development-Culture, Education, and Health	1・2④	1			○			2					兼4 オムニバス
		SDGsへの学問的アプローチA	1・2①②	1			○			2	1				オムニバス・共同(一部)
		SDGsへの学問的アプローチB	1・2③④	1			○								兼13 オムニバス
		SDGsへの実践的アプローチ	1・2後	2				○							兼4 共同・集中・オムニバス・共同(一部)
		ダイバーシティの理解	1・2②	1			○								兼4
	キャリア開発・データリテラシー科目	データリテラシー	1・2①	1			○								兼5 オムニバス
		医療情報リテラシー	1・2③	1			○			4		1			兼2 オムニバス・共同(一部)
		人文社会系キャリアマネジメント	1・2前③	2			○								兼1
		理工系キャリアマネジメント	1・2前	2			○								兼1
		ストレスマネジメント	1・2前④	2			○						1		兼1
		MOT入門	1・2①②	1			○								兼1
		情報セキュリティ	1・2②	2			○								兼1
		アントレプレナーシップ概論	1・2①	1			○								兼1
小計(15科目)	—	0	20	0	—	—	—	6	1	1	1	0	兼56		
研究科共通科目	生命・医療倫理学A	1①	1			○			5					兼2 オムニバス	
	多職種連携A	1②	1			○			5	1	1	1		オムニバス	
	研究方法論A	1①	1			○			9	3		1		兼3 オムニバス・共同(一部)	
	スタートアップ生命科学コースワーク	1①	1					○			1			オムニバス	
	バイオデザイン概論A I	1前	1			○								兼3 オムニバス・共同(一部)	
	バイオデザイン概論A II	1後	1			○								兼2 オムニバス・共同(一部)	
	医学統計パッケージ演習	1③	1				○		1		1	1		集中	
	トランスレーショナルリサーチ概論B	1④	1			○			1	1				兼2	
小計(8科目)	—	2	6	0	—	—	—	21	6	2	3	0	兼10		
専攻共通科目	栄養学	1③		1		○			1					兼3 オムニバス	
	健康生活科学	1③		1		○			2					兼7 オムニバス・共同(一部)	
	予防医学・健康指導特論A	1①		1		○			6	1		1		兼2 オムニバス	
	予防医学・健康指導特論B	1③		1		○			4			1		兼4 オムニバス	

教 育 課 程 等 の 概 要

(医系科学研究科総合健康科学専攻 (博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
科目	Health Communication and Health Promotion	1③		1		○			1	1				共同
	Research Methodology in Health Science	1①		1		○			1	1				共同
	小計(6科目)	—	0	6	0	—	—	—	11	2	0	1	0	兼15
	保健科学特論Ⅰ (調査研究)	1前		2		○			7					オムニバス
	保健科学特論Ⅱ (質的研究)	1後		2		○			7					オムニバス
	保健科学特論Ⅲ (実験研究)	1前		2		○			7		1			オムニバス
	Epidemiology and Disease Prevention	1前		2		○			2	1				共同
	Statistics in Health Science	1後		2		○								兼1
	Global Health Challenges and Solutions I	1後		2		○			1	1				共同
	国際保健看護学特論	1前		2		○			1			1		共同
	健康情報学特論	1前		2		○					1			
	基礎看護方法学特論	1前		2		○			1					
	助産・母性看護方法学特論	1前		2		○			1					兼1 オムニバス
	小児看護方法学特論	1前		2		○			1					
	成人看護方法学特論	1前		2		○			1					
	周手術期・クリティカルケア開発学特論	1前		2		○			1		1			共同
	老年・がん看護方法学特論	1前		2		○			1					
	精神保健看護方法学特論	1前		2		○			1					
	地域保健看護方法学特論	1前		2		○			1					
	地域・学校看護方法学特論	1前		2		○			1			1		共同
	健康情報学解析特論	1前		2		○					1			兼1 共同
	看護学教育特論	1後		2		○				1				
	理学療法学・作業療法学教育特論Ⅰ	1前		2		○			1	1	3	5		
	理学療法学・作業療法学教育特論Ⅱ	1前		2		○			7	1	2	4		
	国際保健看護学特別演習	1前・後		2			○		1				1	共同
	健康情報学特別演習	1前・後		2			○				1			
	基礎看護方法学特別演習	1前・後		2			○		1					
	助産・母性看護方法学特別演習	1前・後		2			○		1					兼2 共同
	小児看護方法学特別演習	1前・後		2			○		1					
	成人看護方法学特別演習	1前・後		2			○		1					
	周手術期・クリティカルケア開発学特別演習	1前・後		2			○		1		1			共同
	老年・がん看護方法学特別演習	1前・後		2			○		1					
	精神保健看護方法学特別演習	1前・後		2			○		1					
	地域保健看護方法学特別演習	1前・後		2			○		1					
	地域・学校看護方法学特別演習	1前・後		2			○		1					
	国際保健看護学特別研究	1～2		10			○		1			1		共同
	基礎看護方法学特別研究	1～2		10			○		1					
	助産・母性看護方法学特別研究	1～2		10			○		1					
	小児看護方法学特別研究	1～2		10			○		1					

教 育 課 程 等 の 概 要

(医系科学研究科総合健康科学専攻 (博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	成人看護方法学特別研究	1～2		10				○			1					
	周手術期・クリティカルケア開発学特別研究	1～2		10				○			1		1			共同
	老年・がん看護方法学特別研究	1～2		10				○			1					
	精神保健看護方法学特別研究	1～2		10				○			1					
	地域保健看護方法学特別研究	1～2		10				○			1					
	地域・学校看護方法学特別研究	1～2		10				○			1					
	看護理論	1後		2				○			2					兼1 共同
	看護研究	1前		2				○			2			1		兼3 共同
	看護倫理	1前		2				○			2					共同
	コンサルテーション論	2前		2				○			2					兼1 共同
	臨床薬理学	1後		2				○			1					
	フィジカルアセスメント	1前		2				○			1					
	病態生理学	1前		2				○			1					
	がん看護学特論1	1前		2				○			1					
	がん看護学特論2	1前		2				○			1					
	がん看護学特論3	1前		2				○			1					
	がん看護学特論4	1前		2				○			1					
	がん看護学特論5	1後		2				○			1					
	がん看護学演習1	1通		2					○		1					
	がん看護学演習2	1後		2					○		1					
	がん看護学実習1	1後		2						○	1					
	がん看護学実習2	1後		2						○	1					
	がん看護学実習3	1後		2						○	1					
	がん看護学実習4	2前		2						○	1					
	がん看護学実習5	2後		2						○	1					
	がん看護学課題研究	2通		2					○		1					
	慢性疾患ケア看護学特論1	1前		2				○			1					
	慢性疾患ケア看護学特論2	1前		2				○			1					
	慢性疾患ケア看護学特論3	1後		2				○			1					
	慢性疾患ケア看護学特論4	1後		2				○			1					
	慢性疾患ケア看護学特論5	2前		2				○			1					
	慢性疾患ケア看護学演習1	1後		2					○		1					
	慢性疾患ケア看護学演習2	2前		2					○		1					
	慢性疾患ケア看護学実習1	1後		2						○	1					
	慢性疾患ケア看護学実習2	2前		2						○	1					
	慢性疾患ケア看護学実習3	2前		2						○	1					
	慢性疾患ケア看護学実習4	2後		2						○	1					
	慢性疾患ケア看護学実習5	2後		2						○	1					
	慢性疾患ケア看護学課題研究	2通		2					○		1					
	国際保健看護学教育演習	1通		1					○		1			1		共同
	健康情報学教育演習	1通		1					○				1			
	基礎看護方法学教育演習	1通		1					○		1					
	助産・母性看護方法学教育演習	1通		1					○		1					
	小児看護方法学教育演習	1通		1					○		1					
	成人看護方法学教育演習	1通		1					○		1					
	周手術期・クリティカルケア開発学教育演習	1通		1					○		1			1		共同
	老年・がん看護方法学教育演習	1通		1					○		1					

教 育 課 程 等 の 概 要

(医系科学研究科総合健康科学専攻 (博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	精神保健看護方法学教育演習	1通		1				○		1					
	地域保健看護方法学教育演習	1通		1				○		1					
	地域・学校看護方法学教育演習	1通		1				○		1					
	国際保健看護学臨地教育実習	1通		1					○	1			1		共同
	健康情報学臨地教育実習	1通		1					○			1			
	基礎看護方法学臨地教育実習	1通		1					○	1					
	助産・母性看護方法学臨地教育実習	1通		1					○	1					
	小児看護方法学臨地教育実習	1通		1					○	1					
	成人看護方法学臨地教育実習	1通		1					○	1					
	周手術期・クリティカルケア開発学臨地教育実習	1通		1					○	1		1			共同
	老年・がん看護方法学臨地教育実習	1通		1					○	1					
	精神保健看護方法学臨地教育実習	1通		1					○	1					
	地域保健看護方法学臨地教育実習	1通		1					○	1					
	地域・学校看護方法学臨地教育実習	1通		1					○	1					
	国際保健看護学総合臨地教育実習	1通		1					○	1			1		共同
	健康情報学総合臨地教育実習	1通		1					○			1			
	基礎看護方法学総合臨地教育実習	1通		1					○	1					
	助産・母性看護方法学総合臨地教育実習	1通		1					○	1					
	小児看護方法学総合臨地教育実習	1通		1					○	1					
	成人看護方法学総合臨地教育実習	1通		1					○	1					
	周手術期・クリティカルケア開発学総合臨地教育実習	1通		1					○	1		1			共同
	老年・がん看護方法学総合臨地教育実習	1通		1					○	1					
	精神保健看護方法学総合臨地教育実習	1通		1					○	1					
	地域保健看護方法学総合臨地教育実習	1通		1					○	1					
	地域・学校看護方法学総合臨地教育実習	1通		1					○	1					
	スポーツリハビリテーション学特論	1前		2				○		1					
	生体運動・動作解析学特論	1前		2				○		1					
	生体機能解析制御科学特論	1前		2				○		1	1				兼1 共同
	運動器機能医科学特論	1前		2				○		1					
	生体環境適応科学特論	1前		2				○		1			2		共同
	生理機能情報科学特論	1前		2				○			1				
	作業行動探索科学特論	1前		2				○		1					
	作業機能制御科学特論	1前		2				○		1					
	上肢機能解析制御科学特論	1前		2				○		1					
	精神機能制御科学特論	1前		2				○		1					
	感覚運動神経科学特論	1前		2				○		1					
	脳機能イメージング特論	1前		2				○		1					
	スポーツリハビリテーション学特別演習	1前・後		2					○	1					
	生体運動・動作解析学特別演習	1前・後		2					○	1					
	生体機能解析制御科学特別演習	1前・後		2					○	1	1				共同
	運動器機能医科学特別演習	1前・後		2					○	1					

教 育 課 程 等 の 概 要

(医系科学研究科総合健康科学専攻 (博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
プログラム専門科目	生体環境適応科学特別演習	1前・後		2				○		1					兼1 共同	
	生理機能情報科学特別演習	1前・後		2				○			1					
	作業行動探索科学特別演習	1前・後		2				○		1						
	作業機能制御科学特別演習	1前・後		2				○		1						
	上肢機能解析制御科学特別演習	1前・後		2				○		1						
	精神機能制御科学特別演習	1前・後		2				○		1						
	感覚運動神経科学特別演習	1前・後		2				○		1						
	脳機能イメージング特別演習	1前・後		2				○		1						
	スポーツリハビリテーション学特別研究	1～2		10				○		1						
	生体運動・動作解析学特別研究	1～2		10				○		1						
	生体機能解析制御科学特別研究	1～2		10				○		1						
	運動器機能医科学特別研究	1～2		10				○		1						
	生体環境適応科学特別研究	1～2		10				○		1						
	生理機能情報科学特別研究	1～2		10				○			1					
	作業行動探索科学特別研究	1～2		10				○		1						
	作業機能制御科学特別研究	1～2		10				○		1						
	上肢機能解析制御科学特別研究	1～2		10				○		1						
	精神機能制御科学特別研究	1～2		10				○		1						
	感覚運動神経科学特別研究	1～2		10				○		1						
	脳機能イメージング特別研究	1～2		10				○		1						
	口腔健康科学特論	1前		2			○			8	1	2				兼3 オムニバス
	口腔インプラント工学特論	1前		2			○	○		1						
	機能修復工学特論	1前		2			○	○			1					
	口腔衛生管理学特論	1前		2			○	○				1				
	口腔衛生教育学特論	1前		2			○	○		1						
	学校健康教育学特論	1前		2			○	○					1			
	歯科衛生士教育学特論	1前		2			○	○		1						
	口腔工学特論	1前		2			○	○		1						
	口腔保健学研究特論	1前		2			○	○		1			1			共同
	情報システム工学特論	1前		2			○	○		1						
	探索口腔科学特論	1前		2			○	○					1			
	生体構造・機能修復学特論	1前		2			○	○		1						
	顎口腔発達・機能学特論	1前		2			○	○		1						
	顎口腔発達・機能学演習A	1～2		4					○	1						
	歯科衛生士教育学演習A	1～2		4					○				1			
	生体構造・機能修復学演習A	1～2		4					○		1					
	医療システム工学演習A	1～2		4					○	1						
	口腔工学演習A	1～2		4					○	1						
	顎口腔発達・機能学演習B	1～2		4					○	1						
	歯科衛生士教育学演習B	1～2		4					○	1						
口腔保健学研究演習B	1～2		4					○	1			1		兼1 共同		
生体構造・機能修復学演習B	1～2		4					○	1					共同		
医療システム工学演習B	1～2		4					○	1							
口腔工学演習B	1～2		4					○	1							
顎口腔発達・機能学特別研究	1～2		10					○	1							
歯科衛生士教育学特別研究	1～2		10					○	1							

教 育 課 程 等 の 概 要

(医系科学研究科総合健康科学専攻 (博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	口腔保健学特別研究	1～2		10				○		1		1			兼1 共同
	生体構造・機能修復学特別研究	1～2		10				○		1	1				共同
	医療システム工学特別研究	1～2		10				○		1					
	口腔工学特別研究	1～2		10				○		1					
	薬科学特論	1前		2				○		3					兼7 オムニバス
	生薬学特論	1後		2				○		1					隔年
	薬物治療学特論	1前		2				○		1					隔年
	創薬合成化学特論	1前		2				○		1			2		隔年・オムニバス
	核酸分析化学特論	1前		2				○		1					隔年
	医薬分子機能科学特論	1③		2				○		1					隔年
	生体機能分子動態学特論	1②		2				○		1			1		隔年・共同
	細胞再生機構特論	1③		2				○		1					隔年
	細胞内情報伝達学特論	1③		2				○		1			2		隔年・共同
	微生物医薬品開発学特論	1④		2				○		1					隔年
	薬効解析科学特論	1③		2				○		1					隔年
	薬物動態解析・制御科学特論	1③		2				○		1					隔年
	治療薬効学特論	1①		2				○		1					隔年
	応用薬物治療学特論	1④		2				○		1					隔年
	未病・予防医学特論	1④		2				○		1	1				兼2 隔年・共同
	English Communication	1前		2				○							兼1
	生薬学特論演習	1通		4				○		1					
	薬物治療学特論演習	1通		4				○		1					
	創薬合成化学特論演習	1通		4				○		1			2		共同
	核酸分析化学特論演習	1通		4				○		1	1				共同
	医薬分子機能科学特論演習	1通		4				○		1					
	生体機能分子動態学特論演習	1通		4				○		1					
	生物物理化学特論演習	1通		4				○		1					
	分子神経毒性学特論演習	1通		4				○		1					
	細胞再生機構特論演習	1通		4				○		1					
	細胞内情報伝達学特論演習	1通		4				○		1			2		共同
	微生物医薬品開発学特論演習	1通		4				○		1	1		1		共同
	抗生物質合成学特論演習	1通		4				○			1				
	構造生物学特論演習	1通		4				○			1				
	薬効解析科学特論演習	1通		4				○		1					
	薬物動態解析・制御科学特論演習	1通		4				○		1					
	治療薬効学特論演習	1通		4				○		1					
	細胞がん化機構特論演習	1通		4				○			1				
	医薬品創剤科学特論演習	1通		4				○		1	1				共同
	分子治療薬効学特論演習	1通		4				○			1				
	応用薬物治療学特論演習	1通		4				○		1					
	薬物治療情報学特論演習	1通		4				○			1				
	生薬・漢方医療学特論演習	1通		4				○			1				
	分子薬理学特論演習	1通		4				○		1					
	未病・予防医学特論演習	1通		4				○		1					
	生薬学特別研究	1後～2		12				○		1					

教 育 課 程 等 の 概 要

(医系科学研究科総合健康科学専攻 (博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	薬物治療学特別研究	1後～2		12				○	1						
	創薬合成化学特別研究	1後～2		12				○	1			2			共同
	核酸分析化学特別研究	1後～2		12				○	1	1					共同
	医薬分子機能科学特別研究	1後～2		12				○	1						
	生体機能分子動態学特別研究	1後～2		12				○	1						
	細胞再生機構特別研究	1後～2		12				○	1						
	細胞内情報伝達学特別研究	1後～2		12				○	1			2			共同
	微生物医薬品開発学特別研究	1後～2		12				○	1	1		1			共同
	薬効解析科学特別研究	1後～2		12				○	1						
	薬物動態解析・制御科学特別研究	1後～2		12				○	1						
	治療薬効学特別研究	1後～2		12				○	1						
	応用薬物治療学特別研究	1後～2		12				○	1						
	未病・予防医学特別研究	1後～2		12				○	1						
	疫学基礎論	1前		2			○		1		1	3			兼3 集中・オムニバス
	臨床研究方法論	1後		2			○		1		1	2			兼6 オムニバス
	生物統計学・臨床統計学基礎論	1②		1			○		1		1	1			兼1 オムニバス
	臨床法医学概論	1前		2			○		2						オムニバス
	総合医療実践学特論	1後		2			○		2	1	1	2			兼3 オムニバス
	環境保健学概論	1前		1			○		2	1		2			兼2 オムニバス
	医療政策・国際保健概論	1①		1			○		4		1				兼5 オムニバス
	国際感染症概論	1前		1			○		1	1		4			
	公衆衛生学特別研究 (疫学)	1後～2		6				○	1						兼3 集中
	公衆衛生学特別研究 (生物統計学)	1後～2		6				○	1						集中
	公衆衛生学特別研究 (社会科学・行動科学)	1後～2		6				○	1						集中
	公衆衛生学特別研究 (保健行政・医療管理学)	1後～2		6				○	1	1	1				集中
	公衆衛生学特別研究 (国際保健・環境保健学)	1後～2		6				○	1						集中
	疫学調査分析演習	2前		2				○	1		1	2			集中・共同
	臨床医歯学総論	1後		2			○		6	6	3	1			オムニバス
	人体の構造	1前		2			○		4	1		5			オムニバス
	人体の機能	1前		2			○		6	2	2	4			兼1 オムニバス
	病因病態学	1後		2			○		5		3	1			オムニバス
	生体防御学	1③		1			○		4	1		1			オムニバス
	総合薬理学	1④		1			○		2						オムニバス
	分子生物学と放射線防護	1前		2			○		3	4		3			オムニバス
	組織学実習	1前		1				○	1						
	放射線診断物理学	1前		1			○		1	1					
	放射線治療物理学	1前		2			○		1	1					
	核医学物理学	1後		1			○		1						兼1
	放射線診断学・核医学	1前		1			○		1						
	放射線腫瘍学	1前		2			○		1						
	放射線治療物理学演習	1後		2				○	1	1					
	放射線計測学演習	1後		2				○	1	1					
	画像診断物理学演習	1後		2				○	1						兼1
	核医学物理学演習	2前		2				○	1			1			兼1
	放射線安全演習	1後		2				○		1					

教 育 課 程 等 の 概 要

(医系科学研究科総合健康科学専攻 (博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
	医歯科学特別研究 (放射線腫瘍学)	2通		4				○	1							
	科学英語	1前		1			○		1				1			兼1
	医療統計学	1前		1			○		1							兼1 共同
	保健物理学	1後		2			○		1							兼1
	特別演習	1通		4				○	37	6	2		15			兼1
	特別研究	1～2		8				○	37	6	2		15			兼1
	セルダイナミクス・ゲノミクス学特論	1④		2			○									兼5 隔年・オムニバス
	先端的神経細胞科学	1④		2			○	※								兼3 ス・共同 (一部) ※演習
	細胞機能科学A	1②		2			○									兼2 隔年・オムニバス
	遺伝子化学	1④		2			○									兼1 集中・隔年
	食品栄養機能学 I	1①		2			○									兼1
	食品衛生微生物学 I	1①		2			○									兼2 オムニバス
	応用動物生命科学 I	1②		2			○									兼3 オムニバス
	応用分子細胞生物学 I	1②		2			○									兼4 オムニバス
	基礎人類遺伝学演習	1前		1				○	4							兼1
	臨床遺伝学特論	1前		1			○		2							兼1
	遺伝サービス情報学演習	1前		1				○	1							兼1
	社会医学	1後		1			○		1							兼1
	遺伝医療と生命倫理学特論	1前		1			○		2							兼1
	臨床心理学概論	1前		1			○					1				兼1
	遺伝カウンセリング特論	1前		1			○		1							兼1
	遺伝カウンセリング演習 I	1後		1				○	1							兼1
	遺伝カウンセリング演習 II	2前		1				○	1							兼1
	遺伝カウンセリング実習	1後～2		6				○	1							兼1
	遺伝カウンセリング研究	1～2		8				○	4							兼1
	小計 (285科目)	—	0	990	0		—		94	35	19	53	0			兼66
合計 (314科目)		—	2	1022	0		—		102	38	21	54	0			兼142
学位又は称号	修士 (医科学) 修士 (歯科学) 修士 (公衆衛生学) 修士 (薬科学) 修士 (看護学) 修士 (保健学) 修士 (口腔健康科学) 修士 (学術)	学位又は学科の分野			医学関係 歯学関係 薬学関係 保健衛生学関係 (看護学関係) 保健衛生学関係 (リハビリテーション関係) 保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)											
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
<p>1. 保健科学プログラム</p> <p>以下のとおり、修了に必要な単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格すること。</p> <p>修了要件単位数：30単位 (ただし、専門看護師コースの場合は48単位、キャリア支援コースの場合は32単位)</p>								1 学年の学期区分		2 学期 (4ターム)						

教 育 課 程 等 の 概 要

(医系科学研究科総合健康科学専攻 (博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
	<p>3. 公衆衛生学プログラム 修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格すること。</p> <p>修了要件単位数：30単位 (1)大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修） (2)研究科共通科目：4単位以上（ただし、生命・医療倫理学A、多職種連携A及び医学統計パッケージ演習を必修） (3)専攻共通科目：2単位以上（予防医学・健康指導特論A及び予防医学・健康指導特論Bを必修） (4)プログラム専門科目：22単位以上（ただし、必修科目の8科目12単位、特別研究6単位を含む）</p> <p>自然科学系学部、社会科学系学部、人文科学系学部等の非医療系学部出身者にあつては、「生命医療科学論」又は「臨床医歯学総論」を履修すること</p> <p>4. 医学物理士プログラム 修了に必要な単位数を30単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格すること。</p> <p>修了要件単位数：30単位 (1)大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修） (2)研究科共通科目：4単位以上（ただし、生命・医療倫理学A及び多職種連携Aを必修） (3)専攻共通科目：2単位以上 (4)プログラム専門科目：22単位以上（ただし、必修科目の11科目21単位を含む。）</p> <p>5. 生命医療科学プログラム 修了に必要な単位数を33単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験又は博士論文研究基礎力審査に合格すること。</p> <p>修了要件単位数：33単位 (1)大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修。ただし、キャリア開発・データリテラシー科目からは、データリテラシー関係の科目の履修を推奨。） (2)研究科共通科目：4単位以上（ただし、生命・医療倫理学A及び多職種連携Aを必修） (3)専攻共通科目：2単位以上 (4)プログラム専門科目：25単位以上（医療科学科目から必修科目7科目21単位を含む21単位以上、生命科学科目から2単位以上）</p>													

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

教 育 課 程 等 の 概 要

(医系科学研究科総合健康科学専攻 (博士課程前期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
<p>3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。</p> <p>4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。</p> <p>5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。</p> <p>6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。</p> <p>(1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。</p> <p>(2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。</p> <p>(3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。</p>														

教育課程等の概要															
(人間社会科学研究科人文社会科学専攻(博士課程後期))【既設】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	持続可能な発展科目 スペシャリスト型SDGsアイデアマ イニング学生セミナー SDGsの観点から見た地域開発セ ミナー 普遍的平和を目指して	1・2・3 前後		1				○						兼10 集中	
		1・2・3 後		1				○						兼3 集中	
		1・2・3 ①②④		1				○		1	1			兼8 オムニ バス	
	キャリア開発・デ ータリテラシ ー科目	データサイエンス	1・2・3 ③④		2				○						兼2
		パターン認識と機械学習	1・2・3 ④		2				○						兼2
		データサイエンティスト養成	1・2・3 前		1				○						兼3 集中
		医療情報リテラシー活用	1・2・3 ③		1				○						兼7 オムニ バス・ 共同(一 部)
		リーダーシップ手法	1・2・3 前後		1				○						兼2 集中
		高度イノベーション人財のための キャリアマネジメント	1・2・3 ②④		1				○				1		兼1
		イノベーション演習	1・2・3 ③		2					○					兼1
		長期インターンシップ	1・2・3 前後		2					○			1		兼1 集中
	事業創造概論	1・2・3 ①②		1					○					兼1	
小計(12科目)		—	0	16	0	—			1	2	0	1	0	兼35	
研究科共 通	プロジェクト研究	1・2・3 ④		2				○		8	2			兼4 共同	
	人間社会科学講究	1・2・3 通年		2				○		9			1	兼4 共同	
	小計(2科目)		—	0	4	0	—			13	2	0	1	0	兼7
プログラ ム専門科 目	特別研究	1~3	6					○		113	91	3	7	兼15	
	小計(1科目)		—	6	0	0	—			113	91	3	7	0	兼15
合計(15科目)		—	6	20	0	—			113	91	3	7	0	兼52	
学位又は称号	博士(文学) 博士(心理学) 博士(法学) 博士(経済学) 博士(マネジメント) 博士(経営学) 博士(国際協力学) 博士(学術)	学位又は学科の分野			文学関係 法学関係 経済学関係 社会学・社会福祉学関係										

卒業要件及び履修方法				授業期間等		
修了に必要な単位数を10単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 修了要件				1 学年の学期区分	2学期 (4ターム)	
				1 学期の授業科目		15週
				1 時限の授業時間		90分
科目区分		要修得単位数	指定科目等			
大学院共通科目	持続可能な発展科目	1 単位以上				
	キャリア開発・データリテラシー科目	1 単位以上				
研究科共通科目		2 単位以上				
プログラム専門科目	特別研究	6 単位	「必修」特別研究：6 単位			
合計		10 単位以上				

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教育課程等の概要																
(先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻（博士課程後期）) 【既設】																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院共通科目	持続可能な発展科目 スペシャリスト型SDGsアイデアマ イニング学生セミナー SDGsの観点から見た地域開発セ ミナー 普遍的平和を目指して	1・2・3 前後		1				○							兼10 集中	
		1・2・3 後		1				○							兼3 集中	
		1・2・3 ①②④		1				○							兼10 オムニ バス・ メディ ア	
	キャリア開発・データリテラシー科目	データサイエンス	1・2・3 ③④		2				○		1			1		
		パターン認識と機械学習	1・2・3 ④		2				○		1			1		
		データサイエンティスト養成	1・2・3 ②		1				○					1		兼1 集中
		医療情報リテラシー活用	1・2・3 ③		1				○							兼7 オムニ バス・ 共同(一 部)
		リーダーシップ手法	1・2・3 前後		1				○							兼2
		高度イノベーション人材のための キャリアマネジメント	1・2・3 ②④		1				○							兼2 メディ ア
		事業創造概論	1・2・3 ①②		1				○							兼1
		イノベーション演習	1・2・3 ③		2					○				1		兼1
	長期インターンシップ	1・2・3 前後		2					○						兼2 集中	
小計（12科目）	—	0	16	0	—	—	—	—	1	1	0	1	0	兼35		
研究科共通科目	国際性 アカデミック・ライティングⅡ 海外学術研究	1・2・3 ①②③④		1				○		15						
		1・2・3 ①②③④		2				○		15						
	社会性	経営とアントレプレナーシップ	1・2・3 ①		1				○							兼1
		Technology Strategy and R&D Management	1・2・3 ③		1				○							兼1
		技術応用マネジメント概論	1・2・3 ②		1				○							兼1
		未来創造思考（応用）	1・2・3 ②		1				○							兼1 集中
自然科学系長期インターンシップ	1・2・3 ①②③④		2				○		15							
小計（7科目）	—	0	9	0	—	—	—	—	15	0	0	0	0	兼3		
プログラム専門科目	数学特別研究	1～3		12				○		11	10	1	2		兼3	
	物理学特別研究	1～3		12				○		11	15				兼10	
	地球惑星システム学特別研究	1～3		12				○		6	5		2		兼5	
	基礎化学特別研究	1～3		12				○		11	8	1	4			
	応用化学特別研究	1～3		12				○		11	4		3			
	化学工学特別研究	1～3		12				○		8	3		5			
	電気システム制御特別研究	1～3		12				○		9	8		6		兼3	
	機械工学特別研究	1～3		12				○		18	9		3			
	輸送・環境システム特別研究	1～3		12				○		5	6					
	建築学特別研究	1～3		12				○		5	7		2		兼1	
	社会基盤環境工学特別研究	1～3		12				○		6	11					
情報科学特別研究	1～3		12				○		15	13	1					

教 育 課 程 等 の 概 要

(先進理工系科学研究科先進理工系科学専攻(博士課程後期))【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	スマートイノベーション特別研究	1～3		12				○		19	12		9		兼3
	量子物質科学特別研究	1～3		12				○		20	20		9		
	理工学融合特別研究	1～3		12				○		15	14	1			兼10
	小計(15科目)	—	0	180	0			—		147	128	3	36	0	兼32
合計(34科目)		—	0	205	0			—		147	128	3	37	0	兼69
学位又は称号		学位又は学科の分野			理学関係 工学関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
修了に必要な単位数を16単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 修了要件単位数：16単位 ・大学院共通科目：2単位以上 持続可能な発展科目：1単位以上、キャリア開発・データリテラシー科目：1単位以上 ・研究科共通科目：2単位以上 国際性科目：1単位以上、社会性科目：1単位以上 ・プログラム専門科目：12単位						1 学年の学期区分			2 学期(4ターム)						
						1 学期の授業期間			15週						
						1 時限の授業時間			90分						

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教育課程等の概要																
（統合生命科学研究科統合生命科学専攻（博士課程後期））【既設】																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院共通科目	持続可能な発展科目 スペシャリスト型SDGsアイディアマ イニング学生セミナー SDGsの観点から見た地域開発セ ミナー 普遍的平和を目指して	1・2・3 前		1				○		1	2		1		兼6 集中	
		1・2・3 後		1				○		1	1				兼1 集中	
		1・2・3 ①②④		1				○		1					兼9 オムニ バス	
	キャリア 開発・ データ リテラ シー 科目	データサイエンス	1・2・3 ③④		2				○							兼2
		パターン認識と機械学習	1・2・3 ④		2				○							兼2
		データサイエンティスト養成	1・2・3 前		1				○							兼3 集中
		医療情報リテラシー活用	1・2・3 ③		1				○							兼7 オムニ バス
		リーダーシップ手法	1・2・3 前後		1				○							兼2 集中
		高度イノベーション人材のための キャリアマネジメント	1・2・3 ②④		1				○							兼2
		事業創造概論	1・2・3 ①②		1				○							兼1
	イノベーション演習	1・2・3 ③		2					○						兼1	
	長期インターンシップ	1・2・3 前後		2					○						兼2 集中	
小計(12科目)		—	0	16	0	—			3	3	0	1	0	兼32		
研究科 共通 科目	生命科学研究計画法	1①		2				○		3	4		2			
	海外学術研究	1・2・3 ①・②・ ③・④		2				○		1						
	生命科学キャリアデザイン開発	1後		2				○		3	1					
	生物・生命系長期インターンシップ	1・2・3 ①・②・ ③・④		2				○		1						
	プログラム共同セミナーB	1・2・3 ①・②・ ③・④		2				○		1						
小計(5科目)		—	0	10	0	—			7	5	0	2	0	0		
プ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	先端生物学特別講義A	1・2・3 前		1				○							集中・ 隔年・ オムニ バス	
	先端生物学特別講義B	1・2・3 後		1				○							集中・ 隔年・ オムニ バス	
	先端生物学特別講義C	1・2・3 前		1				○							集中・ 隔年・ オムニ バス	
	先端生物学特別講義D	1・2・3 後		1				○							集中・ 隔年・ オムニ バス	
	生物圏多文化セミナーB	1・2・3 後		2					○	2	1				兼1	
	統合生命総合科学演習	1・2・3 ④		2					○	10	5	1			兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(統合生命科学研究科統合生命科学専攻(博士課程後期)) 【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
	先端基礎生物学研究演習E	1・2②		1		※	○									
	先端基礎生物学研究演習F	1・2③		1		※	○					1				
	数理生命科学特別講義E	1・2・3 ②		1		○			1							集中
	数理生命科学特別講義F	1・2・3 ②		1		○							1			集中
	数理生命科学特別講義G	1・2・3 ③		1		○			1							集中
	数理生命科学特別講義H	1・2・3 ④		1		○			1							集中
	生命医科学セミナーC	1 ③		1			○		6	7			6			兼6 集中
	生命医科学セミナーD	2 ③		1			○		6	7			6			兼6 集中
	生命医科学セミナーE	3 ③		1			○		6	7			7			兼6 集中
	統合生命科学特別研究	1~3	12				○		43	32	3		6			兼12
	ゲノム編集先端研究特論A	1・2・3 ③		2			○					1				兼3
	ゲノム編集先端研究特論B	1・2・3 ②		2			○									兼11
	iPS細胞短期研修	2①・ ②・③・ ④		2			○									兼1
	ゲノム編集先端研究室研修	2①・ ②・③・ ④		2			○									兼1
	共同研究企業インターンシップ	2①・ ②・③・ ④		2			○									兼1
	小計(21科目)	—	12	27	0	—	—	—	42	34	4	13	0			兼31
合計(39科目)		—	12	53	0	—	—	—	43	36	4	16	0			兼63
学位又は称号	博士(理学) 博士(工学) 博士(農学) 博士(学術)	学位又は学科の分野			理学関係 工学関係 農学関係											
卒業要件及び履修方法								授業期間等								

教 育 課 程 等 の 概 要

(統合生命科学研究科統合生命科学専攻(博士課程後期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置				備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教		助手
<p>修了に必要な単位数を20単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>○生物学プログラム ・大学院共通科目 2単位以上(持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修) ・研究科共通科目：4単位以上 ・プログラム専門科目：14単位以上(統合生命科学特別研究12単位は必修)</p> <p>○食品生命科学プログラム ・大学院共通科目 2単位以上(持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修) ・研究科共通科目：4単位以上 ・プログラム専門科目：14単位(生物圏多文化セミナーB2単位、統合生命科学特別研究12単位は必修)</p> <p>○生物資源科学プログラム ・大学院共通科目 2単位以上(持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修) ・研究科共通科目：4単位以上 ・プログラム専門科目：14単位(生物圏多文化セミナーB2単位、統合生命科学特別研究12単位は必修)</p> <p>○生命環境総合科学プログラム ・大学院共通科目 2単位以上(持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修) ・研究科共通科目：4単位以上 ・プログラム専門科目：14単位(総合科学系演習Ⅱ1単位、統合生命総合科学演習1単位、統合生命科学特別研究12単位は必修)</p> <p>○基礎生物学プログラム ・大学院共通科目 2単位以上(持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修) ・研究科共通科目：4単位以上 ・プログラム専門科目：14単位(先端基礎生物学研究演習E1単位、先端基礎生物学研究演習F1単位、統合生命科学特別研究12単位は必修)</p> <p>○数理生命科学プログラム ・大学院共通科目 2単位以上(持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修) ・研究科共通科目：4単位以上 ・プログラム専門科目：14単位以上(統合生命科学特別研究12単位は必修)</p> <p>○生命医科学プログラム ・大学院共通科目 2単位以上(持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修) ・研究科共通科目：4単位以上 ・プログラム専門科目：13単位(生命医科学セミナーC 1単位、生命医科学セミナーD 1単位、統合生命科学特別研究12単位は必修) ・選択必修科目又は自由科目：1単位以上</p>													1 学年の学期区分	2学期(4ターム)
<p>○基礎生物学プログラム ・大学院共通科目 2単位以上(持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修) ・研究科共通科目：4単位以上 ・プログラム専門科目：14単位(先端基礎生物学研究演習E1単位、先端基礎生物学研究演習F1単位、統合生命科学特別研究12単位は必修)</p>													1 学期の授業期間	15週
<p>○数理生命科学プログラム ・大学院共通科目 2単位以上(持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修) ・研究科共通科目：4単位以上 ・プログラム専門科目：14単位以上(統合生命科学特別研究12単位は必修)</p> <p>○生命医科学プログラム ・大学院共通科目 2単位以上(持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修) ・研究科共通科目：4単位以上 ・プログラム専門科目：13単位(生命医科学セミナーC 1単位、生命医科学セミナーD 1単位、統合生命科学特別研究12単位は必修) ・選択必修科目又は自由科目：1単位以上</p>													1 時限の授業時間	90分

(注)

1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考)

教 育 課 程 等 の 概 要

(統合生命科学研究科統合生命科学専攻(博士課程後期)) 【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		

考に係るものを含む。)についても作成すること。

- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の出容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教育課程等の概要															
(医系科学研究科総合健康科学専攻(博士課程後期))【既設】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
大学院共通科目	持続可能な発展科目 スペシャリスト型SDGsアイデアマ イニング学生セミナー	1・2・ 3②④		1				○							兼9 集中
	SDGsの観点から見た地域開発セ ミナー	1・2・3 ③		1				○							兼3 集中
	普遍的平和を目指して	1・2・ 3①②④		1				○							兼10 オムニバ ス
	データサイエンス	1・2・ 3③		2				○							兼2
	パターン認識と機械学習	1・2・ 3④		2				○							兼2
	データサイエンティスト養成	1・2・3 ②		1				○							兼3
	医療情報リテラシー活用	1・2・ 3③		1				○		1					オムニバ ス・共同 (一部)
	リーダーシップ手法	1・2・ 3前④		1				○							兼2
	高度イノベーション人材のための キャリアマネジメント	1・2・ 3②④		1				○							兼2
	イノベーション演習	1・2・ 3③		2					○						兼1
	長期インターンシップ	1・2・ 3前後		2					○						兼2
	事業創造概論	1・2・ 3①		1					○						兼1
小計(12科目)		—	0	16	0			—	1	0	0	0	0	兼36	
研究科共通科目	生命・医療倫理学B	1③	1					○		2					兼5 オムニバ ス
	多職種連携B	1②	1					○		2	1		1		兼4 オムニバ ス
	研究方法論B	1①		1				○		2			1		兼12 オムニバ ス・共同 (一部)
	アドバンスド生命科学コースワーク	1③		1											兼1
	バイオメディカルサイエンスの創生 展開	1③		1				○		2					兼7 オムニバ ス・共同 (一部)
	バイオデザイン概論B I	1前		1				○							兼3 オムニバ ス
	バイオデザイン概論B II	1後		1				○							兼2 オムニバ ス
トランスレーショナルリサーチ概論B	1④		1				○		1	1				兼10 オムニバ ス	
小計(8科目)		—	2	6	0			—	9	2	0	2	0	兼30	
専攻共通科目	臨床腫瘍学	1①		1				○		1					兼6 オムニバ ス・共同 (一部)
	放射線統合医科学	1①		1				○		2					兼6 オムニバ ス
	薬物治療学	1④		1				○							兼7 オムニバ ス
	がん診療各論	1①		1				○		1					兼8 オムニバ ス
	Environment and Health	1①		1				○		1	1				共同
	Research Methodology and Health System Management	1③		1				○		1	1				共同
小計(6科目)		—	0	6	0			—	5	1	0	0	0	兼25	
	ヘルスプロモーション研究法論	1後		2				○		7					オムニバ ス
	Advanced Research Methodology in Health Science	1前		2				○		1	2				共同
	Advanced Statistics in Health Science	1後		2				○							兼1
	Global Health Challenges and Solutions II	1後		2				○		1	1				共同

教 育 課 程 等 の 概 要

(医系科学研究科総合健康科学専攻 (博士課程後期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
	国際保健看護学特講	1前		2		○			1						
	健康情報学特講	1前		2		○					1				
	基礎看護技術開発学特講	1前		2		○			1						
	助産・母性看護方法開発学特講	1前		2		○			1						
	小児看護方法開発学特講	1前		2		○			1						
	成人看護方法開発学特講	1前		2		○			1						
	周手術期・クリティカルケア開発学特講	1前		2		○			1			1			共同
	老年・がん看護方法開発学特講	1前		2		○			1						
	精神保健看護方法開発学特講	1前		2		○			1						
	地域保健看護方法開発学特講	1前		2		○			1						
	地域・学校看護方法開発学特講	1前		2		○			1						
	国際保健看護学特講演習	1前・後		2			○		1						
	健康情報学特講演習	1前・後		2			○				1				
	基礎看護技術開発学特講演習	1前・後		2			○		1						
	助産・母性看護方法開発学特講演習	1前・後		2			○		1		1				共同
	小児看護方法開発学特講演習	1前・後		2			○		1						
	成人看護方法開発学特講演習	1前・後		2			○		1						
	周手術期・クリティカルケア開発学特講演習	1前・後		2			○		1			1			共同
	老年・がん看護方法開発学特講演習	1前・後		2			○		1						
	精神保健看護方法開発学特講演習	1前・後		2			○		1						
	地域保健看護方法開発学特講演習	1前・後		2			○		1						
	地域・学校看護方法開発学特講演習	1前・後		2			○		1						
	スポーツリハビリテーション学特講	1前		2		○			1		1				共同
	生体運動・動作解析学特講	1前		2		○			1						
	生体機能解析制御科学特講	1前		2		○			1	1					共同
	運動器機能医学特講	1前		2		○			1		1				共同
	生体環境適応科学特講	1前		2		○			1						
	生理機能情報科学特講	1前		2		○				1					
	作業行動探索科学特講	1前		2		○			1						
	作業機能制御科学特講	1前		2		○			1						
	上肢機能解析制御科学特講	1前		2		○			1						
	精神機能制御科学特講	1前		2		○			1						
	感覚運動神経科学特講	1前		2		○			1						
	脳機能イメージング特講	1前		2		○			1						
	スポーツリハビリテーション学特講演習	1前・後		2			○		1		1				共同
	生体運動・動作解析学特講演習	1前・後		2			○		1						
	生体機能解析制御科学特講演習	1前・後		2			○		1	1					共同
	運動器機能医学特講演習	1前・後		2			○		1		1				共同
	生体環境適応科学特講演習	1前・後		2			○		1						

プログラム

教 育 課 程 等 の 概 要

(医系科学研究科総合健康科学専攻 (博士課程後期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	生理機能情報科学特講演習	1前・後		2				○			1				
	作業行動探索科学特講演習	1前・後		2				○		1					
	作業機能制御科学特講演習	1前・後		2				○		1					
	上肢機能解析制御科学特講演習	1前・後		2				○		1					
	精神機能制御科学特講演習	1前・後		2				○		1					
	感覚運動神経科学特講演習	1前・後		2				○		1			1		
	脳機能イメージング特講演習	1前・後		2				○		1					
	看護開発科学特別研究	1～3	6					○		11	1				
	心身機能生活制御科学特別研究	1～3	6					○		10					
	口腔健康科学特講Ⅰ	1前	2					○		1					オムニバス
	口腔健康科学特講Ⅱ	1前	2					○		1					オムニバス
	応用口腔生物工学特別演習	1～2	4					○		1					
	口腔リハビリテーション工学特別演習	1～2	4					○		1					
	生体構造・機能修復学特別演習	1～2	4					○		1	1				共同
	医療システム工学特別演習	1～2	4					○		1					
	口腔保健・衛生学特別演習	1～2	4					○		1		1			
	口腔保健発達機能学特別演習	1～2	4					○		1					
	口腔保健管理学特別演習	1～2	4					○		1					
	口腔健康増進学特別演習	1～2	4					○		1					
	応用口腔生物・リハビリテーション工学特別研究	1～3	6						○	1					
	生体構造・機能修復学特別研究	1～3	6						○	1	1				
	医療システム工学特別研究	1～3	6						○	1					
	口腔保健・衛生学特別研究	1～3	6						○	1		1			
	口腔保健発達・健康増進学特別研究	1～3	6						○	1					
	口腔保健管理学特別研究	1～3	6						○	1					
	薬科学特講	1前	2						○	4	1				オムニバス・共同(一部)
	生薬学特別演習	1～2	4						○	1					
	創薬合成化学特別演習	1～2	4						○	1			2		
	医薬分子機能科学特別演習	1～2	4						○	1					
	微生物医薬品開発学特別演習	1～2	4						○	1	1		1		
	薬効解析科学特別演習	1～2	4						○	1					
	薬物動態解析・制御科学特別演習	1～2	4						○	1	1		1		共同
未病・予防医学特別演習	1～2	4						○						兼1	
生薬学特別研究	1～3	6						○	1						
創薬合成化学特別研究	1～3	6						○	1			2			
医薬分子機能科学特別研究	1～3	6						○	1						
微生物医薬品開発学特別研究	1～3	6						○	1	1		1			
薬効解析科学特別研究	1～3	6						○	1						
薬物動態解析・制御科学特別研究	1～3	6						○	1						
未病・予防医学特別研究	1～3	6						○						兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要

(医系科学研究科総合健康科学専攻 (博士課程後期)) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
	特別演習	1~2		4				○			11	2			5		兼43
	特別研究	1~3		6					○		9	2			5		兼43
	English Presentation	1前・後		2			○										兼1
	英語論文修辞学	1前		2			○										兼1
	小計(87科目)	—	2	268	0			—			43	9	5	10	0		兼53
合計(113科目)		—	4	296	0			—			44	10	5	12	0		兼124
学位又は称号		博士 (医科学) 博士 (歯科学) 博士 (薬科学) 博士 (看護学) 博士 (保健学) 博士 (口腔健康科学) 博士 (学術)			学位又は学科の分野			医学関係 歯学関係 薬学関係 保健衛生学関係(看護学関係) 保健衛生学関係(リハビリテーション関係) 保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)									
卒業要件及び履修方法								授業期間等									
<p>1. 保健科学プログラム</p> <p>修了に必要な単位数を22単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>修了要件単位数：22単位</p> <p>(1)大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修）</p> <p>(2)研究科共通科目：4単位以上（ただし、生命・医療倫理学B及び多職種連携Bを必修）</p> <p>(3)専攻共通科目：2単位以上</p> <p>(4)プログラム専門科目：14単位以上（専門共通から2単位以上（ヘルスプロモーション研究法論の履修を推奨）、看護学及び保健学領域の履修者については、特講から2単位以上、演習から2単位以上、特別研究から6単位、口腔健康科学領域の履修者については、特講から2単位以上、演習から4単位以上、特別研究から6単位）</p> <p>2. 薬科学プログラム</p> <p>修了に必要な単位数を22単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>修了要件単位数：22単位</p> <p>(1)大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修。ただし、キャリア開発・データリテラシー科目からは、データリテラシー関係の科目の履修を推奨。）</p> <p>(2)研究科共通科目：4単位以上（ただし、生命・医療倫理学B及び多職種連携Bを必修）</p> <p>(3)専攻共通科目：2単位以上</p> <p>(4)プログラム専門科目：14単位以上（薬科学特講を含む講義科目から4単位以上、特別演習4単位、特別研究6単位を必修）</p>								1学年の学期区分					2学期（4ターム）				
								1学期の授業期間					15週				

教 育 課 程 等 の 概 要

(医系科学研究科総合健康科学専攻 (博士課程後期)) 【既設】

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
<p>3. 生命医療科学プログラム 修了に必要な単位数を22単位以上とし、以下のとおり、単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。</p> <p>修了要件単位数：22単位 (1)大学院共通科目：2単位以上（持続可能な発展科目及びキャリア開発・データリテラシー科目から、それぞれ1単位以上を履修。ただし、キャリア開発・データリテラシー科目からは、データリテラシー関係の科目の履修を推奨。） (2)研究科共通科目：4単位以上（ただし、生命・医療倫理学B及び多職種連携Bを必修） (3)専攻共通科目：2単位以上 (4)プログラム専門科目：14単位</p>			1 時限の授業時間								90分			

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 5 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 6 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

授 業 科 目 の 概 要

(大学院スマートソサイエティ実践科学研究院 博士課程前期)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大 学 院 共 通 科 目 持 続 可 能 な 発 展 科 目	Hiroshima から世界平和を考える	<p>(概要) 被爆地広島に立脚する広島大学は、理念の第一に平和を希求する精神を掲げる。本講義の目的は次の二点である。ヒロシマの基盤ともいべき原爆・被爆被害の概要を理解する。さらに、ヒロシマを基軸としながらも普遍的で恒久的な平和のあり方を模索する。そこでは、今日的に緊急性の高いテーマである。例えば、貧困・飢餓・難民・環境問題そして世界各地の地域紛争等をテーマに、理想と現実との間にあるギャップをも理解し、理想的な平和のあり方を検討する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(72 VAN DER DOES LULI/2回) 講義の概要ーHIROSHIMA の原爆体験と平和, メディアと戦争・平和</p> <p>(45 川野 徳幸/1回) 原爆被爆被害の概要</p> <p>(46 保田 浩志/1回) 国連による核実験・原発事故の影響評価</p> <p>(101 星 正治/1回) 放射線の人体への影響とリスク評価の意味ー広島・長崎、セミパラチンスクなど世界の核被害から放射性微粒子までー</p> <p>(110 志賀 賢治/1回) 平和記念資料館の軌跡と課題</p> <p>(47 河合 幸一郎/1回) 途上国における貧困と飢餓, 食糧生産の現状と課題</p> <p>(73 山根 達郎/1回) 現代における地域紛争の特徴, 紛争後の平和構築の在り方</p>	オムニバス方式
	Japanese Experience of Social Development- Economy, Infrastructure, and Peace	<p>(概要) (英文) This course discusses the issues of Japanese development experience from the perspective of a pursuit of sustainability, which corresponds to the ideal of 'A Single Unified University, Free and Pursuing Peace' in the Founding Principle of Hiroshima University, and its long-term vision 'Splendor Plan 2017.' While sustainability is set as a core of SDGs, it's not easy to be realized as it involves many complicated and related issues represented by various components of SDGs. As resolution of one issue may produce another issue, we have to adopt a cross-disciplinary approach and consider historical aspects to tackle the issues. Inclusiveness is another aspect we have to pay attention in order to make global development sustainable, hence another important component of SDGs. To understand these complicated problems of sustainability, Japanese experience of development provides an interesting case. Japan is the first among non-Western countries to become a member of OECD, and its developmental path finds many successes as well as failures, from which we can learn a lot of lessons. Japan's endeavor for development and its development cooperation abroad have all produced Japanese society and its problems today including such new issues as rapid aging and depopulation.</p>	オムニバス方式

<p style="text-align: center;">大 学 院 共 通 科 目</p>	<p style="text-align: center;">持 続 可 能 な 発 展 科 目</p>	<p>Thus this course discusses such a wide range of issues Japan experienced in its whole process of social development that covers many aspects of SDGs.</p> <p>lesson1 Osamu Yoshida, 'Guidance for the Course'</p> <p>lesson2 Masahiro Yoshikawa, Deputy Director of JICA Chugoku Center, 'Outline of Japan's Development Cooperation'</p> <p>lesson3 Yuichiro Yoshida, 'Japanese Policy Experience: Success and Failures'</p> <p>lesson4 Masaru Ichihashi, 'Industrial Policy and Economic Growth'</p> <p>lesson5 Junyi Zhang, 'History of Environmental Policies in Japan' 1</p> <p>lesson6 Junyi Zhang, 'History of Environmental Policies in Japan' 2</p> <p>lesson7 Osamu Yoshida, 'Japanese ODA and Its Asia Policy'</p> <p>lesson8 Mari Katayanagi, 'Reconstruction of Hiroshima from Peacebuilding Perspective'</p> <p>(和訳) 本講義では、日本の開発経験を、持続可能性の追求という観点から、広島大学建学の精神にある「自由で平和な『一つの大学』」という理念と長期ビジョン Splendor Plan 2017 に関連付けながら議論する。SDGs は、その核心として、持続可能性を置いているが、その実現は、SDGs の構成要素となるさまざまに関連した問題を含んでいるがゆえに容易ではない。ある問題の解決は別の問題を引き起こすかもしれないがゆえに、分野横断的なアプローチを採ることや歴史的視点が必要となる。包摂性も、グローバルな発展を持続可能とするために注意しなければならないもう一つの観点であり、SDGs のもう一つの重要な構成要素となっている。</p> <p>持続可能性に関するこれらの複雑な問題を理解するうえで、日本の開発経験は興味深い事例を提供している。日本は非西洋諸国の中では最初の OECD 加盟国で、その発展過程にあつては、多くの成功及び失敗を経験しており、そこからさまざまな教訓を学ぶことができる。日本の発展への努力と海外への開発協力はすべて今日の日本社会とその抱える問題に結びついており、そこには急激な少子高齢化や人口減少の問題が含まれる。本講義では日本がその社会の発展の全過程において経験してきた広範囲な諸問題について学ぶものであり、それゆえ多くの SDGs の課題をカバーするものである。</p> <p>(オムニバス方式／全 8 回)</p> <p>(48 吉田 修／1 回) 本講義のガイダンス、概要説明</p> <p>(111 吉川 正宏／1 回) 日本の開発協力の概要</p> <p>(1 吉田 雄一郎／1 回) 日本の政策経験</p> <p>(2 市橋 勝／1 回) 産業政策と経済成長</p> <p>(3 張 峻屹／2 回) 日本の環境政策の歴史</p> <p>(48 吉田 修／1 回) 日本の ODA とアジア政策</p> <p>(49 片柳 真理／1 回) 平和構築から見た広島の復興</p>	
	<p>Japanese Experience of Human Development- Culture, Education, and Health</p>	<p>(概要) (英文) This course intends to discuss the issues of SDGs under the ideal of 'A Single Unified University, Free and Pursuing Peace' in the Founding Principle of Hiroshima University, and the long-term vision "Splendor Plan 2017". The SDGs sets sustainability as a core of the global issues. Such a broad issue always involve many related issues.</p>	<p>オムニバス方式</p>

大学院 共通科目	持続可能な 発展科目	<p>Resolution of one issue may produce another issue. It is important to consider cross-disciplinary approach and historical aspect. Also inclusiveness is an important principle of SDGs, and thus all countries, developed and developing countries, should collaborate to tackle these. When considering these cross-disciplinary approach, history, and inclusiveness of development, Japanese experience of development provides an important case, because Japan, among non-European countries, is the first country which has become a member of OECD. Here, we can learn many points from the developing efforts whether they are success or failure. These efforts, including development assistance, are connected to Japanese society of today. On the other hand, Japan currently faces such new issues as rapid aging and depopulation. Thus this course discusses Japanese experience of human development from the above aspects.</p> <p>lesson1 Guidance of the course lesson2 Maharajan Keshav Lall “Japanese experience of development in Agriculture and Remote area” lesson3 Koki Seki “Socio-cultural Aspect of Modernization of Japan: Focusing on the Transformation of Norm, Mentality, and Way of Living” lesson4 Kinya Shimizu “A History of Education in Japan” lesson5 Kinya Shimizu “Lesson Study in Japan: As a tool of PDSI in Japanese Education” lesson6 Junko Tanaka “International cooperation and research collaboration in the field of public health” lesson7 Michiko Moriyama "Healthcare system in Japan: its characteristics and history" lesson8 Discussion</p> <p>(和訳) 本講義では、広島大学建学の精神にある「自由で平和な『一つの大学』という理念と長期ビジョン Splendor Plan 2017 をベースとして、SDGs について議論する。SDGs は、世界的な問題の核として、持続可能性を置いている。そのような幅広い問題は、常に多くの関連した問題を含み、ある問題の解決は、別の問題を引き起こすかもしれない。分野間の連続性や歴史的視点が重要である。さらに、SDGs は包摂性を重要な原則としており、先進国、発展途上国を含むすべての国が協働して取り組んでいかなければならない。これらの学際的アプローチ、歴史的視点と包摂性を踏まれば、日本は貴重な経験を有しており、日本は非ヨーロッパ諸国の中では最初の OECD 加盟国でもある。発展に向けた努力にあたっては、我々はその結果に関わらず、多くの点を学ぶことができ、今日の日本社会の課題にも直結するものである。一方で、日本は急激な少子高齢化に直面している。上記のとおり、本講義では人類の発展における日本の経験に関して学ぶものである。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(50 馬場 卓也／2回) 本講義のガイダンス、概要説明、まとめ</p> <p>(23 MAHARJAN, KESHAV LALL／1回) 農業開発における日本の経験</p> <p>(51 関 恒樹／1回) 日本の現代化における社会文化的側面</p> <p>(52 清水 欽也／2回) 日本における教育開発</p> <p>(53 田中 純子／1回) 公衆衛生学分野の国際協力と共同研究</p> <p>(54 森山 美知子／1回) 日本のヘルスケアシステム</p>		
		データリテラシー	<p>(英文) Provide a deep understanding of basic descriptive and inferential tools. Promote correct use of statistics and correct interpretation of statistical results. Promote transparency and replicability.</p> <p>(和訳) 基本的な記述・推論ツールについての理解を深める。統計の正しい使い方と統計結果の正しい解釈を促進する。透明性と再現性を促進する。</p>	
		医療情報リテラシー	<p>(概要) がんゲノム情報を用いる新しいがん治療の開発や、有効な治療法を確立するための臨床研究をはじめ、電子カルテの普及によりビッグデータとして取り扱うことが可能になったカルテ情報を用いた疫学研究など、医学研究では医療情報を取り扱う研究分野の重要性を増している。このため、これからの医</p>	オムニバス方式

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;"> 大学院共通科目 キャリア開発・データリテラシー科目 </p>		<p>療関連分野で活躍するためには、個人情報保護などの倫理的な観点も含めて様々な医療情報をどのように取り扱うかを学ぶことが必須となっている。本授業では、医療情報を処理するために必要な知識について基礎的な解説をするとともに、その慎重な取り扱いに求められる情報セキュリティ、倫理、法律などについても触れる。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(53 田中 純子／1回) NDB (National data base) などの大規模医療データベースの種類、概要、疫学研究への活用</p> <p>(56 吉村 健一／1回) 臨床研究データ解釈におけるリテラシー</p> <p>(81 三木 大樹／1回) ゲノム情報の種類と、ゲノム情報を用いた研究の倫理的取り扱い規則、功罪や有用性</p> <p>(57 三原 直樹／1回) 医学医療分野におけるデータの種類・利活用における課題～病院情報システムの観点より～</p> <p>(58 大上 直秀／1回) がんゲノム情報の概要、課題</p> <p>(4 久保 達彦／1回) 災害医療活動における標準データセット構築手法</p> <p>(53 田中 純子／1回) 大規模長期情報を用いた医学研究</p> <p>(102 阿部 伸一／1回) 保健医療分野におけるビッグデータ・AIの応用と将来の展望及び課題</p>	
	<p>情報セキュリティ</p>	<p>(概要) 本講義は社会人として、研究者として必要とされる情報セキュリティの基本を体系的に習得することを目指す。情報セキュリティの基本概念の理解をはじめに、情報セキュリティを確保するための基礎技術、対策、教育などを学習するとともに、実習を通じて情報セキュリティ管理やインシデント対応などの情報セキュリティに関する基礎的な能力を養う機会とする。</p> <p>(オムニバス形式／全8回)</p> <p>(59 西村 浩二／2回) 情報セキュリティの基本概念及び情報セキュリティ管理を実現するための体制構築や手法について、事例や実習を交えて解説する。</p> <p>(74 渡邊 英伸／2回) 情報セキュリティを構成する基本技術及び関連技術について、情報セキュリティ対策の実際の事例を交えて解説する。また、ログ解析を体験する実習も行う。</p> <p>(82 岩沢 和男／2回) 情報システムのライフサイクルを中心に、セキュアにシステム運用するための業務体制や基礎的なセキュリティ設定等を解説する。</p> <p>(87 村上 祐子／2回) 情報セキュリティと情報倫理には密接な関係がある。情報セキュリティでの問題を情報倫理の問題として解釈し最適な対策について事例をあげて解説する。</p>	<p>オムニバス方式</p>

	MOT 入門	<p>技術経営という MOT の基本を系統的に学習することを目標とする。技術経営の背景と本質を理解するために、技術経営の発展経緯をはじめ、経済社会における技術の動向、技術経営の発展方向などについて講義を行う。また、多くの具体例を用いて、技術経営の基本である効率と有効性をはじめ、技術者倫理、分析のツールである損益分岐点分析、品質管理、技術戦略、リーダーシップなどの中核的な諸問題を系統的かつ分かりやすく説明する。</p>	
基礎モジュール科目	Arts & Science for Evidence-Based Decision Making	<p>(英文) "The art and science of policy making is entering into a new era. The paradigm shift is upgrading the process of policy making and its impact evaluation from a personal-experience-based subjective approach to a more objective, evidence-based one.</p> <p>Evidence-based decision making does not merely mean the utilization of data; rather, it explicitly prohibits doing so, by acknowledging the wisdom that what our data shows in front of our eyes is just the correlation, and not the causation that we need to base our decision.</p> <p>The course will start by explaining what exactly is causation, illustrating how causation is different from correlation, and the danger of making policy decisions based on the correlation. Then the course will cover how to make your decision right by extracting causation from your data, namely, various identification strategies, including the instrumental variable analysis.</p> <p>Throughout the course, all concepts are delivered without using technical expressions. Students will acquire the intuition directly from the lectures.</p> <p>(和訳) 社会が激しく変動し、これまでの常識が覆される複雑で不確実な時代には、Society 5.0 関連技術の共通基盤となる「情報科学の基礎知識」を持つとともに、社会的課題の本質を把握し国際展開につなげる「社会科学的な思考力や分析力」が不可欠となる。そこで基礎モジュール科目では、これらのコンピテンシーの養成に必要な科目を選択必修科目として開設する。本科目「政策決定のための科学」は社会科学的な思考力や分析力を身につけるための科目に位置づけられる。</p> <p>本講義では、まず、エビデンスに基づく意思決定に必要な因果関係とは一体何なのかを説明し、因果関係が相関関係とどう違うのか、相関関係に基づいて政策判断をすることの危険性を例示し、データから因果関係を抽出し、正しい判断を行う方法、すなわち道具変数分析を含む様々な同定戦略について解説する。</p> <p>授業全体を通して、すべてのコンセプトは専門的な表現を使用せずに提供され、受講生は講義から直接、直感的に理解することができる。</p>	
	Data Analytics for Sustainable Development	<p>(概要)</p> <p>(英文) This course is designed for understanding basic statistics and introducing data analytic skills with R for sustainable development studies, including urban and transportation planning, epidemiology, ecology, and climatology. After basic introductory classes on statistics with exercises, four case studies on different disciplines will follow.</p> <p>(和訳) 社会が激しく変動し、これまでの常識が覆される複雑で不確実な時代には、Society 5.0 関連技術の共通基盤となる「情報科学の基礎知識」を持つとともに、社会的課題の本質を把握し国際展開につなげる「社会科学的な思考力や分析力」が不可欠となる。そこで基礎モジュール科目では、これらのコンピテンシーの養成に必要な科目を選択必修科目として開設する。本科目「持続的発展のためのデータ分析」は社会科学的な思考力や分析力を身につけるための科目に位置づけられる。</p> <p>本講義では、都市・交通計画、疫学、生態学、気候学などの持続可能な開発研究のために、基礎統計学を理解し、R によるデータ分析スキルを導入する。演習を交えた統計学の基礎的な入門授業の後、異なる分野に関する 4 つのケーススタディを行う。</p> <p>(オムニバス方式/全 16 回)</p> <p>(24 力石 真/4 回)</p> <p>基礎編では回帰モデルの理論基盤と R を用いた演習を、応用編では離散選</p>	オムニバス方式

		<p>択モデルの理論基盤と R を用いた演習を行う。</p> <p>(25 李 漢洙 / 4 回) 基礎編では統計分析の基本的な考え方と R を用いた演習を、応用編では離時系列分析の理論基盤と R を用いた演習を行う。</p> <p>(26 保坂 哲朗 / 4 回) 基礎編では統計検定の理論基盤と R を用いた演習を、応用編ではカウントデータに対するモデリングの理論基盤と R を用いた演習を行う。</p> <p>(27 鹿嶋 小緒里 / 4 回) 基礎編ではロジスティック回帰の理論基盤と R を用いた演習を、応用編では介入効果の推定に関する理論基盤と R を用いた演習を行う。</p>	
基礎 モ ジ ュ ー ル 科 目	Geographic Information System Technology	<p>社会が激しく変動し、これまでの常識が覆される複雑で不確実な時代には、Society 5.0 関連技術の共通基盤となる「情報科学の基礎知識」を持つとともに、社会的課題の本質を把握し国際展開につなげる「社会科学的な思考力や分析力」が不可欠となる。そこで基礎モジュール科目では、これらのコンピテンシーの養成に必要な科目を選択必修科目として開設する。本科目「地理情報システム技法」は情報科学の基礎知識を身につけるための科目に位置づけられる。本講義では、都市・交通計画、環境、エネルギー、農業、防災など様々な分野で必要となる空間の情報を処理・解析するための方法について、地理情報システム (GIS) を活用した地理空間分析の諸手法について講義するとともに、各分野での活用事例を紹介することを通して、GIS を用いて分析・解決する能力を養成する。本講義では、(1) 空間的データの表現を理解すること、(2) GIS に関する基礎知識を習得すること、(3) GIS を用いた基本的な空間情報処理を行うことができること、(4) GIS を用いた空間データのモデリングに関する応用技術を習得すること、を目指す。</p>	
	Practical Machine Learning	<p>(英文) This lecture covers the practice and some necessary theory of supervised learning (Regression and Classification). We cover basic concepts of statistical learning, like the bias-variance trade-off, and practical aspects of model evaluation and hyper-parameter selection. Starting from basic linear models, we proceed to neural networks and its implementation and training using PyTorch. The lecture will consists of three types: ordinary lectures, hands-on-sessions, presentation by students.</p> <p>(和訳) 社会が激しく変動し、これまでの常識が覆される複雑で不確実な時代には、Society 5.0 関連技術の共通基盤となる「情報科学の基礎知識」を持つとともに、社会的課題の本質を把握し国際展開につなげる「社会科学的な思考力や分析力」が不可欠となる。そこで基礎モジュール科目では、これらのコンピテンシーの養成に必要な科目を選択必修科目として開設する。本科目「実践的機械学習」は情報科学の基礎知識を身につけるための科目に位置づけられる。本講義では、回帰と分類の実践と必要な理論について解説する。バイアス-分散トレードオフのような統計的学習の基本概念と、モデル評価やハイパーパラメータ選択の実践的側面を学ぶ。基本的な線形モデルから始まり、ニューラルネットワークとその実装、PyTorch を用いた学習へと進む。</p>	隔年
	Artificial and Natural Intelligence	<p>社会が激しく変動し、これまでの常識が覆される複雑で不確実な時代には、Society 5.0 関連技術の共通基盤となる「情報科学の基礎知識」を持つとともに、社会的課題の本質を把握し国際展開につなげる「社会科学的な思考力や分析力」が不可欠となる。そこで基礎モジュール科目では、これらのコンピテンシーの養成に必要な科目を選択必修科目として開設する。本科目「人工知能と自然知能」は情報科学の基礎知識を身につけるための科目に位置づけられる。本講義では、PyTorch フレームワークを使って、深層学習でよく使用される Convolutional Neural Networks, Recurrent Neural Networks や Transformer モデルを実装しながら、それらの動作原理・理論や代表的な応用例 (コンピュータビジョンや自然言語処理への応用) について学ぶ。コンピュータによる知能の実現の可能性についても議論する。</p>	隔年

基礎 モ ジ ュ ー ル 科 目	Academic Writing I	<p>社会が激しく変動し、これまでの常識が覆される複雑で不確実な時代には、Society 5.0 関連技術の共通基盤となる「情報科学の基礎知識」を持つとともに、社会的課題の本質を把握し国際展開につなげる「社会科学的な思考力や分析力」が不可欠となる。そこで基礎モジュール科目では、これらのコンピテンシーの養成に必要な科目を選択必修科目として開設する。本科目「アカデミック・ライティング I」は社会科学的な思考力や分析力を身につけるための科目に位置づけられる。</p> <p>本演習では、国際学会発表要旨や英語論文執筆のためのアカデミック・ライティングの基礎を学ぶ。国際学会において発表する場合は、要旨において発表する研究成果について目的や結果の明確化などをわかりやすく記すことを学び、ポスター発表のポスターの作り方、口頭発表の組み立て方などについての基本も学ぶ。また、英語論文のしくみや論文の組み立て方、特に、実践科学に必要な広い視野を持った議論の進め方、序・結論・実験の部などの書き方などを学ぶ。</p>	
専 門 モ ジ ュ ー ル 科 目	Advanced Natural Language Processing	<p>自然言語処理とは言葉をコンピュータで取り扱う技術を指し、特に不確実性を扱う上で不可欠となる統計を用いた技術を統計的自然言語処理と呼ぶ。本講義では、書き言葉である自然言語テキスト（以下、テキスト）から有用な知識を引き出すための統計的自然言語処理として、テキストの分類・クラスタリング・ランキング、潜在トピックや深層表現に基づく分析手法、さらには Web やマルチメディアなどへの応用について講述する。</p>	隔年
	Advanced Learning Systems	<p>近年、人工知能やエージェントベースシミュレーション、ロボティクス、最適制御などの分野で重要な概念となっているニューラルネットワーク及びディープラーニングの基礎を習得する。また、プログラミング演習を通じて実装技術を理解する。</p>	隔年
	Advanced Biosystems Engineering	<p>人の機能とモデル化技術の理解及びその学術・産業への工学的応用について講義する。機械や道具、情報技術の発展によって、多くのスマート機器が開発・販売されているが、多くの人にとって使いやすく、また社会生活をサポートする機器を開発するためには、人の身体・認知特性を知り、それに基づき機器の振る舞いをデザインすることが不可欠である。本講義では、人をはじめとする生体システムの身体・運動・知覚・感覚特性について概説するとともに、最新の人の特性理解に基づくヒューマンインタフェースならびにインタラクション、ならびに人間の機能・能力拡張システムについて解説する。</p>	隔年
	Advanced Data-driven Systems Design	<p>本講義では、制御工学分野におけるデータ駆動型制御法を中心に「データ駆動型システム」の基礎について講義する。具体的には、(1) データ駆動型制御法の基礎概念、(2) 参照モデルに基づく制御系設計法、(3) 制御器のオンライン/オフライン調整法、(4) データベースを用いた制御法、(5) 制御性能評価方法（最小分散制御則）、および(6)データ駆動型サイバー・フィジカル・システム（CPS）の基本構成 について、産業応用事例を交えながら講述する。</p>	隔年
	Advanced Smart Sensing	<p>様々な場面で使われる工学的システムにおける視覚・触覚センシング技術を中心にスマートセンシング技術の技術的基礎を習得するとともに、最新のセンシング技術動向についてセミナー形式の発表により理解を深める。</p>	隔年
	Advanced Robotics	<p>シリアルリンクロボットやパラレルリンクロボットなどのロボットの構造を学ぶと共に、これらのロボットを動かすために必要となる運動学、静力学、動力学を習得する。</p>	隔年
	Transportation Engineering	<p>インフラ整備、交通計画、交通政策に必要な基礎理論について習得する。交通統計、交通流と道路容量、交差点設計、交通ネットワーク、地区交通計画と自転車政策、公共交通計画、観光政策、交通需要マネジメント、大気質・騒音・エネルギー、ITS、ユニバーサルデザインとバリアフリーなどについて理解する。</p>	共同
	Regional and Urban Engineering	<p>都市計画理論、まちづくり戦略、望ましい地域・都市を形成していくための分析・評価手法、合意形成・住民参加のあり方などについて、講義と演習（輪読を含む）を通じて習得する。先進国・途上国の地域・都市整備に関わる問題を</p>	共同

専門モジュール科目		自ら調べ、発表し、理想的な都市の提案や、実際の地域・都市に関する問題を解決するための提案に関するレポートを作成し、方法論の適用方法をマスターする。	
	Fundamentals of Survey Methodology	本講義では、データ収集方法、調査デザイン手法、取得したデータの解析手法について学ぶ。具体的には、調査実施に際して生じうる誤差を体系的に整理するとともに、欠損データの扱い、選考意識調査、仮想評価法、サンプリング手法、プログラム評価手法等、基礎的な調査・分析手法を身につける。また、演習を通じて実際にデータの取得・解析を行い、その過程で調査を実施する上で配慮すべき点を把握する。	
	Infrastructure and Regional Planning	本講義では、地域経済理論に基づいた地域計画手法とモデリングの基礎について教授する。また、地域データの空間統計の理論と適用について理解する。さらに、最適な施設立地理論を学び、公共による施設配置計画への適用方法を把握する。	
	Smart Urban Development	本講義では、モビリティ、エネルギー、健康など、都市の様々な課題を分析し、モデル化するための基本的な手法について教授する。	
	Environmental Health Science	<p>人々の健康は、様々な環境的要因によって大きく変化をする。本講義において、受講学生は環境保健の基礎を学び、環境と健康の関連性についての理解を深めることを目指す。具体的には以下の項目についての知見を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 汚染物質の環境分布、人間への曝露、そして人間への健康影響など、環境健康科学の重要な概念を理解する。 2. 地球環境、物理環境、生物学的環境、化学環境などの主要な環境要因を定義し、これらの要因が人間の健康にどのように影響するかを理解する。 3. リスク評価とリスク管理の観点から規制プロセスの手順を理解し、環境問題に関する現在の法律と規制を特定する。 4. 環境衛生に関する日本の経験を理解する 5. 環境問題を解決するための学際的なコラボレーションの重要性と必要性を認識する。 6. 疫学の基礎的な部分を理解する。 	
	Environmental Epidemiology	<p>疫学研究で使用される基本的な原理と概念を理解することを目的とする。本講義における環境疫学の内容は、主に3つの領域：研究デザインの紹介；測定；各対象軍を比較するための疫学的手法からなる。ミニエクササイズを伴う疫学の基本的な入門クラスの後、環境保健のケーススタディに入る。具体的には以下の項目についての知見を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な疫学研究デザインを習得する。 2. 環境疫学研究における重要な特徴を理解する。 3. 基本的な人々の健康状況の測定方法やその比較および解釈について理解を深める。 	
	Advanced Energy Plant	<p>(概要) 我が国では、化石エネルギー資源に乏しく、新エネルギー資源を含めてもエネルギー需給の逼迫が懸念されている。また、地球規模では、人口増大と化石燃料の大量消費に伴う温暖化等の地球環境問題が深刻化している。従って、低環境負荷な再生可能エネルギーを利用しながら、エネルギー安定供給・環境保全・持続的経済発展を実現できる循環型社会の構築が喫緊の課題となっている。</p> <p>講義では、エネルギー需要と環境問題、天然資源（化石資源、バイオマス等）、化石燃料の利用と転換プロセス、バイオマスエネルギー、太陽光・風力・原子力等の再生可能エネルギー概論、バイオマスエネルギー転換プロセスとその経済性評価、及び再生可能エネルギー利用による地球温暖化防止に向けた対策等について説明し、議論する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(12 市川 貴之／8回)</p> <p>エネルギー需要と環境問題、天然資源（化石資源、バイオマス等）、化石燃料の利用と転換プロセス、バイオマスエネルギー、太陽光・風力・原子力等の再生</p>	オムニバス方式

		<p>可能エネルギーについて解説する。</p> <p>(105 花岡 寿明/7回)</p> <p>バイオマスエネルギー転換プロセスとその経済性評価、及び再生可能エネルギー利用による地球温暖化防止に向けた対策について解説する。</p>	
	Advanced Thermal Engineering	<p>エネルギー利用の重要な部分である熱エネルギーについて、学部の伝熱学で学んだ基礎を実際の問題に適用するために、より深い理解を説明し、具体例の紹介をする。熱物性について説明したあと、熱伝導、数値計算、対流熱伝達を含めたモデル構築、対流熱伝達の数値計算、沸騰対流熱伝達の計算例、サーモサイフォンとヒートパイプ、充填層と流動層、放射、ヒートポンプ、ケミカル調湿、分子動力学について説明する。講義の最後には研究発表を行う。</p>	
	Energy Science and Technology	<p>気候変動、特に化石燃料の燃焼を起源とした CO2 排出による地球温暖化は、過去数十年の間に大きな懸念事項となった。地球温暖化を緩和するためには、省エネとエネルギーの効率的な利用を通してエネルギー消費量の削減が不可欠である。本講義では、現在のエネルギー技術を理解するために、エネルギー科学と工学におけるエネルギー生産と利用の基本原則を学ぶ。そして、持続可能な開発のための戦略に基づいて、エネルギー消費を削減するための高度なエネルギー生産および利用技術について学ぶ。</p>	
	Biomass Energy Technology	<p>本講義では、開発途上国のバイオマスエネルギー技術に関する基礎知識を学ぶ。バイオエナジー生産のための植物バイオマスと糖含有量を改善するための遺伝子技術の使用についても説明し、議論を行う。また、バイオマス発電に向けて農業・林業の副産物の利用及び効率の向上についても学ぶ。</p>	
	Advanced Environmental Systems Engineering	<p>本講義は、システム工学の観点からエネルギー・環境問題に取り組める国際人材の育成を目指す。そこで、講義、グループディスカッション、学生の発表を通じて、英語でのディスカッション能力を高めるとともに、エネルギーシステム分析、ライフサイクル分析、マテリアル・サブスタンスフロー分析、環境リスク分析を中心とした最先端の環境システム分析について学ぶ。</p>	
	Advanced Energy Conversion Systems	<p>エネルギー問題と環境問題を社会科学的視点で理解し、将来必要とされるエネルギー変換・貯蔵技術、とりわけ、水素貯蔵や二次電池における材料科学および量子工学的な基本原理の理解を目標とする。概要としては、エネルギー変換および貯蔵材料の必要性を理解するとともに、基礎的な物理学および化学に基づいてそれらの性能理解および材料開発の現状に迫る。加えて、それらの応用事例と今後の展開についても考察する。</p>	共同
	Sustainable Architecture A	<p>現在のアジア地域のエネルギー消費量は世界全体の約 35-40%と言われており、今後も増加することが予想されている。特に新興・途上国では、中間所得者層の成長に伴い住宅用エネルギー消費の増加が著しい。アジアの主要都市の多くが高湿多湿気候下にあるので、特に同気候下で、省エネや低炭素に考慮しながら健康かつ快適な住環境を実現する技術の開発が強く求められている。こうした背景から、本講義では、特にアジアの新興・途上国において持続可能な建築を実現させるための建築技術やその開発に必要な基礎理論の習得を目的とする。</p>	
	Assisted Reproductive Technology for Animal Production	<p>(概要) 精子や受精卵の保存、人工授精、体外受精や胚操作および胚移植技術について、その技術基盤となる生殖機構の基礎的知識から技術開発の理論まで、講義と演習(輪読を含む)を通じて習得する。雄側と雌側から、それぞれの生殖生理と生殖補助技術を理解するだけでなく、その実践を行う。家畜の生産現場におけるそれぞれの生殖補助技術の実施選択についてシミュレーションするレポートを作成し、個々の技術の理論と実践、そして適用方法をマスターする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(14 島田 昌之/4回)</p> <p>家畜の生殖補助技術を理解するために必要な雌雄の生殖生理機構について概説する。さらに、人工授精や体外受精などの生殖補助技術について、その適応</p>	オムニバス方式 講義 12 時間 実験実習 4 時間
専門 モジ ュ ー ル 科 目			

専 門 モ ジ ュ ー ル 科 目		を含めて説明する。 (91 梅原 崇/4回) 雌雄生殖細胞の取り扱い, 画像診断と統計学的評価方法, 保存法について講義と実習を行う。	
	Molecular Genetics for Animal Production	動物遺伝学, 分子生物学およびバイオインフォマティクスを基盤とし, DNA情報による動物の細胞, 個体および集団レベルでの解析方法に関する基礎知識から動物生産現場への活用について講義と実験実習によって習得し, さらにアクティブラーニング型学修形式で主体的かつ実践的に学ぶ。	講義 10 時間 実験実習 4 時間 演習 2 時間
	Smart Livestock Farming	乳牛の飼養管理技術について, その技術基盤となる乳牛の栄養学および管理学の基礎知識から応用まで, 講義を通じて習得する。また, 普及しつつあるスマート酪農に関する技術の原理原則, その利活用方法を附属農場で実践的に実習し, スマート機器から得られるビックデータの解析などをマスターする。	共同 講義 8 時間 実験実習 8 時間
	Smart Crop Production	作物の栽培管理技術について, その技術基盤となる植物の生理機構の基礎知識から技術開発の理論まで, 講義と演習を通じて習得する。また, スマート農業に関する国の政策や実証事業の動向を学び, 広島県の中山間地域や島嶼地域の農業が抱える問題の解決策について議論する。	講義 8 時間 演習 8 時間
	Sustainable Marine Environment	(概要) 海洋国家である日本およびフィリピン・インドネシア・ミャンマーなどのアセアン諸国を対象地域とし, 持続的な Marine Social-ecological system の確立に向けた演習を行う。上記の国に特徴的なそれぞれの沿岸生態系について概説した後に, アイディアマイニング手法を用いた学生同士の議論によって, 特定の沿岸環境・生態系を保全し, かつ持続的に利用する方策を導く。 (オムニバス方式/全8回) (17 小池 一彦/4回) サンゴ礁保全, 小規模漁業の持続的発展, マングローブ生態系の保全, バラスト水問題等について (76 LIAO LAWRENCE MANZANO/4回) マリンツーリズム, 海藻類の利用・養殖, 生物多様性保全について	隔年 オムニバス方式
	Sustainable Production of Fisheries Resources	安定的な水産物供給のための取り組みである「つくり育てる漁業」として位置づけられている養殖漁業と栽培漁業, およびその基盤となる種苗生産に関する基礎的知識や技術開発, 世界での応用例について講義と演習を通じて理解する。	講義 8 時間 演習 8 時間
	Microbiology for Food Safety	食品の微生物学的安全性確保に必要な知識, 技術, 考え方を習得する。食中毒細菌の生存や増殖に関わる特性や病原因子についての理解を深める。食品衛生にとって重要な食中毒細菌における病原性発現のメカニズムを遺伝子面より理解する。食品微生物に関する知識・技術が, 食の安全の確立にどのような形で貢献できるのか考察する。	
	Food Science and Brain Health	(英文) In this subject, students will learn fundamental brain science and how food and nutrition affect brain's health. Updated roles of food and nutrition in brain diseases such as Alzheimer's disease, dementias, epilepsy, and mental disorders will be discussed in this class. Reference textbooks and contents: 1) Fundamental Neuroscience, 4th Edition, 2013, New York: Academic Press.; 2) Neuroscience Online, an Open-Access Neuroscience Electronic Textbook, The University of Texas Health Science Center at Houston, McGovern Medical School.; 3) Modern Nutrition in Health and Disease, 11th Edition, 2012, Lippincott Williams & Wilkins. (和訳) 本講義では, 受講生は基本的な脳科学をベースとして, 食と栄養成分が脳の健全性にどのように影響するかを学ぶ。特に, アルツハイマー病, 認知症, てんかん, 精神障害などの脳疾患における食と栄養成分の最新の役割について説明する。	

専門 モジ ュ ー ル 科 目	Exercises in Smart Agriculture I	本授業は、従来各教員が行っていた研究指導のうち、幅広いスマートアグリカルチャー分野で共通して求められる能力を身につけることを目的とした内容をセミナープログラムとして実施する演習科目である。当該分野における最新の研究動向について理解を深めるために、学術論文の構成及びその検索方法を学修する。なお、本授業は担当教員と受講生との双方向の対話を重視する観点から少人数制で複数のクラスに分けて実施する。	
	Exercises in Smart Agriculture II	本授業では、スマートアグリカルチャー分野における学術研究成果を発表できるようになるために、まず、口頭発表及びポスター発表による効果的なプレゼンテーション法を学修する。なお、本授業は担当教員と受講生との双方向の対話を重視する観点から少人数制で複数のクラスに分けて実施する。	
	Botany Resources for the Future	植物に関する基礎的な知識を理解することを目的とする。本講義では、主に植物の二次代謝物質及び関係する遺伝子の同定及び単離の方法について講義する。環境中の二次代謝物質と関係する遺伝子の相互作用メカニズムの理解のほか、持続的な農業を確立するために、環境ストレス（乾燥、塩害、高温、冠水等）や雑草及び病原菌に耐性を持つ作物に由来する物質及び遺伝子の利用技術を習得することを目指す。また、遺伝子マーカーを用いて環境ストレスに対する耐性遺伝子を有する作物の育種の講義も行う。	
	Management and Conservation of Ecosystems	人間の生活は生物の遺伝的多様性、種多様性、景観多様性など生物多様性をもたらす生態系の恵みによって成り立っている。本講義では、これらの多様性の創出・維持機構、個体数の変動パターン、種間相互作用などを講義する。さらに、人間生活とこれら生物資源の関わりについて理論と事例を交えながら講義し、持続的な生物資源利用法を考える上で土台となる知識を習得することを目指す。	
	Epidemiology and Disease Prevention	<p>(概要)</p> <p>(英文) The overall objectives of the course for students are to:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Explain the essential information of epidemiology and describe the importance of epidemiologic studies. 2. Introduce basic concepts and issues of epidemiologic methods as well as disease control procedures. 3. Determine the etiologies of and effective preventive measures for communicable and chronic diseases. 4. Expand understanding of disease determinants and disease prevention in local and international settings. 5. Continue the practice of health related English communication skill. <p>(和訳) 本講義の全体的な目的は、以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 疫学研究の基礎と重要性の解説 2. 疫学的手法の基礎的な概念と問題、および疾病管理についての導入 3. 伝染性あるいは慢性的疾患への疫学的決定と効果的予防法 4. 地方と国際的な取り組みにおける、疾患の決定要因と疾病予防の応用理解 5. 健康にかかわる持続的な英語コミュニケーションスキルの実践 <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(77 RAHMAN MD MOSHIUR/11回)</p> <p>疫学原理、伝染病に対する疫学と予防、水系伝染病の疫学と予防、熱帯病の疫学と予防、食に関する病の疫学と予防、HIV/AIDSの疫学と予防、暴力の疫学と予防、結核の疫学と予防、栄養障害の疫学と予防、日本の慢性的な疾患の疫学、公害の予防と制御について担当</p> <p>(106 松山 亮太/1回)</p> <p>生物統計の基礎、人畜共通感染症の疫学と予防を担当</p> <p>(19 新福 洋子/1回)</p> <p>性と周産期に関する疫学を担当</p> <p>(54 森山 美知子/2回)</p> <p>導入とまとめを担当</p>	オムニバス方式

専門モジュール科目	Lecture on Oral Health Sciences	<p>(概要) 口腔と全身の健康・疾患について考える</p> <p>社会に占める高齢者人口の増加が問題とされる現代において、人々の健康を維持するために口腔の健康増進を図ることは非常に重要である。本科目では、全身の健康に影響を与える口腔疾患や口腔機能について、毎回オムニバス形式で授業を行い、口腔の健康がもたらす全身的な健康状態への影響について学ぶことを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(65 村山 長/1回) 医科・歯科医療におけるAIを担当</p> <p>(83 峯 裕一/1回) 歯科口腔領域におけるトランスレーショナルリサーチを担当</p> <p>(66 二川 浩樹/1回) お口の健康への新しいアプローチを担当</p> <p>(78 田地 豪/1回) 高齢者歯科治療を担当</p> <p>(22 加来 真人/1回) 自家歯牙移植を担当</p> <p>(79 下江 幸司/1回) 補綴物製作過程における感染対策を担当</p> <p>(67 太田 耕司/1回) 口腔がんとその予防について担当</p> <p>(84 重石 英生/1回) ウイルス感染と口腔粘膜疾患との関係を担当</p> <p>(93 前原 朝子/1回) 学校歯科保健活動を担当</p> <p>(94 兼保 佳乃/1回) 口腔衛生について担当</p> <p>(68 竹本 俊伸/1回) 口臭について担当</p> <p>(85 松本 厚枝/1回) 口腔保健管理について担当</p> <p>(95 仁井谷 善恵/1回) 歯科医療における感染予防対策を担当</p> <p>(21 内藤 真理子/1回) 口腔と全身の健康の関連を担当</p> <p>(96 西村 留美/1回) 口腔機能管理について担当</p>	オムニバス方式
	Global Health Challenges and Solutions 1	<p>(概要)</p> <p>(英文) This class is open to graduate students in Health Sciences, who intend to work on issues in local, country level, and/or worldwide. We will discuss SDGs (Sustainable Development Goals) and solutions introduced from UN (United Nations); also we will discuss using our real strategic approaches implemented in</p>	オムニバス方式

専門モジュール科目		<p>Japan and other countries. Special guest speakers for lecture and discussion will be invited.</p> <p>(和訳) この科目は、諸外国や地方の問題に興味のある院生のために開講される。ここでは、SDGs や国連で話題にのぼる内容などを議論する。また、日本や諸外国において実施されている実践的な課題解決方法についても議論する。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(77 RAHMAN MD MOSHIUR/11 回) 健康と発達、SDGs、飢餓、食品問題、人口統計、健康脅威、水の問題、暴力、環境保全、職業病などを担当</p> <p>(54 森山 美知子/2 回) 導入の説明とまとめを担当</p> <p>(19 新福 洋子/1 回) 出産と子育てにまつわる世界問題を担当</p> <p>(80 加古 まゆみ/1 回) 気候変動について担当</p>	
	Global Rehabilitation	<p>リハビリテーション医療にかかわる医療政策や保険制度は、諸外国の経済状況や社会情勢を反映し様々な方式がある。よって何かしらの疾患を罹患してリハビリテーション医療を受けようとする場合、国によって異なる方法と制度によって治療を受けることになる。世界各国からの遠隔授業を通して、各地で実施されているリハビリテーション医療の現状にふれ、英語によるグループディスカッションによりリハビリテーションのあり方について相互理解を深める。</p>	講義 14 時間 演習 16 時間
	Seminar on Health Policy & Global Health	<p>(概要) (英文) Students will learn to promote health of the society (rather than individuals) through public health efforts. We will learn the underlying concept of justice behind health and longevity. We will provide comprehensive ways (e.g., prevention, epidemiological, and policy building perspectives) to promote health in society and communities. We will also demonstrate political and economical perspectives related to health and medicine in medicine, pharmacology, and dentistry to help students understand histories of certain policies and systems.</p> <p>(和訳) 医学・医療の目指す一義的目標(狭義)とされる「健康と長寿」の基本理念である“正義 (Justice/健康等の格差の是正と基本的人権の思想と実証のための方法論)”を軸として、公衆衛生 (public health/共同体としての組織的努力による「社会の健康の処方等」を描くこと) を学ぶ。このため社会・地域の健康を制度・政策および地域医療・介護問題並びに国際保健等の視点で捉えつつ、総体としての健康を担う社会医学の手法・実際などの講義を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全 8 回)</p> <p>(53 田中 純子・86 秋田 智之/1 回) (共同) 社会と健康を担当</p> <p>(27 鹿嶋 小緒里/1 回) 健康の社会決定要因を担当</p> <p>(70 坂口 剛正/1 回) 世界を脅かす新興・再興感染症を担当</p> <p>(69 松本 正俊/1 回) 地域医療を担当</p>	オムニバス方式 共同 (一部)

		<p>(71 田原 栄俊/1回) 健康医療戦略におけるライフサイエンスの貢献を担当</p> <p>(4 久保 達彦/3回) 医療政策国際保健概論を担当</p>	
<p>専門 モジ ュ ー ル 科 目</p>	<p>Basic Biostatistics and Basic Clinical Statistics</p>	<p>(概要) 統計学的な解析方法および解釈・注釈について学び、エビデンスに基づいた医療や行政施策を実施できる基礎的な能力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全9回)</p> <p>(53 田中 純子/1回) 生物統計学の基本的な考え方についての概説を担当</p> <p>(86 秋田 智之/6回) 臨床研究・疫学研究および基礎医学・生物学で用いられる基本的な生物統計学の手法について、講義および統計ソフトの実習を併用した授業を行う。具体的な内容は記述統計、群間比較(連続変数, カテゴリカル変数), 相関と回帰, 交絡とその調整, 実験データのグラフの作成等。</p> <p>(56 吉村 健一/1回) 臨床研究で用いられる統計解析の一つである生存時間分析についての概説を担当</p> <p>(97 KO KO/1回) 医学・生物学で用いられる統計解析・情報科学の一つであるバイオインフォマティクスについての概説を担当</p>	<p>オムニバス方式 講義 6 時間 演習 12 時間</p>
	<p>Exercise and Seminar on Epidemiological Research and It's Analysis</p>	<p>フィールドにおける疫学調査, 疫学研究に用いられるデータがどのように得られるか, 解析されるかを習得する。国内外の現場に出て自ら実施する。実施した国内外の疫学調査の例を紹介した後, 疫学調査デザイン, 標本抽出, 標本サイズ, 疫学倫理など疫学調査の計画を立てる。その後, 実際の調査に同行し, 実際の調査を体験する。調査から得られたデータを解析する。報告書を作成する。</p>	<p>共同</p>
	<p>Basic Epidemiology and Practice</p>	<p>(概要) 疫学と疫学方法論の基本を理解し, 疫学の実践を学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(53 田中 純子/1回) 疫学の応用としてウイルス肝炎の疫学についての概説を担当</p> <p>(86 秋田 智之/5回) 疫学の基礎(疫学指標, 標準化, 研究デザイン, リスク指標, スクリーニング)とEBM(文献調査, メタアナリシス)について担当</p> <p>(99 永島 慎太郎・97 KoKo/4回)(共同) 疫学の基礎演習, 疫学実践論として食中毒発生時の疫学調査, ウイルス肝炎や新型コロナウイルス感染症の血清疫学調査について担当</p> <p>(107 木阪 有美/1回) 国際保健の動向と課題について担当</p> <p>(103 高島 義裕/1回) ワクチンと予防接種プログラムによる国際感染症対策: 疾病根絶の理論と実践について担当</p> <p>(108 石川 尚子/1回) 国際保健と感染症対策について担当</p>	<p>オムニバス方式 共同(一部)</p>

		(104 GRANT ERIC JON/1回) 疫学実践論として Epidemiological Method を担当	
		(109 高崎 洋介/1回) 疫学実践論として、医療イノベーションを担当	
	Research Methods	(英文) This course provides students common knowledge about an empirical research process in social science. The students will be able to acquire practical knowledge of how to search and read a scientific paper, types of data and how to collect them, causal inference and randomized controlled trial, and how to write a social science thesis. Class topics are designed to convey those knowledge through topical lectures, group activities, small quizzes, and presentation. (和訳) 社会科学における実証的な研究プロセスに関する共通知識を習得する。科学論文の探し方・読み方、データの種類と集め方、因果推論とランダム化比較試験、社会科学論文の書き方など、実践的な知識の獲得を目指す。授業のテーマは、トピック別講義、グループ活動、小テスト、プレゼンテーションなどを通して、それらの知識を伝えるようにする。	
	Applied Econometrics I	本授業の目的は、学生の論文執筆のための計量経済学的スキルを習得することである。実践的な観点から理論を応用することに重点を置く。具体的には、単純回帰分析、重回帰分析、クロスセクション分析、パネル分析、Instrumental Variable Estimations などのトピックを扱う。	
	Applied Econometrics II	本授業の目的は、学生の論文執筆のための計量経済学的スキルを習得することである。実務的な観点からの理論の応用に重点を置く。具体的には、回帰不連続デザイン、プロビット推定、ロジット推定、トビット回帰、打ち切り回帰、ヘックマン標本選択補正法などを取り上げる。	
	Development Microeconomics I	開発ミクロ経済学では、開発途上国の経済開発や市場開発課題に取り組むために必要なミクロ経済分析手法の獲得を目指す。ミクロ経済理論だけではなく、様々な経済政策が各経済主体の行動にいかなる変化をもたらすのか、その帰結として市場にどのような影響を及ぼすのかを分析するための技法を習得する。開発ミクロ経済学 I では、現代の開発ミクロ経済学における消費者行動理論とその分析ツールに精通することに重点を置く。	
	Development Microeconomics II	開発ミクロ経済学では、開発途上国の経済開発や市場開発課題に取り組むために必要なミクロ経済分析手法の獲得を目指す。ミクロ経済理論だけではなく、様々な経済政策が各経済主体の行動にいかなる変化をもたらすのか、その帰結として市場にどのような影響を及ぼすのかを分析するための技法を習得する。開発ミクロ経済学 II では、現代の開発ミクロ経済学における生産者行動理論とその分析ツールに精通することに重点を置く。	
	Development Macroeconomics I	開発マクロ経済学 I では、開発途上国の社会経済開発に関する課題に取り組むために必要なマクロ経済分析手法の獲得を目指す。国内総生産、物価、利子率、失業率などマクロ変数の相互関係や景気変動・経済成長に関して理解した上で、開発途上国における金融・財政政策といったマクロ経済政策の効果に関する分析手法を習得する。開発マクロ経済学 I では、現代の開発マクロ経済学における基礎理論とその分析ツールに重点を置く。	
	Development Macroeconomics II	開発マクロ経済学 II では、開発途上国の社会経済開発に関する課題に取り組むために必要なマクロ経済分析手法の獲得を目指す。国内総生産、物価、利子率、失業率などマクロ変数の相互関係や景気変動・経済成長に関して理解した上で、開発途上国における金融・財政政策といったマクロ経済政策の効果に関する分析手法を習得する。開発マクロ経済学 II では、開発マクロ経済政策を議論する上で重要な経済成長論とその分析ツールに重点を置く。	
	Agriculture Production Economics	農業生産分析に必要な農業経済学の基本的な理論的枠組みを理解することを目的とする。農業生産関数や様々な生産モデル、更に費用関数といった基本的分析ツールの導入から、農業生産の文脈における不確実性やリスクに対する生	

専門 モジ ュ ー ル 科 目		産戦略までを取り扱う。	
	Peace, Conflict, and the Environment	平和・紛争と環境の関係を説明する理論的枠組みと、その関係を推進するための実践的課題を概観する。コースの前半では、気候変動と紛争のネクサス、環境平和構築、人新世に関する学問の発展をたどる。後半では、アフリカから南極まで、世界のさまざまな地域における持続的な問題や新たな問題を分析する。講義だけではなく、インタラクティブで革新的な学習アプローチ（ロールプレイングやシンク・ペア・シェア）により、学生が協力的かつ魅力的な環境でこれらの問題を理解できるようなプラットフォームを提供する。	
	Urban Policy	世界中の都市環境が直面している問題に焦点を当て、都市政策立案に影響を与える制度的、歴史的、社会経済的、環境的ダイナミクスを紹介する。その目的は、都市計画や政策がどのように策定され、実施されるのか、また、都市政策の策定が地域的、世界的にどのような結果をもたらすのかを理解することである。都市問題を理解し分析するために必要な知識とスキルを学生に提供し、革新的かつ体系的な解決策を提供することで、将来の都市政策立案プロセスにおいて重要な役割を果たすことができるようにする。	
実 践 モ ジ ュ ー ル 科 目	Internship	社会が激しく変動し、これまでの常識が覆される複雑で不確実な時代に、Society 5.0 を国際展開するためには、実践科学のためのスキルや訓練をキャンパス内や現地で重ねて経験する必要がある。そこで実践モジュール科目では、これらに関連する科目を選択必修科目として開設する。本科目「インターンシップ」は現地での就業体験を通じて、実践科学のための訓練を行う科目として位置づけられる。国内外の民間企業、国際機関、政府機関、非営利団体などへのインターンシップを通じて、企業や組織の運営を学び、関連する社会の課題解決に貢献しつつ、実践的な能力の養成とキャリアオプションの拡大を図る実習科目である。	
	Fieldwork	社会が激しく変動し、これまでの常識が覆される複雑で不確実な時代に、Society 5.0 を国際展開するためには、実践科学のためのスキルや訓練をキャンパス内や現地で重ねて経験する必要がある。そこで実践モジュール科目では、これらに関連する科目を選択必修科目として開設する。本科目「フィールドワーク」は現地での調査研究活動を通じて、実践科学のための訓練を行う科目として位置づけられる。フィールドワークとは、国内外のフィールドで実施される調査研究活動である。本科目は、指導教員の指導のもとに学生が作成した、フィールドワーク実施計画書(調査目的、期間、地域、調査内容、連絡先、指導教員のサインなど)に基づき行われる。	
	Young Professionals Preparing for Careers in International Organizations A	社会が激しく変動し、これまでの常識が覆される複雑で不確実な時代に、Society 5.0 を国際展開するためには、実践科学のためのスキルや訓練をキャンパス内や現地で重ねて経験する必要がある。そこで実践モジュール科目では、これらに関連する科目を選択必修科目として開設する。本科目「国際公務員実務演習 A」はワークショップへの参加を通じて、実践科学のためのスキルを身につける科目として位置づけられる。 本演習では、参加型計画、プロジェクトモニタリングなどの政府開発援助（ODA：Official Development Assistance）の主要なスキームを取り上げ、プロジェクトの実践的な管理方法や DAC 5 基準を使用した事業評価を学ぶ。具体的にはプロジェクト・サイクル・マネジメント（PCM：Project cycle management）に関するワークショップに参加し、プロジェクトのモニタリングと評価方法を実施し、国際協力プロジェクトの事例研究を学ぶ。到達目標は次のとおり。 1) PCM ワークショップを通じて PDM(Project Design Matrix)の論理を理解する 2) プロジェクトのモニタリングと評価のためのアーンド・バリュー・マネジメントと DAC 5 の基準を学ぶ 3) 国際協力事業のモニタリングと評価を実施する。	
	Young Professionals Preparing for Careers in International	社会が激しく変動し、これまでの常識が覆される複雑で不確実な時代に、Society 5.0 を国際展開するためには、実践科学のためのスキルや訓練をキャンパス内や現地で重ねて経験する必要がある。そこで実践モジュール科目では、	共同

	Organizations B	<p>これらに関連する科目を選択必修科目として開設する。本科目「国際公務員実務演習 B」は国際的に通用する文書作成の作法体験を通じて、実践科学のためのスキルを身につける科目として位置づけられる。</p> <p>本演習は、将来、国際公務員や国際 NGO への就職を目指すためのキャリア開発について基礎的な知識を得て自らのキャリア計画を作成することに加え、履歴書の作成や国連の採用サイトを使った演習、プロジェクトプロポーザルの書き方など、必要な文書を準備するための実践的スキルを身につけることを目的とする。</p>	
実践モジュール科目	Developing Designing Ability	<p>(概要) 社会が激しく変動し、これまでの常識が覆される複雑で不確実な時代に、Society 5.0 を国際展開するためには、実践科学のためのスキルや訓練をキャンパス内や現地で重ねて経験する必要がある。そこで実践モジュール科目では、これらに関連する科目を選択必修科目として開設する。本科目「デザイン能力開発」は政策ディベートの体験を通じて、実践科学のためのスキルを身につける科目として位置づけられる。</p> <p>インターンシップ研修前の過程で、相互の多次元知識を批判的に関連づけ、自らの経験を他者に説明・議論するために、ディベートの実践力を習得する。期待される効果は、</p> <p>(1) 専門職業人になるためのコンピテンシーを理解し、ディベート技法を習得すること。</p> <p>(2) ディベート演習を通じて、課題解決能力すなわち課題の本質を理解し、複数の解決策を模索し、関連する知識や能力を動員して解決すること、を身につけること。</p> <p>(3) 実践的ディベートを通じて、複眼的な視野からディベートの主題を理解し、分析的にかつ論理的に議論を展開できる能力を身につけること。</p> <p>(オムニバス方式/全 15 回)</p> <p>(10 藤原 章正/2 回) 背景、目的、ディベートの概要について講義を行う。</p> <p>(25 李 漢洙/1 回) ディベート技術について講義を行う。</p> <p>(10 藤原 章正・25 李 漢洙・41 NIRAJ PRAKASH JOSHI/12 回) (共同) 実践ディベートの準備、実践ディベート、中間評価、ディベート本戦、公開ディベート、振り返りを行う。</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部)</p> <p>講義 6 時間 演習 24 時間</p>
修士論文モジュール科目	Seminar on Master Thesis	<p>(概要) 研究領域を融合させた実践科学の分野における研究力を習得し、専門力を応用して学術論文を完成させるために必要となる応用的専門知識とスキルを習得することを目標とする。</p> <p>広範な課題発見能力、中核となる専門分野における研究の遂行に必要な専門知識 (研究倫理を含む)、理論、計算手法、実験手法、測定・観測技術等を習得させるとともに、修士論文作成のための研究指導を行う。具体的な研究課題の設定、検討課題の整理、既存研究のレビュー、調査・実験の方法、データ処理・分析手法、論文執筆、発表方法の習得 (研究倫理を含む) 等、研究の遂行に必要な知識及び技能を習得させるため、指導を行う。下記の各主指導教員からの指導を主とするが、副指導教員による異分野からの指導も加える。</p> <p>(5 江口 浩二) (6 栗田 雄一) (7 山本 透) (8 石井 抱) (9 高木 健) (28 ANDRADE SILVA DANIEL GEORG) (29 RAYTCHEV BISSER ROUMENOV) (30 林田 智弘)</p> <p>実世界からデータ取得・収集するセンシング・ネットワーク技術、データから予測や知見を導き出す AI 分析技術、これらを人間が生活する実世界に反映させる制御・ロボティクス技術に係る専門知識を習得するとともに、社会の要請に応じた多様なサイバーフィジカルシステムの高度化及び社会実装に関する研究指導を行う。</p>	

<p>修士論文モジュール科目</p>		<p>(3 張 峻屹) (10 藤原 章正) (11 馮 涛) (24 力石 真) (27 鹿嶋 小緒里) (31 塚井 誠人) (43 清家 美帆) 自動車や公共交通機関から歩行者に至るまで、移動体から発信・収集される各種時空間リアルタイム情報、走行挙動や渋滞、CO2 排出、事故、災害などの過去の履歴データを組み合わせた AI ビッグデータを解析し、地域の経済発展と生活の質の向上を目指し社会的に最適な解を導くモビリティの制御や計画に関する研究指導を行う。</p> <p>(12 市川 貴之) (13 松村 幸彦) (25 李 漢洙) (32 宮岡 裕樹) (33 布施 正暁) (34 金田一 清香) (61 久保田 徹) エネルギー利用においてカーボンニュートラルを実現するために、エネルギー利用システムの高効率化、変動するエネルギーの変換及び貯蔵、バイオマスエネルギーの有効利用、さらには、エネルギー問題と環境問題を社会科学的視点で理解することで、地域の経済発展と生活の質の向上を目指し、社会的に最適な解を導くエネルギーの制御や計画に関する研究指導を行う。</p> <p>(14 島田 昌之) (15 西堀 正英) (16 杉野 利久) (17 小池 一彦) (18 丸山 史人) (26 保坂 哲朗) (35 若林 香織) (36 KUMRUNGSEE THANUTCHAPORN) (37 渡邊 園子) (38 TRAN DANG XUAN) (44 富永 淳) 情報・AI 技術によるセンシングやアナリティクスを取り入れた生物学と環境学をコアとして、そこに機械工学、ロボット技術を導入する食資源の新技術体系の構築に関する研究指導を行う。</p> <p>(4 久保 達彦) (19 新福 洋子) (20 浦川 将) (21 内藤 真理子) (22 加来 真人) グローバルな視点を持ちつつ地域の課題に先端科学技術の動向も踏まえて取り組み、諸外国の新たな医療や保健政策、ICT を活用した遠隔医療や遠隔リハビリテーション、工学的手法を用いたロボトリハビリテーションやロボット介護など、スマート社会の実現に関する研究指導を行う。</p> <p>(1 吉田 雄一郎) (2 市橋 勝) (23 MAHARJAN, KESHAV LALL) (39 高橋 与志) (40 シャリフィ アユーブ) (41 NIRAJ PRAKASH JOSHI) (42 SIMANGAN DAHLIA COLLADO) (62 金子 慎治) (75 後藤 大策) AI や機械学習などのデジタル情報分析技術を駆使し、即時かつ定量的な意思決定科学に関する専門知識を習得するとともに、社会の革新を確実なものにするための「EBPM に裏付けられた」新しい政策立案・展開・実施・分析・評価と、そのガバナンスの実装について研究に関する研究指導を行う。</p>	
--------------------	--	---	--

授 業 科 目 の 概 要

(大学院スマートソサイエティ実践科学研究院 博士課程後期)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通科目 持続可能な 発展科目	スペシャリスト型 SDGs アイデアマイニング学生セミナー	博士課程後期の学生が国籍や専門を超え一堂に会し、学生同士のブレインストーミングによって、SDG を達成するためのアイデアを発掘する。ファシリテーターの教員が示す UNDP の「重要な事実」を踏まえ、ひとつの SDG に対して異なる専門分野から意見を出し合い、ペアのディスカッション、グループ内でのディスカッションを通じて、ひとつのプロポーザルを導く。最終的にはその成果を全員の前でプレゼンテーションし、全体として 17 つの SDGs をカバーする包括的なアプローチを提案する。	共同
	SDGs の観点から見た地域開発セミナー	博士課程後期の学生が国籍や専門を超え一堂に会し、広島県及び県内市町村の 1 つを取り上げ、SDGs の観点から課題を議論し、解決策を探索するセミナーである。ファシリテーターの教員が示す UNDP の「重要な事実」及び当該県市町村のプレゼンを踏まえ、その課題に関して異なる専門分野から意見を出し合い、最終的には課題の分析と解決策をひとつのプロポーザルにまとめ、市民も含めた全員にプレゼンテーションする。	共同
	普遍的平和を目指して	<p>(概要) 本講義では、今日の国際社会において、緊急性の高い諸問題をテーマに、それぞれの専門領域の視点からその解決策を導き出す能力を身につけることを目指す。取り扱うテーマは、例えば、貧困・飢餓・難民・平和構築・ジェンダー・環境問題、世界各地の紛争などである。それぞれのテーマに関して具体例とともにその現状を学び、同時にその解決策を具体的かつ理論的に提示できる能力を身につける。理想社会と現実の間には、大きなギャップも存在する。本講義で得た知見によって、そのギャップを説明し、かつ乗り越えることを目指したい。</p> <p>(オムニバス方式/全 8 回)</p> <p>(54 友次 晋介/4 回) 原爆被爆体験 環境劣化と紛争 トランスサイエンスとリスク社会、デュアルユース問題 貧困・飢餓・難民・差別等の構造的暴力</p> <p>(55 山根 達郎./4 回) 地域紛争と平和構築 学術・科学研究における専門領域と平和</p> <p>(オムニバス方式/全 8 回)</p> <p>(56 VAN DER DOES LULI/2 回) 講義の概要・普遍的平和とは何か、被爆と救護、応急復旧</p> <p>(41 川野 徳幸/1 回) 原爆被爆被害一からだところ</p> <p>(54 友次 晋介/1 回) 地球規模課題としての核廃絶</p> <p>(43 中坪 孝之/1 回) 生物多様性と南北問題</p> <p>(57 掛江 朋子/1 回) 紛争の原因と解決手段：紛争解決論からのアプローチ</p>	オムニバス方式

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">大学院共通科目</p>		<p>(42 保田 浩志／1回) 国連科学委員会（UNSCEAR）の使命と活動</p> <p>(63 隈元 美穂子／1回) 国際連合の役目・現場からの視点</p>	
	<p>医療情報リテラシー活用</p>	<p>（概要）がんゲノム情報を用いる新しいがん治療の開発や、有効な治療法を確立するための臨床研究をはじめ、電子カルテの普及によりビッグデータとして取り扱うことが可能になったカルテ情報を用いた疫学研究など、医学研究では医療情報を取り扱う研究分野の重要性を増している。このため、これからの医療関連分野で活躍するには、個人情報保護などの倫理的な観点も含めて様々な医療情報をどのように取り扱うかを学ぶことが必須となっている。本授業では、医療情報を処理するために必要な知識、解析結果の応用・活用などについて基礎的な解説をするとともに、演習を行い、医療情報の解析法について履修する。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>(44 田中 純子／2回) NDB（National Data Base）などの大規模医療データベースの種類、概要、疫学研究への活用</p> <p>(45 吉村 健一／1回) 臨床研究データ解釈におけるリテラシーとその活用</p> <p>(61 三木 大樹／1回) ゲノム情報の種類と、ゲノム情報を用いた研究の取扱規則、功罪や有用性、応用と活用</p> <p>(46 三原 直樹／1回) 医学医療分野におけるデータの種類の種類・利活用における課題～病院情報システムの観点より～</p> <p>(47 大上 直秀／1回) がんゲノム情報の概要、課題、応用と活用</p> <p>(2 久保 達彦／1回) 災害医療活動における標準データセット構築手法とその活用</p> <p>(64 阿部 伸一／1回) 保健医療分野におけるビッグデータ・AIの応用と将来の展望及び課題</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p>リーダーシップ手法</p>	<p>組織でメンバーをリードして仕事を進めるのみならず、自身のキャリア開発と自己実現を図る上でもリーダーシップ力は不可欠である。本授業では、まず将来のキャリアパスの選択肢と社会の多様な場で活躍するために必要な能力等について概観し、自己実現にむけた自身の強みと弱みを理解する。内省と自己理解を踏まえた上で、国内外のリーダーの実像も交えながら、リーダーに求められる特性について概説する。また、リーダーシップを発揮するために必要な要素について実例と演習を通じて理解を深めるとともに、大学院における研究活動の中で自らのリーダーシップ力や他者への影響力を向上させるために何ができるかを考える。授業の全編を通じて、クラス参加者での積極的なグループ討議とディスカッションを行う。</p>	
<p>イノベーション演習</p>	<p>新たな社会的・経済的価値を生み出すためには、科学的発見や技術的発明を効果的に融合し発展させることが必要である。近年では異業種や異分野間で知識、技術、サービス、ノウハウなどを組み合わせることで新たな価値を生み出すオープン・イノベーションが進んでいる。本授業では、新たな社会的・経済的付加価値を生み出す（＝イノベーション）ために必要となる姿勢やアプローチについて理解するとともに、企業等が抱える実際の</p>		

		<p>課題に触れ、その解決プロセスを通じて、異なる「知」「技術」「分野」を融合する力と他者と協働する力を習得する。企業等が提案する課題毎に数名のグループを形成し、異なる分野の学生のみならず、企業・団体等の関係者と協働することで、多様な視点や考え方を理解し、新たな価値やネットワークを生み出すプロセスを疑似体験する。なお、人文社会系から理工農系までの幅広い学生が授業で討論しやすいように配慮する。</p>	
	事業創造概論	<p>発明とイノベーションは似ているようで、実は大きく異なる。斬新なアイデアや発明でも、商業化されなければイノベーションにならない。日本経済が数十年にわたって停滞してしまったのは、日本企業のイノベーション力が低下したことが主因である。日本は科学技術のレベルが高いにも関わらず、開発の成果を新しい事業に結びつけられる人材が不足している。近年、科学者にもアントレプレナーシップ（起業家の思考と行動）が求められるようになったのはこのような事情がある。座学だけでなく、授業内演習を通じてアントレプレナーシップについて考察し、事業創造の基礎を学ぶ。特に技術の商用化に焦点をあて、製品開発と顧客開発の違いを理解し、演習などでその感覚をつかむことなどを到達目標とする。ビジネスの知識は問わない。コミュニケーション能力の向上も目標の一つなので、受講者には授業に参加し積極的に取り組むことを求める。</p>	
実践 知の 開発 モジ ュール 科目	Management and Entrepreneurship	<p>社会が激しく変動し、これまでの常識が覆される複雑で不確実な時代に、地域課題を克服しスマートソサイエティを実現させるためには、実践知を身につけ（実践知開発）、多文化共生の社会で応用する（実践知応用）ことにより、実践科学という新たな学術の構築と実践的研究の実行力が求められる。本科目「経営とアントレプレナー」は、実践知開発モジュール科目の選択必修科目として位置づけられる。</p> <p>伝統的な経営管理（マネジメント）を右利きととらえると、アントレプレナーシップ（起業家活動）は左利きの経営といえる。前者は、既存事業から価値を絞り出す（exploitation・活用）のに対し、後者は新しい価値を創造する（exploration・探索）のが目的である。企業や組織が永続するには、両利きの経営が求められる。本科目では、英語のビデオ教材などを用いて、経営とアントレプレナーシップの違いを学ぶ。両利きの経営の基本的な要素は、研究活動にもあてはまる。経営学的観点からの洞察を用いて、自らの研究活動を振り返ることで、経営とアントレプレナーシップを具体的にイメージできるようになることを到達目標とする。</p>	
	Technology Strategy and R&D Management	<p>社会が激しく変動し、これまでの常識が覆される複雑で不確実な時代に、地域課題を克服しスマートソサイエティを実現させるためには、実践知を身につけ（実践知開発）、多文化共生の社会で応用する（実践知応用）ことにより、実践科学という新たな学術の構築と実践的研究の実行力が求められる。本科目「技術戦略と研究・開発マネジメント」は、実践知開発モジュール科目の選択必修科目として位置づけられる。</p> <p>本講義では、技術経営の中心課題である技術戦略と研究開発管理を系統的に学習することを目標とする。技術資源を活用し企業や事業の目的を達成するため、技術の多面性と技術戦略の特徴を理解した上で、技術強化の方針および研究・開発（R&D）テーマを立案し、実行し、その成果を評価し、さらに次の戦略立案に反映する方法論を学ぶと同時に、知的財産戦略と今後の展開を説明する。研究・開発をマネジメントするために必要となるプロセス管理、資源管理と創造力・発想力を含む人材育成・キャリアパスを含む人材マネジメント及び組織の設計と運営の方法論を学ぶ。</p>	
	Academic Writing II	<p>社会が激しく変動し、これまでの常識が覆される複雑で不確実な時代に、地域課題を克服しスマートソサイエティを実現させるためには、実践知を身につけ（実践知開発）、多文化共生の社会で応用する（実践知応用）ことにより、実践科学という新たな学術の構築と実践的研究の実行力が求められる。本科目「アカデミック・ライティング II」は、実践知開発モジュール科目の選択必修科目として位置づけられる。</p> <p>本演習では、実際に、英語論文を書いて雑誌に投稿するための実践的ライティングについて、自らの研究の評価・投稿雑誌の選定・研究のデータの集め方なども含めて具体的に学ぶ。具体的な例により、論文についてのわ</p>	

		<p>かりやすい論理的構成を理解するとともに、英文の書き方の技法などについても学ぶ。</p>	
実践知の応用モジュール科目	Idea Mining Workshop	<p>(英文) The workshop aims to cultivate students' entrepreneurship and ideation skills to create a social business plan within the framework of SDGs.</p> <p>The purpose of this workshop is to practice entrepreneurship. Student teams are expected to create a technology/product based startup and write a business plan including all the building blocks of creating a social enterprise within the overall framework of Sustainable Development Goals. The workshop would cover broad spectrum of business issues in start-up creation – product development, market research, technology viability, fund raising, team formation, growth challenges and exit options. It is expected that participants at the end of the workshop would be able to assess their competencies and gain knowledge to translate it into real life situation to implement a business plan.</p> <p>(和訳) 社会が激しく変動し、これまでの常識が覆される複雑で不確実な時代に、地域課題を克服しスマートソサイエティを実現させるためには、実践知を身につけ(実践知開発)、多文化共生の社会で応用する(実践知応用)ことにより、実践科学という新たな学術の構築と実践的研究の実行力が求められる。本科目「アイデアマイニングワークショップ」は、実践知応用モジュール科目の選択必修科目として位置づけられる。</p> <p>データやテキスト・マイニング的手法を用い、実現性の高い政策やビジネス企画等を立案するワークショップであり、SDGsの枠組みの中でソーシャルビジネスプランを創造するために、学生の起業家精神と発想力を養うことを目的とする。ワークショップでは、製品開発、市場調査、技術の実現性、資金調達、チーム編成、成長のための課題、撤退の選択肢など、起業における幅広いビジネス上の問題を取り上げる。学生が自分の能力を評価し、それを実際の状況に置き換えてビジネスプランを実行するための知識を得ることができるようになることが期待される。</p>	
	Advanced Internship	<p>社会が激しく変動し、これまでの常識が覆される複雑で不確実な時代に、地域課題を克服しスマートソサイエティを実現させるためには、実践知を身につけ(実践知開発)、多文化共生の社会で応用する(実践知応用)ことにより、実践科学という新たな学術の構築と実践的研究の実行力が求められる。本科目「高度インターンシップ」は、実践知応用モジュール科目の選択必修科目として位置づけられる。</p> <p>学生各々が実施している専門領域研究と実社会との関連を意識させ、持続可能な社会構築できる研究者、高度職業人となるためには、専門研究が実社会の中で如何に研究され、社会実装に向けた開発が行われているかを理解することが重要である。そこで、国内外の学術機関及び企業などでインターンシップを行い、仕事としての研究の進め方、社会人・企業人との議論を通じたコミュニケーション能力の向上と、職業人としての社会性の涵養を図る。</p>	
	Advanced Fieldwork	<p>社会が激しく変動し、これまでの常識が覆される複雑で不確実な時代に、地域課題を克服しスマートソサイエティを実現させるためには、実践知を身につけ(実践知開発)、多文化共生の社会で応用する(実践知応用)ことにより、実践科学という新たな学術の構築と実践的研究の実行力が求められる。本科目「高度フィールドワーク」は、実践知応用モジュール科目の選択必修科目として位置づけられる。</p> <p>自己の専門分野に関わる国内外のフィールドで調査研究活動を実施する。本科目は、指導教員の指導のもとに学生が作成した、フィールドワーク実施計画書(調査目的、期間、地域、調査内容、連絡先、指導教員のサインなど)に基づき行われる。</p>	

<p style="text-align: center;">博士論文モジュール科目</p>	<p>Seminar on Doctoral Dissertation</p>	<p>(概要) 社会が激しく変動し、これまでの常識が覆される複雑で不確実な時代に、地域課題を克服しスマートソサイエティを実現させるためには、実践科学という新たな学術の構築と従前の研究領域での研究力がともに求められる。そこで博士論文モジュール科目では、研究領域を融合させた実践科学の分野において研究力と次世代へと継承する能力を養う。</p> <p>広範な課題発見能力及び解決能力、中核となる専門分野における研究の遂行に必要な専門知識(研究倫理を含む)、理論、計算手法、実験手法、測定・観測技術等を習得させるとともに、博士論文作成のための研究指導を行う。下記の各主指導教員からの指導を主とするが、副指導教員による異分野からの指導も加える。</p> <p>(3 江口 浩二)(4 栗田 雄一)(5 山本 透)(6 石井 抱)(7 高木 健) (22 ANDRADE SILVA DANIEL GEORG) (23 RAYTCHEV BISSER ROUMENOV) (24 林田 智弘)</p> <p>実世界からデータ取得・収集するセンシング・ネットワーク技術、データから予測や知見を導き出す AI 分析技術、これらを人間が生活する実世界に反映させる制御・ロボティクス技術に係る専門知識を習得するとともに、社会の要請に応じた多様なサイバーフィジカルシステムの高度化及び社会実装に関する研究指導を行う。</p> <p>(8 藤原 章正)(9 張 峻屹)(10 馮 涛)(25 力石 真) (26 塚井 誠人)(27 鹿嶋 小緒里)</p> <p>自動車や公共交通機関から歩行者に至るまで、移動体から発信・収集される各種時空間リアルタイム情報、走行挙動や渋滞、CO2 排出、事故、災害などの過去の履歴データを組み合わせた AI ビッグデータを解析し、地域の経済発展と生活の質の向上を目指し社会的に最適な解を導くモビリティの制御や計画に関する研究指導を行う。</p> <p>(11 市川 貴之)(12 松村 幸彦)(28 李 漢洙)(29 宮岡 裕樹) (30 布施 正暁)(31 金田一 清香)(50 久保田 徹)</p> <p>エネルギー利用においてカーボンニュートラルを実現するために、エネルギー利用システムの高効率化、変動するエネルギーの変換及び貯蔵、バイオマスエネルギーの有効利用、さらには、エネルギー問題と環境問題を社会科学的視点で理解することで、地域の経済発展と生活の質の向上を目指し、社会的に最適な解を導くエネルギーの制御や計画に関する研究指導を行う。</p> <p>(1 小池 一彦)(13 島田 昌之)(14 西堀 正英)(15 杉野 利久) (16 丸山 史人)(21 若林 香織) (32 KUMRUNGSEE THANUTCHAPORN) (33 保坂 哲朗) (34 渡邊 園子)(35 TRAN DANG XUAN)</p> <p>情報・AI 技術によるセンシングやアナリティクスを取り入れた生物学と環境学をコアとして、そこに機械工学、ロボット技術を導入する食資源の新技术体系の構築に関する研究指導を行う。</p> <p>(2 久保 達彦)(17 新福 洋子)(18 浦川 将)</p> <p>グローバルな視点を持ちつつ地域の課題に先端科学技術の動向も踏まえて取り組み、諸外国の新たな医療や保健政策、ICT を活用した遠隔医療や遠隔リハビリテーション、工学的手法を用いたロボットリハビリテーションやロボット介護など、スマート社会の実現に関する研究指導を行う。</p> <p>(19 市橋 勝)(20 吉田 雄一郎)(36 高橋 与志) (37 シャリフィ アユーブ)(38 NIRAJ PRAKASH JOSHI) (39 SIMANGAN DAHLIA COLLADO)(51 金子 慎治) (59 後藤 大策)</p> <p>AI や機械学習などのデジタル情報分析技術を駆使し、即時かつ定量的な意思決定科学に関する専門知識を習得するとともに、社会の革新を確かなものにするための「EBPM に裏付けられた」新しい政策立案・展開・実施・分析・評価と、そのガバナンスの実装について研究に関する研究指導を行う。</p>
--	---	--